

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	アパレル企画論						
担当教員	福西 由美子					科目ナンバー	U73190
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	消費者分析とアパレル商品企画のプロセスを身につける。						
授業の概要	アパレル商品企画において必要となる消費者ニーズ、ファッション生活を観察することを通じて、ファッション市場の特性や動向を分析する力、商品企画に関する基本的な知識を身につける。消費者の様々な生活スタイルやシーズン、ファッションタイプ、トレンド感性を理解した上で、トレンド情報の収集、市場調査の分析を行う。具体的な商品企画のステップに沿って、自らが企画・立案したオリジナル・ブランドの商品企画書を作成する。						
到達目標	(1) アパレル商品の種類と特性を説明することができる。【知識・理解】 (2) 商品企画の背景、意図、商品化までのプロセスを理解し、企画構想に繋げることができる【汎用的技能】 (3) 新規のアパレル商品企画・提案をすることができ、企画書として表すことができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 消費者行動とファッション表現 第2回 ライフスタイルとファッション 第3回 ファッションイメージ、トレンド感性の分類 第4回 感覚年齢（マインドエイジ）の分析 第5回 アパレル産業の仕組みとアパレル商品知識 第6回 ファッションマーケティングと商品企画 第7回 アパレル商品企画の基本ステップ 第8回 ターゲット企画 第9回 情報企画 第10回 商品コンセプト企画 第11回 コーディネート企画 第12回 アイテム企画 第13回 オリジナルのアパレルブランド企画(1) プロモーション 第14回 オリジナルのアパレルブランド企画(2) 企画書のまとめ 第15回 授業のまとめと講評						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：ファッション雑誌、小売店の店頭ディスプレイ等を日常的にリサーチすること、ファッション分野だけでなくアートやカルチャーにも視野を広げ、「トレンドを捉える」意識をもつこと。 収集した情報、切り抜きなどの資料をストックし、各課題の材料とする。＜2時間＞ 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点を確認・整理する。＜2時間＞						
授業方法	講義・演習形式で行う。 授業テーマに基づき、グループ内でのマップ作成・グループ発表を行う。 講義内容をもとに資料やフィールドワークで収集した情報、自由な発想で各自のオリジナル・ブランド商品企画書を作成、松蔭manabaに提出する。						
評価基準と評価方法	授業内課題 70%：レポート、企画書の内容、完成度を評価する。 到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認。 授業態度 30%：グループワークの取り組み、参加度、積極性を評価する。 課題のフィードバック方法：グループワークの課題や企画書については、授業で紹介・解説する。						
履修上の注意	授業回数の2/3以上の出席に満たない者は、受験資格を失うものとする。 20分以上の遅刻・早退の場合は、欠席とする。 スマートフォン等は使用指示がない限り、机上に置かないようにする。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	「ファッション・マーケティング」菅原正博・本山光子共著ファッション教育社 ISBN978-4-7952-4177-0C2063 「ファッションビジネス[1]改訂版」日本ファッション教育振興会 ISBN978-4-931378-28-5-C2034 「文化ファッション大系 ファッション流通講座7 コーディネートテクニック演出編」文化服装学院編 ISBN978-4-579-10941-8C5377						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	アパレル生産実習						
担当教員	戸田 賀志子					科目ナンバ－	U22120
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜1～2	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	衣服制作における技能の習得と、アパレル製品が仕上がるまでの諸工程を理解する。						
授業の概要	衣服制作における技能の習得と、アパレル製品が仕上がるまでの諸工程を理解することを目的とする。日常生活を送る上で必要な基礎縫いや身近な小物の制作を通じて、被服の手入れや修繕に必要な技能を身につける。さらに、これらの技能を生かし、複数の実物制作に取り組むことで縫製技術の定着を図り、アパレル制作に必要な基礎的知識及び技能を総合的に養う。						
到達目標	アパレル製品の設計・縫製過程を理解し、完成させるまでの技能を身につけることができる。(知識・理解)(汎用的技能)						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 裁縫道具の種類と使い方、手縫いの基礎 第3回 手縫いの基礎と仕上げ 第4回 ミシンの使い方 第5回 ミシン縫いの基礎と仕上げ 第6回 部分縫い(ボタン・ボタンホール、鍵ホック) 第7回 袋物の制作1 巾着(紐通し、ロックミシン) 第8回 袋物の制作1 巾着(仕上げ) 第9回 袋物の制作2 ポーチ(ファスナー) 第10回 袋物の制作2 ポーチ(仕上げ) 第11回 袋物の制作3 バッグ(布地裁断) 第12回 袋物の制作3 バッグ(縫製) 第13回 袋物の制作3 バッグ(ポケット付け) 第14回 袋物の制作3 バッグ(仕上げ) 第15回 実習ノートの評価						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習：衣服について日頃から関心を持ち、デザイン・縫製・使い心地など自分なりに考察しておくこと。 また本実習ではミシンを使用するので、家庭用ミシン程度は使えるように自己学習しておくこと。(学習時間90分) 授業後学習：欠席すると制作が遅れます。また、授業に出席していても宿題となる部分が多くあります。授業内で詳しく説明するので、宿題は必ず各自進めておくこと。(学習時間90分)						
授業方法	実習：本実習では小物作成を行う中で、手縫いやミシンを用いた基礎縫いを中心的に扱う。授業は基本的に個人単位で進めるが、一部履修者間での教え合いを取り入れることがある。各回で上手くいった点や反省点などを整理すること。						
評価基準と評価方法	作品課題60% レポート20% 実習取り組み態度 20% 作品課題：作品の完成度を評価する。(到達目標：「完成させるまでの技能を身につけることができる」の確認) レポート：レポートのまとめ方、考察の内容について評価する(到達目標：「アパレル製品の設計・縫製過程を理解」の確認) 実習取り組み態度：毎回の実習に主体的に臨んでいるか、自らの課題を意識し粘り強く取り組んでいるかについて評価する。(到達目標全体の確認)						
履修上の注意	・実習に用いる材料はすべて自己負担 ・購入に際しては題材に合った布地を自ら選ぶこと。 ・10回以上の出席がないと受講資格を失う。実習のため遅刻や欠席をすると作業が大幅に遅れる。遅れた場合は次週までに必ず進めておくこと。 ・課題作品は期限内に必ず提出すること。 ・質問は授業の前後で受けつける。不明なままにしないこと。						
教科書	必要に応じてプリントを配付する						
参考書	授業の内容に応じて紹介する						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	アパレルデザイン論						
担当教員	藤井 雅範					科目ナンバー	U73200
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	アパレルデザインに関する表現方法や素材、デザイン、色彩などの基本的な知識を身につける。						
授業の概要	私たちが普段着用、購入するアパレル商品は様々なデザイン要素の組み合わせで成り立っている。本講義では、アパレルデザインに関する基本的な知識を身につけ、現在販売されているアパレル商品がどのようにデザインされているか考える。アパレルデザインの提案へと発展させていく。						
到達目標	アパレル商品の機能性、審美性、表現方法を知り、服飾デザインの基本について説明できる。【知識・理解】適切な素材、デザイン、色彩の組み合わせによるバリエーションを提案することができる。【汎用的技能】アパレルデザインにより、更に質の高い衣生活のあり方を提案し、表現できる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 アパレルとは、アパレルの商品企画 第3回 ファッションビジネスとは、ブランドについて 第4回 ファッションの変遷① パリモードの変遷 第5回 ファッションの変遷② 日本のファッションの変遷 第6回 衣服デザインの基礎① 形態 第7回 衣服デザインの基礎② 衣服のディティール 第8回 衣服デザインの基礎③ 色彩 第9回 衣服デザインの基礎④ 素材 第10回 流行とは何か、ファッションとテイスト 第11回 現在のファッションのトレンドについて 第12回 現代ファッションが取り組む問題 第13回 情報の収集と分析 第14回 デザイン構成の要素 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	[授業前準備学習：2時間] SNS、ファッション情報サイト、ファッション雑誌等で、積極的に情報収集し、授業の理解に繋げる。 内容の理解につなげる。 [授業後学習：2時間] 授業での内容をまとめ、理解できない事柄について復習し、必要であれば、次回授業での質問事項としてまとめる。						
授業方法	講義 授業内容に応じて、レポート、実際にデザインを考案する等の課題を課す。 課題にはディスカッション、グループワークを含む						
評価基準と評価方法	課題70% 授業態度30% デザインやレポート、リサーチ等各課題を総合的に評価する。						
履修上の注意	提出物の期限を厳守すること。 10回以上の出席がないと、受講資格を失う。						
教科書	改訂 アパレルデザインの基礎 日本衣料管理協会 03-3437-6416 発行 日本印刷株式会社（ISBNなし）						
参考書	なし						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	衣生活論						
担当教員	花田 美和子					科目ナンバ	H11010
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	衣生活学入門						
授業の概要	衣生活学の入門として位置づけ、人と被服、社会と被服という観点から衣生活をとらえ、幅広い内容を学ぶ。被服と社会との関連、被服自体のなりたち、被服が人の心と体に及ぼす影響について習得することを目標とする。具体的に取り扱う内容は、被服の歴史と文化、被服の構成、被服の素材、染色、被服衛生、高齢者・障害者の被服とユニバーサルファッション、被服の管理と洗濯、被服の取扱いと表示、被服の廃棄とリサイクル等である。また、衣料管理士のしごとについても解説する。						
到達目標	・被服と社会とを関係づけることができる【知識・理解】 ・被服のなりたちについて説明することができる【知識・理解】 ・被服と人の心身とを関係づけることができる【知識・理解】						
授業計画	第1回 人と被服との関わりについて考える 第2回 被服の起源 第3回 被服の歴史と文化①和服の歴史 第4回 被服の歴史と文化②洋服の時代へ 第5回 被服の未来 機能性とデザイン 第6回 民族と衣生活 第7回 自然環境と被服 第8回 レポート課題のプレゼンテーション [PC必携] 第9回 ライフスタイルと被服① 衣生活の現状 第10回 これからの衣生活、グループディスカッション [PC必携] 第11回 ライフスタイルと被服② TPOとフォーマルウェア 第12回 ライフスタイルと被服③ ライフサイクルから見た衣服設計 第13回 衣服の取扱いと表示 第14回 被服の廃棄とリサイクル 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：テキストの該当箇所を読んで予習しておく（60分） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所をまとめプリントで確認する。（120分）						
授業方法	講義、動画視聴等を含む。 BYOD対象科目						
評価基準と評価方法	平常点 40%、試験とレポート課題 60% 平常点は、各回提出の小課題の内容、記述の的確さ等を評価する。						
履修上の注意	出席を重視する。 ほとんどすべての授業回でmanabaを使用するため、PCの携行を推奨する。						
教科書	『生活科学テキストシリーズ 衣生活学』佐々井 啓・大塚美智子 編著（朝倉書店）ISBN 978-4-254-60633-1						
参考書	随時紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	インテリア・コーディネート実習						
担当教員	山本 嘉寛					科目ナンバ－	U12150
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	インテリア・コーディネートの概要を実習を通して確実に理解し、表現力の基礎を身につける。						
授業の概要	映像を利用した講義の後、内容に即した実習課題に取り組む。ほぼ毎回この流れで授業が進行する。ライフスタイル別のインテリア・コーディネートから開始し、カラーコーディネート、課題空間のゾーニングから家具計画、照明計画、窓装飾計画へと進める。						
到達目標	1. インテリアにまつわるスタイル、エレメント、コーディネートについて理解できる。【知識・理解】 2. 漠然としたイメージから具体的な空間を構想することができる。【汎用的技能】 3. 構想した空間を表現することができる。【汎用的技能】 4. 表現した空間を他者に伝えることができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回：授業のガイダンスとスタイル（様式）についての概説[PC必携] 第2回：各自のテーマとなる言葉の検討と、その言葉から連想される空間の実例集め[PC必携] 第3回：建築図面と寸法・縮尺の概説[PC必携] 第4回：インテリア模型の概説と演習[PC必携] 第5回：床仕上材の概説とそのコーディネート[PC必携] 第6回：壁仕上材の概説とそのコーディネート[PC必携] 第7回：天井仕上材の概説とそのコーディネート[PC必携] 第8回：建具の概説とそのコーディネート[PC必携] 第9回：窓装飾の概説とそのコーディネート[PC必携] 第10回：給排水衛生設備の概説とそのコーディネート[PC必携] 第11回：照明器具の概説とそのコーディネート[PC必携] 第12回：インテリア模型の制作(1)床・壁・天井・建具[PC必携] 第13回：インテリア模型の制作(2)仕上[PC必携] 第14回：仕様書・仕上表とコンセプトテキストの制作[PC必携] 第15回：製作した課題のプレゼンテーションと総評[PC必携]						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学修：仕様書・仕上表・インテリア模型の制作を進める。(1時間) 授業後学修：講義内容を復習し、小テストを松蔭manabaに提出する。(1時間)						
授業方法	実習・演習形式で行う。 インテリアにまつわるスタイル・エレメント・コーディネートについて概説し、小テストにて内容理解を深める。 インテリアを着想する手がかりとして空間的なイメージを帯びた言葉を選び、連想する空間イメージをブラウザの画像検索機能やPinterest等を用いて収集する。仕様書・仕上表はExcelにて制作し、毎回の授業終了時にOneDriveを用いて提出する。収集したイメージやExcelデータはOneDriveにて共有し、受講生間での考え方の違いや共通点を認識しながら課題を進める。スチレンボードその他の材料を用いてインテリア模型を制作する。制作した課題の要旨をテキストにまとめる。仕様書・仕上表とインテリア模型を用いてプレゼンテーションを行う。 <BYOD対象科目>						
評価基準と評価方法	授業態度15%：実習への取り組みを評価する。 小テスト15%：授業内容の理解度を評価する。 仕様書・仕上表：30%：課題主旨とテーマの整合性、テーマとデザインの整合性、内容の充実度、独自性を評価する。 インテリア模型30%：模型と仕様書・仕上表の整合性、完成度、独自性を評価する。 プレゼンテーション10%：デザインしたアイデアを他者に分かりやすく伝達できているかを評価する。						
履修上の注意	■カッターナイフ、カッターナイフ替刃、ものさし（鋼尺推奨）、のり、はさみ、紙袋(20x20x6[cm])の模型が入る奥行)を各自用意する。 ■その他、必要に応じて各自画材を用意する。 ■Microsoft Excel、Webブラウザ(Internet Explorer、Microsoft Edge、Google Chrome等)、OneDriveの基本的な操作知識が必要である。 ■実習のため毎回出席することが原則である。出席回数が開講日数の2/3に満たないものには、原則単位認定を行わない。30分以上遅刻・途中退出・早退の場合は欠席とする。						
教科書	なし						
参考書	■東京ホテル図鑑 実測水彩スケッチ集 / 著：遠藤慧 / 出版社：学芸出版社 / ISBN978-4-7615-2857-7 ■100 Interiors Around The World (Bibliotheca Universalis) / 編集：Balthazar Taschen, Laszlo Tasche n / 出版社：Taschen America Llc / ISBN-13: 978-3836557269 ■1000 Chairs (Bibliotheca Universalis) / 編集：Charlotte Fiell, Peter Fiell / 出版社：Tasche n America Llc / ISBN-13: 978-3836563697 ■1000 Lights (Bibliotheca Universalis) / 編集：Charlotte Fiell, Peter Fiell / 出版社：Tasche n America Llc / ISBN-13: 978-3836546768						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	香りの科学						
担当教員	鳥居 さくら					科目ナンバ	U73240
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	香りのさまざまな心理学的効用の考察						
授業の概要	においては人が生活していくうえで身の周りにあふれている。この授業では、香りの心理学的および生理学的メカニズムについて知ることを目的とする。香りの人間に対する作用のなかには、自律神経系、免疫系、認知機能など心身に対する影響があり、香りを用いた研究例をもとに理解する。また、精油を実際に使いながらそれらの心理的効用を理解する。						
到達目標	1. 嗅覚の仕組みに関する用語を理解し、それを用いて嗅覚の特徴を説明できる。[知識・理解] 2. 香りの心理学的効用を複数説明でき、生活の中で用いられる場面と関係づけて自分の考えを述べることができる。[知識・理解][態度・志向性] 3. 実際に精油に触れ、それらの違いを識別でき、特徴や心身に対する作用をわかりやすい言葉で表現することができる。[知識・理解]						
授業計画	1. オリエンテーション 2. 香りと自己表現 [PC必携] 3. 嗅覚の仕組み [PC必携] 4. 香りの鎮静覚醒作用 [PC必携] 5. 香りとストレス [PC必携] 6. 香りと睡眠 [PC必携] 7. 香りと疲労 [PC必携] 8. 香りと免疫 [PC必携] 9. 芳香物質の役割 [PC必携] 10. 精油の特徴 [PC必携] 11. 精油の作用 [PC必携] 12. 香りと記憶 [PC必携] 13. 香りの認知 [PC必携] 14. 嗅覚の個人差 [PC必携] 15. まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：各回の授業で取り上げる香りの効用について参考書などで予習する。（学習時間：2<時間>） 授業後学習：授業で実際に嗅いだ香りの特徴と効用を配布用紙に記入、もしくは、松蔭manabaに投稿する（学習時間：2<時間>）						
授業方法	主に講義形式でおこなう。各回精油の香りを実際に嗅ぎ、グループで香りの特徴についてディスカッションし、各回のテーマについて解説・講義をおこなう。manabaを利用し小テストやアンケートなどをおこなう授業回もある。 <BYOD対象科目>						
評価基準と評価方法	授業内での提出物および松蔭manabaへの投稿(50%)：香りの特徴を表現する力、生活のなかでの香りに関する自分の考えを表現する力を評価する。到達目標2および3に関する到達度の確認。 試験(50%)：嗅覚の仕組み、香りの特徴や効用に関する知識に関する理解度を評価する。到達目標1および3に関する到達度の確認。						
履修上の注意	10回以上の出席がないと、受講資格を失う。私語厳禁とする。						
教科書	なし。適宜、資料をmanabaに添付する。						
参考書	「〈香り〉はなぜ脳に効くのか アロマセラピーと先端医療」 NHK出版新書 ISBN：978-4140883853 「アロマセラピーの教科書」 新星出版社 ISBN：978-4405091658						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	家族関係学						
担当教員	稲見 直子					科目ナンバー	U72030
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	家族関係を多角的に捉え、家族・家庭生活と社会との関わりについて考える。						
授業の概要	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭生活と社会との関わりについて理解を深めるほか、家族・家庭生活を主体的に創造する力を身に付ける。						
到達目標	(1) 家族・家庭生活に関する多様な事象について科学的に理解することができる。【知識・理解】 (2) 家族・家庭生活の中から問題を見いだして課題を設定し解決策を構想できる。【汎用的技能】 (3) よりよい家族・家庭生活の実現に向け、生活を主体的に工夫・創造する態度を身に付けることができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 人の一生と家族 第2回 青年期の自立と家族 第3回 若者の恋愛と結婚 第4回 ジェンダーとセクシュアリティ 第5回 現代社会の働き方 第6回 少子化とその要因 第7回 近代家族論(1) 映画「クレイマー、クレイマー」鑑賞 第8回 近代家族論(2) <家族>の普遍性を問う 第9回 育児の国際比較(日本とスウェーデンを中心に) 第10回 法律と家族関係 第11回 介護と家族関係 第12回 高齢期の生活と福祉 第13回 グローバル化と家族 第14回 多様なパートナーシップ・家族 第15回 振り返りと期末テスト						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：各回の授業で扱うテーマに関する新聞記事を探して読み、下調べをする。<2時間> 授業後学習：各回の授業で扱ったキーワードを整理しまとめる。<2時間>						
授業方法	基本的に講義形式をとるが、授業内ではワークシートの記入やグループディスカッションなども取り入れ、学生の主体的な参加を促す。						
評価基準と評価方法	・授業参加度(30%)：授業に主体的に取り組んでいるか、ワークシートにおいて分析的に書けているかなどを総合的に評価。到達目標(1)(3)の確認。 ・小レポート(20%)：現代家族に関する新聞記事を基にしたレポートを作成し、内容などを総合的に評価。到達目標(2)の確認。 ・期末テスト(50%)：家族に関する専門用語の理解およびグラフ・表の読解を確認。到達目標(1)の確認。						
履修上の注意	・出席回数が全体の3分の2に満たない者は原則単位認定は行わない。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなし、遅刻3回で欠席1回とする。 ・授業中のスマホ操作・私語・居眠り禁止。注意しても改善されない場合は減点対象とする。						
教科書	適宜レジメと資料を配布する。						
参考書	神原文子・杉井潤子・竹田美知編著、2016、『よくわかる現代家族〔第2版〕』ミネルヴァ書房。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	家族文化演習							
担当教員	白坂 文					科目ナンバー	U73120	
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	ブライダル業界やブライダルビジネスの現状を理解し、業種や実態、ブライダルの歴史や慣習、挙式・披露宴、附帯するサービスに関する内容を学ぶ。また、ブライダルのオリジナル企画やブライダル・アイテムの制作も自身で行う。							
授業の概要	家族構成の変化として、結婚・出産・エンディングといったライフステージの変化があるが、本授業では特に「結婚」にフォーカスし、人々の結婚観や価値観の多様化・個性化と、専門結婚式場の事業拡大や異業種からの参入などの実態を考察する。また、本学の理念であるキリスト教の愛の精神と結婚式の関係を理解した上で、ブライダル・ビジネスの業種や業態、ブライダルの歴史や慣習、挙式・披露宴、附帯するサービスについての基礎的な知識とマーケティングやサービスに関する授業を演習形式で行う。							
到達目標	1. ブライダルに関する基礎知識を習得し、ブライダルの形体に応じた特徴を説明できる。【知識・理解】 2. 結婚式や披露宴の内容について調査し、各自オリジナルのブライダル・プランの企画を提案できる。【汎用的技能】 3. 各自が提案するブライダル・プランに沿ったブライダル・アイテムを制作できる。【汎用的技能】 4. ブライダル・プランやブライダル・アイテムについて自身の提案を発表して皆で議論し、最終授業では作品のプレゼンテーションができる。【態度・志向性】							
授業計画	【ブライダルの基礎知識】 第1回 ブライダル・マーケットの現状と顧客ニーズ 第2回 ブライダルの歴史と現代のブライダル・トレンド 第3回 本学での結婚式について ※(キリスト教センター：チャプレン、桑さん協力) 第4回 日本の挙式会場の特徴と披露宴スタイル (ホテル・専門式場・ゲストハウス・レストラン) 【ブライダル企画】 第5回 ターゲット設定・コンセプト設定 第6回 ブライダル衣装、ウェディングケーキ、ブライダル・アイテム 第7回 ディスカッション 第8回 オリジナルのブライダル・プランの作成 (提案・発表) 第9回 オリジナルのブライダル・プランの作成 (まとめ・発表) 第10回 プレゼンテーション 第11回 結婚式場ウェディングの実情 ※(学外研修：ザ・ヒルサイド神戸) 【ブライダル・コーディネート】 第12回 ブライダル・アイテムの制作 (提案・発表) 第13回 ブライダル・アイテムの制作 (まとめ・発表) 第14回 プレゼンテーション、レポート作成 第15回 ホテルウェディングの実情 ※(学外研修：ホテル・ラ・スイート神戸) 婚礼衣装の実情 ※(学外研修：ウェディングサロンイノウエ)							
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	事前学習：授業の最後に次週の授業テーマについてアナウンスするので、そのテーマについて調べておく。また、平素より結婚式や披露宴についての最近のトレンドや、神戸ウェディングの特徴についても意識してまとめるようにしておく。(学習時間2時間) 事後学習：授業の内容は毎時各自でまとめ、ブライダル・プランの立案に役立てるようにして、授業の中で自身の意見を提案し、皆で議論していく。最終的には自身で制作したブライダル・プランやブライダル・アイテムのプレゼンテーションを行う。(学習時間2時間)							
授業方法	演習							
評価基準と評価方法	授業態度：30% 授業への取り組み、積極性、プレゼンテーションを総合的に評価する。 レポート・作品：70% レポートの内容や作品の完成度で評価する。レポート・作品の評価後は、返却して各自にフィードバックする。							
履修上の注意	出席回数が開講日数の2/3に満たないものには、原則単位認定を行わない。 20分以上の遅刻は欠席とする。 授業は実習を伴うため、各自必要なものを持参すること。 配布プリントをファイリングするファイル(A4サイズ)と、ブライダル・プランの制作用のポケットファイル(A4サイズまたはB4サイズ)を準備する。 また、ブライダル・アイテムに関する材料費は自己負担となる。 ※学外研修を2回予定しているが、2回目については補講期間中になる。交通費については実費負担となる。詳細は授業内に伝達することとする。							

教科書	配布資料をテキストとする。
参考書	適宜、プリントを配布する。

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	家族文化論						
担当教員	稲見 直子					科目ナンバー	U73110
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	現代社会における子どもや子育て家族をめぐる諸問題や諸制度について理解する。						
授業の概要	この授業では、社会における「子ども」をテーマに、現代社会における子どもや子育て家族が抱える諸問題、およびその社会的背景を考察するほか、子どもや子育て家族の生活を支援するための諸制度について学ぶ。						
到達目標	(1)子ども（乳幼児）の発達と生活についての基礎的事項を専門用語を使って説明できる。【知識・理解】 (2)現代社会における子どもや子育て家族をめぐる諸問題や諸制度を理解し、それらの解決策を提案することができる。【汎用的技能】 (3)保育観察や子育て支援センターの見学を通して、子ども（乳幼児）と関わるためのコミュニケーションについて実践的に学ぶ。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 幼い頃の振り返り、妊娠と出産 第2回 生殖・出産をめぐる諸問題 第3回 <子ども>へのまなざしの歴史的変化 第4回 子どもの心身の発達と生活習慣 第5回 子どもの遊びと社会性の発達、保育観察事前指導 第6回 保育観察（ゲストスピーカー） 第7回 育児不安、母性神話、3歳児神話 第8回 児童虐待、社会的養護 第9回 ひとり親家庭と子どもの貧困 第10回 子育てを支えるしくみ、子育て支援センター見学事前指導 第11回 子育て支援センター見学（学外見学） 第12回 子どもの社会的孤立 第13回 介護と子ども 第14回 児童福祉 第15回 振り返りと期末テスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回の授業で扱うテーマに関する新聞記事を探して読み、下調べをする。＜2時間＞ 授業後学習：各回の授業で扱ったキーワードを整理しまとめる。＜2時間＞						
授業方法	基本的に講義形式をとるが、授業内ではコメントシートの記入やグループワークなども取り入れ、学生の主体的な参加を促す。						
評価基準と評価方法	・授業参加度（30%）：授業に主体的に取り組んでいるか、コメントシートにおいて分析的かつ論理的に書けているかなどを総合的に評価。到達目標（2）（3）の確認。 ・小レポート（30%）：保育観察および子育て支援センターの見学を基にしたレポートを作成する。到達目標（1）（2）（3）の確認。 ・期末課題（40%）：現代の子どもや子育てをめぐる諸問題や諸制度について、専門用語を用いて説明する。到達目標（2）の確認。						
履修上の注意	・授業回数の3分の1以上欠席した人は、定期試験の受験資格を失う。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。また遅刻3回で欠席1回とする。 ・学外見学を実施するため、それに伴う交通費や入場料が必要になる。						
教科書	適宜レジメと資料を配布する。						
参考書	『家族変動と子どもの社会学—子どものリアリティ／子どもをめぐるポリティクス』、野辺陽子編著・元森絵里子・野田潤・日比野由利・三品拓人・根岸弓、新曜社、2022、ISBN978-4788517950						

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	家庭電気・機械							
担当教員	福田 博也					科目ナンバー	U72150	
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	木曜5	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	身近な家電情報機器の役割や仕組みについて学ぶ							
授業の概要	生活と技術との関係について、生産、家庭生活、教育の視点から考察する。家庭生活に関わる機器、情報通信技術と各種ソフトウェアに関する基礎的な知識を得る（知識・内容の理解）。家庭生活に関わる情報通信技術と各種ソフトウェア、情報セキュリティ等について関心を持つ（関心・意欲）。情報通信技術と各種ソフトウェアに関する諸問題について、倫理的な見方や考え方を身につける（態度）。							
到達目標	・身近にある家庭生活に関わる情報通信技術と各種ソフトウェアの仕組みがわかるようになる。（知識・理解） ・適切な製品を選択できるようになる。（知識・理解） ・機器を安全かつ有効に使用できるようになる。（知識・理解）							
授業計画	授業計画は以下のとおり 第1回 食生活と機器 第2回 衣生活と機器 第3回 住生活と機器 第4回 電気・機械の基礎知識 第5回 家庭用のエネルギー 第6回 技術と環境問題 第7回 エネルギー変換、電池 第8回 情報機器のしくみ・ディジタル AV 機器 第9回 情報機器のしくみ・家庭用パーソナルコンピュータ 第10回 情報ネットワークの仕組み 第11回 情報の収集、処理、分析、発信 第12回 通信ネットワーク、インターネットの現状と近未来 第13回 個人情報とプライバシー、情報セキュリティ 第14回 家庭の省エネルギー 第15回 まとめと期末試験 ※受講生の理解度に応じて、授業テーマの順番を変更することがある							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：次回の授業で扱うテーマや専門用語について下調べをする（学習時間：2 時間） 授業後学習：授業内容について整理し、各回ごとにレポートとしてまとめる（学習時間：2 時間）							
授業方法	講義または、学生による発表							
評価基準と評価方法	期末試験 60%、提出物 20%、平常点 20% 程度の割合で総合的に評価する 平常点は、授業中に行う演習問題、発表内容などをもとに評価する							
履修上の注意	全授業回数数の 2/3 以上に出席しなければ、期末試験を受験した場合でも「不可」となる ※毎回の積み重ねが求められる授業です。身の回りの「エレクトロニクス」など、実用例を交えながら講義しますので、最後まで受講を続けて下さい ※普段から、身の回りの「電気」「電子」「機械」「情報」に目を向けるようにして下さい							
教科書	初回の授業で指示する							
参考書	適宜紹介する							

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	カフェマネジメント演習							
担当教員	藤田 佳子					科目ナンバー	U23460	
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	木曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	将来カフェ経営や企画業務を目指す者にとって必要なカフェのコンセプトづくりや経営の基礎知識を知り、具体的なメニューやセッティングをプロジェクトとして発表する。							
授業の概要	カフェのオープンに必要な準備やオープンまでのプロセス、開店後のマネジメント管理やイベント開催での集客についても考える。カフェの意義をなが考えながら、自らのイメージ店舗開店のシュミレーションまで行う。さらに、開店後のマネジメント管理、販売促進についての手法についても考えていく。							
到達目標	(1) 基礎知識をまなび、レイアウトやテーブルセッティングを作成していく。 【汎用的技能】(2) フィールドリサーチを行い、現代のニーズとテーマをコンセプトにカフェ経営における必要なメニュー作成、コーヒー紅茶の淹れ方の実践をおこなう。【汎用的技能】 (3) 基礎知識をもとにカフェ経営における販売促進や、イベントを企画し、発表する【汎用的技能】							
授業計画	第1回 カフェコンセプト設定方法と進め方の手順の基礎知識 第2回 設計と経営の基礎知識 (1) 第3回 設計と経営の基礎知識 (2) 第4回 テーブルセッティングの基礎知識 第5回 コーヒーの基礎知識と淹れ方演習 第6,7回 カフェコンセプトとコーディネートのフィールドリサーチ (校外学習を1日土曜日に開催予定) 第8回 フードメニューと構成の基礎 第9回 紅茶の基礎知識 第10回 紅茶の淹れ方 演習 第11回 実践ドリンクとフードメニューの作成と計画レポート 第12回 実践ドリンクとフードメニューの作成と計画レポート 第13回 開店イベント企画 プレゼンテーション準備 第14回 カフェPRプレゼンテーション (発表) 開催 第15回 カフェPRプレゼンテーション (発表) 開催							
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	復習をすることで最終発表の際の到達度をあげていくこと 課題レポートの完成 プレゼンテーションや企画イベント準備は授業外に学習 4時間							
授業方法	グループワーク ディスカッション プレゼンテーション フィールドワーク 実習							
評価基準と評価方法	授業態度や実習への取り組み40% レポート30% プレゼンテーション30%							
履修上の注意	30分以上の遅刻の場合は欠席とする 出席回数が2/3に満たないものは、原則単位認定を行わない							
教科書	プリントを配布する							
参考書	ホームパーティーのためのテーブルコーディネートとマナー 丸山洋子著 ISBN978-4-901359-76-4 C0077 カフェ開業 竹谷稔宏 著 ISBN4910044660282							

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	観光産業のマーケティング論／食と観光産業のマーケティング論							
担当教員	青谷 実知代					科目ナンバ－	U73590	
学期	前期／1st semester		曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	地域の観光素材を「観光商品・サービス」に取り込み、市場に対して積極的・戦略的にマーケティング活動を行っていくことのノウハウや方向性を示し、食と観光における地域活性化の構造と機能について学ぶ。							
授業の概要	「観光」は、街づくりを中心として、自然・生活文化・歴史風土や保全・環境活動まで含む定義がなされている。したがって、観光学や観光マーケティングを学ぶ上でも「モノづくり、コトづくり、場おこし」、さらに「人づくり」までを考えることがますます重要になっている。特に、地域固有の価値づくりを発信していくためには地域食を理解し、新しいものへと革新することが求められる。郷土料理や伝統料理を含めた食を中心として地域に集客を図るターゲットを想定し、顧客満足度をあげ、維持して活動することが基本である。そこで、農林水産業者、商工業者、観光事業者などの参画を通じた地域活性化は、その地域の取り組みの成果として、その地域を訪れる観光者が増加することによってはじめて実現されるものであり、地域の様々な取り組みをいかに観光者の行動につなげるかが重要である。							
到達目標	①成長産業の1つである観光産業の振興、雇用の創出、所得の増加について知識が得られる。（知識・理解） ②生活システムにおける食と観光のマーケティングの役割を描くことができる。（汎用的技能） ③日本のみならずインバウンドの取り組みも理解することができる。（態度・志向性） ④観光の難しさ・面白さを理解することができる。（知識・理解）							
授業計画	第1回 観光事業のマネジメント特性ー東京ディズニーリゾートの凄さを知る 第2回 観光事業のイノベーションー楽天トラベルによるオンライン旅行販売 第3回 観光事業のグローバル経営ーH.I.Sの海外進出における国際経営行動 第4回 観光のマーケティング・マネジメント 第5回 観光とWEBビジネス 第6回 観光関連産業の基幹事業；旅行業 第7回 宿泊業ー星野リゾートの収益性と生産性を高めるマネジメント 第8回 航空輸送業ーANAのレベニュー・マネジメントと経営戦略 第9回 鉄道事業 第10回 万博に向けた観光との関連性 第11回 グローバル時代の地域観光インフラ（1）空港の経営 第12回 グローバル時代の地域観光インフラ（2）IR（統合型リゾート） 第13回 地域の観光まちづくり事業（食と観光） 第14回 地方創生と観光 第15回 地方創生の課題とまとめ							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	【授業前】旅行雑誌や旅行パンフレット、旅行広告などを資料を収集し、課題をまとめる（学習時間：2時間） 【授業後】新聞・雑誌必読。授業中に指示された課題をレポート作成する。松蔭manabaで提出（学習時間：2時間）							
授業方法	講義 ・課題解決型学修 ・ディスカッション、ディベート、プレゼンテーションを取り入れる。							
評価基準と評価方法	・中間テスト（15%） ・授業内発表（プレゼンテーション）とレポート課題（15%） ・期末試験（70%）によって総合的に判断する。							
履修上の注意	①観光産業の取り組みなど、知識を増やすために新聞やニュースを常に見ておくこと。 ②授業中の携帯電話やメールの使用、居眠り、私語、途中退出・遅刻等に対しては厳しく対処する。 ※講義全体の2/3の出席が確認できない場合は受講資格を失う。 ※20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ③旅行会社のパンフレットなどに触れておくこと ④アクティブラーニング（グループワーク、ディスカッション等）を積極的に取り入れる。 ⑤フィールドワークに伴う交通費や入館料などは、実費とする。							
教科書	高橋一夫・柏木千春編著『1からの観光事業論』、中央経済グループパブリッシング、2017年、ISBN978-4-502-17281-6							
参考書	陶山計介・室博・小菅謙一・羽藤雅彦・青谷実知代編著『地域創生と観光』千倉書房、2022年。ISBN978-4-8051-1273-1							

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	官能評価演習							
担当教員	川口 真規子					科目ナンバー	U23480	
学期	前期／1st semester		曜日・時限	月曜3～4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	ヒトの五感（味覚、嗅覚、視覚、聴覚、触覚）を用いて食品を評価する手法の種類と方法を修得する。食品の鮮度やおいしさの指標となる項目を学び、食品の鑑別方法を修得する。							
授業の概要	講義と演習・実験を行い、食品のおいしさや品質についての専門的な評価能力を養う。							
到達目標	1) 代表的な食品の鮮度判定ができる。【汎用的技能】 2) 食品のおいしさや品質に大きな影響をおよぼす各種反応について理解し、その原理を説明できる。【知識・理解】 3) 食品企業などで行われる市場調査や嗜好調査に用いられる基本的な官能評価を実施することができる。【汎用的技能】							
授業計画	第1回 はじめに 食品の官能評価とは（講義） 第2回 官能評価の実施法（講義） 第3回 パネル選定のための味覚感受度テスト [PC必携] 第4回 2点比較法 味噌汁の塩分濃度の識別 [PC必携] 第5回 2点比較法 ココアの嗜好試験 [PC必携] 第6回 3点識別試験法 チョコレートの識別 [PC必携] 第7回 配偶法 紅茶の識別 順位法 スポーツドリンク嗜好の一致性 [PC必携] 第8回 うまみの相乗効果 官能評価 第9回 評点法 クッキーの嗜好調査 [PC必携] 第10回 食品の品質と鑑別方法（講義） 第11回 りんごの酵素褐変 [PC必携] 第12回 アミノカルボニル反応 [PC必携] 第13回 果実のおいしさ 糖度と酸度測定 [PC必携] 第14回 卵の鮮度判定 [PC必携] 第15回 野菜に含まれるクロロフィルの変色 [PC必携]							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	原則として授業時間内にデータ整理、考察などの学習を行う。 事前学習：各回に行う官能評価の方法について教科書を読み、検定方法について理解しておく。（学習時間90分） 事後学習：文献調査などを行い、データおよび検定結果をまとめ、レポートを作成する。（学習時間90分）							
授業方法	講義、演習、実験 《BYOD対象科目》 演習では官能評価の調査員側とパネルメンバーを交代で行う（グループワーク）。 実験は結果についてグループごとにディスカッションを行う。 演習および実験では結果の検定、図表作成などExcelを使用してまとめる。							
評価基準と評価方法	授業態度（30％）：演習・実験に対する積極性、協調性などで評価する。到達目標3）に関する確認。 レポート（70％）：演習・実験データのまとめ方、図表の作成の仕方、考察の的確さなどで評価する。到達目標1）2）3）に関する確認。							
履修上の注意	食品を扱うので衛生面には留意すること。 演習・実験の時は白衣着用のこと。 食品アレルギーのある学生は事前にその旨連絡してください。							
教科書	四訂食品の官能評価・鑑別演習 フードスペシャリスト協会編 建帛社 ISBN 978-4-7679-0506-8 その他 プリント配布							
参考書	なし							

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	共生社会論						
担当教員	奥井 一幾					科目ナンバ－	U72050
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	「共生」「多文化」「格差」をキーワードに社会的諸問題について考える						
授業の概要	本講義は、共生社会のあり方を理解することを目的とする。共生社会とは、男女、世代、地域、民族など、さまざまな生活習慣や文化を持つ集団に属する人々が、互いの違いを認め対等な関係を築く社会である。21世紀は、グローバル化が加速し、多様な資源が国境を越えて大規模に移動する時代である。このような時代に、人々が、共に尊重し合いながら、生活するためにはどのようなことが必要であるか考える。さらに、具体的な事例を通して、自らの価値観や行動を振り返ることで、共生社会を生きる生活者に必要な基礎的教養および態度を身につける。						
到達目標	(1) 「共生」「多文化」「格差」をめぐる諸問題について、自らの視点から考えを述べることができる。【汎用的技能】 (2) これらの問題に対する専門用語について理解ができる。【知識・理解】 (3) 各種学習活動について、積極的な姿勢で取り組むことができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 ガイダンス（授業形態と個人発表日程決め） 第2回 あいさつと多文化 第3回 祭り・労働から考える多文化 第4回 環境問題と多文化 第5回 都市化・過疎化と共生 第6回 都市化・過疎化に対する政策 第7回 動物との共生①（社会生活における動物との関わり） 第8回 動物との共生②（伴侶動物を中心に） 第9回 子供を取り巻く格差①（相対的貧困率や社会的排除を中心に） 第10回 子供を取り巻く格差②（我が国の施策を中心に） 第11回 多様な選択と社会資源 ※ゲストスピーカーによる講演 第12回 外国人との共生①（訪日・在留資格の観点から） 第13回 外国人との共生②（労働力の観点から） 第14回 万人との共生 第15回 終講課題と質疑応答						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：話題提供レポートは、各自で責任をもって必ず発表すること。詳細は、第1回目の講義で案内する。＜2時間＞ 授業後：講義資料は、毎回松蔭manabaで公開するので、適宜チェックすること。自分が理解不足だと感じる点についてはmanabaの講義資料をもとに必ず復習しておくこと。＜2時間＞						
授業方法	講義 ・松蔭manabaを積極的に活用する（資料公開、レポート提出など）。 ・本講義はアクティブラーニング（グループワーク、ペアワーク、ディスカッション等）を積極的に取り入れる。						
評価基準と評価方法	・話題提供レポート：着眼点、体裁、テーマとの対応関係、内容の発展性、引用・参考文献の記入状況等＜30%＞ →到達目標(1)に対応 ・終講課題：専門用語を用いて自らの考えを述べられているか＜20%＞ →到達目標(1)～(3)に対応 ・授業のワークシート記入及び受講態度などの平常点：ノートに必要事項を整理できているか、他者と協働的に学ぶことができているか、取り組んだ内容を適切な方法でプレゼンできているか、など＜50%＞ →到達目標(2)および(3)に対応						
履修上の注意	・話題提供の順番を変更する場合は、個別に日程調整を図り日程が決定し次第報告すること。 個別の調整が難しい場合は必ず事前に相談すること。 ・講義全体の2/3の出席が確認できない場合は受講資格を失う。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。						
教科書	必要に応じて資料を配付する。						
参考書	適宜紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	起業マネジメント論						
担当教員	青谷 実知代					科目ナンバー	U73580
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	起業家精神の広がりを歴史的・社会的背景と関連させながら、次世代リーダーに求められる資質とスキルの必要性について理解を深める。						
授業の概要	社会・経済が変化をする中で、働き方も大きく変わり、いまでは日本人の約9割はサラリーマン（サラリーウーマン）社会となりましたが、コロナ禍における働き方の大きな転換点を迎えたことで現在、再び起業をしようと意欲を持つ人が増えてきました。その背景には、例えば2021年、電通が40歳以上を対象にした個人事業主化を進めたり、パナソニックが50～55歳を対象にした早期退職を募ったりしたことが話題となりましたが、一人でも多く起業家が増えるチャンスであり、また起業までしなくても、起業家マインドを持った人が増えることが期待されています。ポジティブな循環が始まり、社会・経済・個人のポテンシャルが花開く道しるべとなるよう起業する為の必要な事柄について学修する。						
到達目標	①社会・経済で変化を起こす先導的な役割を果たす人たちの特徴をつかむことができる。（態度・志向性） ②アントレプレナーシップを実践するためのプロセスを描くことができる。（汎用的技能） ③基本的な知識を体系的に習得することができる。（知識・理解）						
授業計画	第1回 アントレプレナーシップの基礎理論 第2回 アントレプレナーシップの社会的意義（起業家になるべき5つの理由） 第3回 アントレプレナーシップの倫理教育（起業にまつわる5つの誤解） 第4回 独立アントレプレナー（起業への影響要因と起業プロセス：起業型キャリアの5つのタイプ） 第5回 個人事業と会社設立【PC必携】 第6回 個人事業を開業するための準備①税金の仕組み【PC必携】 第7回 個人事業を開業するための準備②申告書の提出と納税（視察予定：フィールドワーク） 第8回 個人事業を開業するための準備③ケーススタディ（視察予定：フィールドワーク） 第9回 会社設立をするための準備（起業を成功させるステップ：副業、独立）（ゲストスピーカー招聘） 第10回 成長期のアントレプレナーシップと外部資源（ディスカッション：スタートアップ起業）【PC必携】 第11回 成長期のアントレプレナーシップと内部資源（ディスカッション・ディベート）【PC必携】 第12回 長寿企業とアントレプレナーシップ（プレゼンテーション）【PC必携】 第13回 アントレプレナーシップとエスニック・マイノリティ【PC必携】 第14回 起業計画書作成【PC必携】 第15回 アントレプレナーシップとまとめ（期末試験）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	【授業前】アップルやFacebook、ユニクロなど各創業者・起業家のヒストリーを授業で紹介するので、資料を収集し、読んでまとめる（学習時間：2時間） 【授業後】新聞・雑誌必読しつつ、授業で指示された課題をレポート作成すること。松蔭manabaで提出（学習時間：2時間）						
授業方法	講義形式（BYOD対象科目） ・課題解決型学修 ・ディスカッションやディベート、プレゼンテーション、フィールドワークも取り入れる。						
評価基準と評価方法	中間テスト（20%）、レポート（2回）manabaで提出（20%）、期末試験（60%）によって総合的に判断する。						
履修上の注意	①GoogleやLINE、また女性の起業家の取り組みなど、知識を増やすために新聞やニュースを常に見ておくこと。 ②授業中の携帯電話やメールの使用、居眠り、私語、途中退出・遅刻等に対しては厳しく対処する。 ※講義全体の2/3の出席が確認できない場合は受講資格を失う。 ※20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ③食ビジネス専修の学生は、「マーケティング論」と合わせて受講することが望ましい。 ④アクティブラーニング（プレゼンテーション、ディベート・ディスカッション等）を積極的に取り入れる。 ④フィールドワークを取り入れるため（起業視察を検討）、交通費等自己負担となる。						
教科書	毎回資料を配布しながら、随時紹介をする。						
参考書	随時紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	基礎栄養学						
担当教員	川口 真規子					科目ナンバー	U12120
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	栄養の意義について科学的に理解し、5大栄養素の特徴と代謝について学ぶ。さらにこれらの知識を乳児期から高齢期までの各ステージにおける栄養に応用できる力を養う。						
授業の概要	食物から摂取される各栄養素は身体の構成成分、細胞および臓器間での代謝に利用され、生命維持、体温保持、成長発育、活動、生殖に不可欠な役割を担う。 本講義ではまず、「栄養とは何か」、その意義について理解する。次いで、主に各栄養素の種類と特徴およびその生理作用、そして生体における代謝について学ぶ。 さらに、主要なライフステージの応用栄養学へと発展させる。 具体的には、①栄養の概念、②5大栄養素と消化・吸収・体内動態、③食品の機能性、④ライフステージと栄養、⑤生活習慣と健康などについて解説する。						
到達目標	1) 5大栄養素の消化・吸収、代謝の過程と、体内での役割が説明できる。【知識・理解】 2) 主要なライフステージの生理学的特徴と栄養ケアマネジメントの特徴が説明できる。【知識・理解】 3) 食品の主要な機能性について列挙できる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 健康と栄養：健康概念と栄養・食生活 第2回 食事と栄養物質(1)：炭水化物の栄養 第3回 食事と栄養物質(2)：脂質の栄養 第4回 食事と栄養物質(3)：タンパク質の栄養(たんぱく質の構造とアミノ酸) 第5回 食事と栄養物質(4)：タンパク質の栄養(たんぱく質の代謝) 第6回 食事と栄養物質(5)：ビタミン・ミネラルの栄養 第7回 食事と栄養物質(6)：エネルギー代謝 小テスト 第8回 食事と健康 第9回 健康づくりのための政策・指針 [PC必携] 第10回 健康とダイエット [PC必携] 第11回 ライフステージと栄養(1)：胎児・妊娠・授乳期 新生児期・乳児期 [PC必携] 第12回 ライフステージと栄養(2)：幼児期・学童期・思春期 [PC必携] 第13回 ライフステージと栄養(3)：成人期・高齢期 [PC必携] 第14回 生活習慣病と栄養 第15回 免疫と栄養 期末テスト						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前：授業計画に従って教科書の該当するところをあらかじめ読んでおく。 専門用語については読み方とその意味を調べておく。 グループディスカッションに必要な資料を集め、発表用パワーポイントを作成する。 (学習時間：2時間)。 授業後：配布プリントでの復習やグループディスカッション時の質問内容を整理し、 学習内容をノートにまとめる(学習時間：2時間)。						
授業方法	講義 ライフステージ栄養学(第11回～第13回)授業は反転授業形式でグループディスカッションとプレゼンテーションを行う。 《BYOD対象科目》						
評価基準と評価方法	授業態度(20%)： グループディスカッションでの協調性・積極性および質問に対する回答の的確性で評価する。 到達目標2)に関する確認。 小テスト(30%)、期末テスト(50%)： 到達目標1)2)3)に関する確認。						
履修上の注意	教科書の購入を早めにしておいてください。 積極的に学ぶ姿勢が必要です。						
教科書	三訂 栄養と健康第2版 日本フードスペシャリスト協会編 建帛社ISBN 978-4-7679-0661-4 その他適宜プリント配布						
参考書	特になし						

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	基礎演習A							
担当教員	稲見 直子					科目ナンバー	H0106A	
学期	前期／1st semester		曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	本演習は、人間科学科の1年生が大学で学ぶことの意義を自覚し、高校と異なる授業への円滑な移行と、新たに学ぶ「人間科学」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練をテーマとする。							
授業の概要	本演習は、人間科学科の1年生が大学で学ぶことの意義を自覚し、高校と異なる授業への円滑な移行と、新たに学ぶ「人間科学」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練を目的とする。内容は、図書館における資料収集の方法、コンピュータを用いた資料収集の方法、フィールドワークを通じたデータの収集、レポートの作成、発表技術など、大学での学びのための知識や技術の修得である。これによって、本学科へのより高い関心を促し、自分の進路までを視野に入れながら、本学科で学ぶための意欲や基礎力を養っていく。							
到達目標	(1) 図書館やインターネットなどを活用して、課題やテーマに関連した情報を収集することができる。【汎用的技能】 (2) 学科での学びの基礎となるレポート作成およびプレゼンテーション技法の基本的なスキルを身につける。【汎用的技能】 (3) フィールドワークに主体的に取り組むことができる。【態度・志向性】							
授業計画	第1回 オリエンテーション ※PC必携 第2回 大学での学び方、キャンパス探検 第3回 図書館オリエンテーション 第4回 文献資料の読み方 第5回 引用・参考文献の書き方／研究倫理について ※PC必携 第6回 レポートの書き方Ⅰ（資料収集と検索方法の具体）※PC必携 第7回 レポートの書き方Ⅱ（レポートの論理構造）※PC必携 第8回 レポートの書き方Ⅲ（レポートの結論）※PC必携 第9回 レポートの書き方Ⅳ（レポートの修正）※PC必携 第10回 フィールドワークの計画 ※PC必携 第11回 フィールドワークの実施 第12回 プレゼンテーションの仕方 ※PC必携 第13回 パワーポイントの作成 ※PC必携 第14回 プレゼンテーション 第15回 夏休みの課題説明と基礎演習Aの総括							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：授業によって出される課題（例：資料収集、フィールドワーク準備、プレゼンテーション準備など）を次の講義まで行う。＜2時間＞ 授業後学習：個々の課題に応じた補充的学習（例：資料の要点をまとめる、PCの操作復習など）を推奨する。＜2時間＞							
授業方法	ペアワーク、グループワーク、ディスカッション、フィールドワーク、プレゼンテーションなどにより、各回設定のテーマについて演習を行う。＜BYOD対象科目＞							
評価基準と評価方法	・受講姿勢・態度(40%)：授業内で出された課題に対して主体的に取り組んでいるか、学びに向かう主体的な姿勢や他者と協働して学ぼうとする態度が築けているかなどを総合的に評価。到達目標(1)の確認。 ・レポート(30%)：論理的かつ分析的に書けているか、決められた形式で書けているかなどを総合的に評価。到達目標(1)(2)の確認。 ・プレゼンテーション(30%)：フィールドワークで収集したデータや報告態度・内容などを総合的に評価。到達目標(2)(3)の確認。 ※評価基準（評価ルーブリック）は、共通資料に掲載するので、各自取り組みの参考にされたい。							
履修上の注意	※出席及び授業への参加態度を重視する。 ・出席回数が開講日数の2/3に満たない者には、原則単位認定を行わない。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・欠席する場合は、担当教員に連絡すること。 ・学外でのフィールドワークに伴う交通費や入場料が必要な場合がある。							
教科書	学科共通資料を配付する。また必要に応じて授業毎にプリントを配付する。							
参考書	適宜指示する。							

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	基礎演習A							
担当教員	奥井 一幾					科目ナンバー	H0106A	
学期	前期／1st semester		曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	本演習は、人間科学科の1年生が大学で学ぶことの意義を自覚し、高校と異なる授業への円滑な移行と、新たに学ぶ「人間科学」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練をテーマとする。							
授業の概要	本演習は、人間科学科の1年生が大学で学ぶことの意義を自覚し、高校と異なる授業への円滑な移行と、新たに学ぶ「人間科学」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練を目的とする。内容は、図書館における資料収集の方法、コンピュータを用いた資料収集の方法、フィールドワークを通じたデータの収集、レポートの作成、発表技術など、大学での学びのための知識や技術の修得である。これによって、本学科へのより高い関心を促し、自分の進路までを視野に入れながら、本学科で学ぶための意欲や基礎力を養っていく。							
到達目標	(1) 図書館やインターネットなどを活用して、課題やテーマに関連した情報を収集することができる。【汎用的技能】 (2) 学科での学びの基礎となるレポート作成およびプレゼンテーション技法の基本的なスキルを身につける。【汎用的技能】 (3) フィールドワークに主体的に取り組むことができる。【態度・志向性】							
授業計画	第1回 オリエンテーション ※PC必携 第2回 大学での学び方、キャンパス探検 第3回 図書館オリエンテーション 第4回 文献資料の読み方 第5回 引用・参考文献の書き方／研究倫理について ※PC必携 第6回 レポートの書き方Ⅰ（資料収集と検索方法の具体）※PC必携 第7回 レポートの書き方Ⅱ（レポートの論理構造）※PC必携 第8回 レポートの書き方Ⅲ（レポートの結論）※PC必携 第9回 レポートの書き方Ⅳ（レポートの修正）※PC必携 第10回 フィールドワークの計画 ※PC必携 第11回 フィールドワークの実施 第12回 プレゼンテーションの仕方 ※PC必携 第13回 パワーポイントの作成 ※PC必携 第14回 プレゼンテーション 第15回 夏休みの課題説明と基礎演習Aの総括							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：授業によって出される課題（例：資料収集、フィールドワーク準備、プレゼンテーション準備など）を次の講義まで行う。＜2時間＞ 授業後学習：個々の課題に応じた補充的学習（例：資料の要点をまとめる、PCの操作復習など）を推奨する。＜2時間＞							
授業方法	ペアワーク、グループワーク、ディスカッション、フィールドワーク、プレゼンテーションなどにより、各回設定のテーマについて演習を行う。＜BYOD対象科目＞							
評価基準と評価方法	・受講姿勢・態度(40%)：授業内で出された課題に対して主体的に取り組んでいるか、学びに向かう主体的な姿勢や他者と協働して学ぼうとする態度が築けているかなどを総合的に評価。到達目標(1)の確認。 ・レポート(30%)：論理的かつ分析的に書けているか、決められた形式で書けているかなどを総合的に評価。到達目標(1)(2)の確認。 ・プレゼンテーション(30%)：フィールドワークで収集したデータや報告態度・内容などを総合的に評価。到達目標(2)(3)の確認。 ※評価基準（評価ルーブリック）は、共通資料に掲載するので、各自取り組みの参考にされたい。							
履修上の注意	※出席及び授業への参加態度を重視する。 ・出席回数が開講日数の2/3に満たない者には、原則単位認定を行わない。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・欠席する場合は、担当教員に連絡すること。 ・学外でのフィールドワークに伴う交通費や入場料が必要な場合がある。							
教科書	学科共通資料を配付する。また必要に応じて授業毎にプリントを配付する。							
参考書	適宜指示する。							

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	基礎演習A							
担当教員	富田 因則					科目ナンバー	H0106A	
学期	前期／1st semester		曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	本演習は、人間科学科の1年生が大学で学ぶことの意義を自覚し、高校と異なる授業への円滑な移行と、新たに学ぶ「人間科学」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練をテーマとする。							
授業の概要	本演習は、人間科学科の1年生が大学で学ぶことの意義を自覚し、高校と異なる授業への円滑な移行と、新たに学ぶ「人間科学」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練を目的とする。内容は、図書館における資料収集の方法、コンピュータを用いた資料収集の方法、フィールドワークを通じたデータの収集、レポートの作成、発表技術など、大学での学びのための知識や技術の修得である。これによって、本学科へのより高い関心を促し、自分の進路までを視野に入れながら、本学科で学ぶための意欲や基礎力を養っていく。							
到達目標	(1) 図書館やインターネットなどを活用して、課題やテーマに関連した情報を収集することができる。【汎用的技能】 (2) 学科での学びの基礎となるレポート作成およびプレゼンテーション技法の基本的なスキルを身につける。【汎用的技能】 (3) フィールドワークに主体的に取り組むことができる。【態度・志向性】							
授業計画	第1回 オリエンテーション ※PC必携 第2回 大学での学び方、キャンパス探検 第3回 図書館オリエンテーション 第4回 文献資料の読み方 第5回 引用・参考文献の書き方／研究倫理について ※PC必携 第6回 レポートの書き方Ⅰ（資料収集と検索方法の具体）※PC必携 第7回 レポートの書き方Ⅱ（レポートの論理構造）※PC必携 第8回 レポートの書き方Ⅲ（レポートの結論）※PC必携 第9回 レポートの書き方Ⅳ（レポートの修正）※PC必携 第10回 フィールドワークの計画 ※PC必携 第11回 フィールドワークの実施 第12回 プレゼンテーションの仕方 ※PC必携 第13回 パワーポイントの作成 ※PC必携 第14回 プレゼンテーション 第15回 夏休みの課題説明と基礎演習Aの総括							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：授業によって出される課題（例：資料収集、フィールドワーク準備、プレゼンテーション準備など）を次の講義まで行う。＜2時間＞ 授業後学習：個々の課題に応じた補充的学習（例：資料の要点をまとめる、PCの操作復習など）を推奨する。＜2時間＞							
授業方法	ペアワーク、グループワーク、ディスカッション、フィールドワーク、プレゼンテーションなどにより、各回設定のテーマについて演習を行う。＜BYOD対象科目＞							
評価基準と評価方法	・受講姿勢・態度(40%)：授業内で出された課題に対して主体的に取り組んでいるか、学びに向かう主体的な姿勢や他者と協働して学ぼうとする態度が築けているかなどを総合的に評価。到達目標(1)の確認。 ・レポート(30%)：論理的かつ分析的に書けているか、決められた形式で書けているかなどを総合的に評価。到達目標(1)(2)の確認。 ・プレゼンテーション(30%)：フィールドワークで収集したデータや報告態度・内容などを総合的に評価。到達目標(2)(3)の確認。 ※評価基準（評価ルーブリック）は、共通資料に掲載するので、各自取り組みの参考にされたい。							
履修上の注意	※出席及び授業への参加態度を重視する。 ・出席回数が開講日数の2/3に満たない者には、原則単位認定を行わない。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・欠席する場合は、担当教員に連絡すること。 ・学外でのフィールドワークに伴う交通費や入場料が必要な場合がある。							
教科書	学科共通資料を配付する。また必要に応じて授業毎にプリントを配付する。							
参考書	適宜指示する。							

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	基礎演習B						
担当教員	稲見 直子					科目ナンバ	H0106B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	2年次のコース選択に向けて今後の学びの発展について探究学習を行う。						
授業の概要	人間科学科では、2年次から各自の関心分野に基づいてコース別に学びを深めるため、本演習では自らの学びの関心をみつけるとともに、各コースでどのような学びができるのかを探究する。これによって、各コースの基礎知識を身に付けるだけでなく、本学科へのより高い関心を促し、自分の進路までを視野に入れながら、本学科で学ぶための意欲や基礎力を養っていく。						
到達目標	(1) 自らの学びの関心を見つけ、その分野の理解を深める。【知識・理解】 (2) 自らの学びの関心分野について自身の考えをもち、他者にわかりやすく説明することができる。【汎用的技能】 (3) 他者と協働かつ主体的な姿勢で授業に参加することができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 夏休みの課題報告 第2回 自らの学びの関心を考える／調査倫理について ※PC必携 第3回 グループワークⅠ（関心分野の資料収集）※PC必携 第4回 グループワークⅡ（関心分野の理解）※PC必携 第5回 グループワークⅢ（調べたことを整理）※PC必携 第6回 グループワークⅣ（調べたことをまとめる）※PC必携 第7回 中間報告と質疑応答 第8回 グループワークⅠ（中間報告のフィードバックとテーマ設定）※PC必携 第9回 グループワークⅡ（パワーポイントの機能とスライドの構想）※PC必携 第10回 グループワークⅢ（スライドの編集）※PC必携 第11回 グループワークⅣ（スライドの仕上げ）※PC必携 第12回 プレゼンテーションⅠ（1stグループ）※PC必携 第13回 プレゼンテーションⅡ（2ndグループ）※PC必携 第14回 プレゼンテーションⅢ（3rdグループ）※PC必携 第15回 次年度の学びへ向けて						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前学習：授業によって出される課題（例：資料収集、プレゼンテーション準備など）を次の講義まで行う。＜2時間＞ 事後学習：個々の課題に応じた補充的学習（例：資料の要点をまとめる、PCの操作復習など）を推奨する。＜2時間＞						
授業方法	ペアワーク、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどにより、各回設定のテーマについて演習を行う。＜BYOD対象科目＞						
評価基準と評価方法	・受講姿勢・態度(40%)：授業内で出された課題に対して主体的に取り組んでいるか、学びに向かう主体的な姿勢や他者と協働して学ぼうとする態度が窺われているかなどを総合的に評価。到達目標(1)(3)の確認。 ・プレゼンテーション(60%)：プレゼンテーションに用いたデータや資料、プレゼンテーションの態度・内容などを総合的に評価。到達目標(2)(3)に対応。 ※評価基準（評価ルーブリック）は、共通資料に掲載するので、各自取り組みの参考にされたい。						
履修上の注意	※出席及び授業への参加態度を重視する。 ・出席回数が開講日数の2/3に満たない者には、原則単位認定を行わない。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・欠席する場合は、担当教員に連絡すること。						
教科書	学科共通資料を配付する。また必要に応じて授業毎にプリントを配付する。						
参考書	適宜指示する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	基礎演習B						
担当教員	奥井 一幾					科目ナンバー	H0106B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	2年次のコース選択に向けて今後の学びの発展について探究学習を行う。						
授業の概要	人間科学科では、2年次から各自の関心分野に基づいてコース別に学びを深めるため、本演習では自らの学びの関心を見つけるとともに、各コースでどのような学びができるのかを探究する。これによって、各コースの基礎知識を身に付けるだけでなく、本学科へのより高い関心を促し、自分の進路までを視野に入れながら、本学科で学ぶための意欲や基礎力を養っていく。						
到達目標	(1) 自らの学びの関心を見つけ、その分野の理解を深める。【知識・理解】 (2) 自らの学びの関心分野について自身の考えをもち、他者にわかりやすく説明することができる。【汎用的技能】 (3) 他者と協働かつ主体的な姿勢で授業に参加することができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 夏休みの課題報告 第2回 自らの学びの関心を考える／調査倫理について ※PC必携 第3回 グループワークⅠ（関心分野の資料収集）※PC必携 第4回 グループワークⅡ（関心分野の理解）※PC必携 第5回 グループワークⅢ（調べたことを整理）※PC必携 第6回 グループワークⅣ（調べたことをまとめる）※PC必携 第7回 中間報告と質疑応答 第8回 グループワークⅠ（中間報告のフィードバックとテーマ設定）※PC必携 第9回 グループワークⅡ（パワーポイントの機能とスライドの構想）※PC必携 第10回 グループワークⅢ（スライドの編集）※PC必携 第11回 グループワークⅣ（スライドの仕上げ）※PC必携 第12回 プレゼンテーションⅠ（1stグループ）※PC必携 第13回 プレゼンテーションⅡ（2ndグループ）※PC必携 第14回 プレゼンテーションⅢ（3rdグループ）※PC必携 第15回 次年度の学びへ向けて						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前学習：授業によって出される課題（例：資料収集、プレゼンテーション準備など）を次の講義まで行う。＜2時間＞ 事後学習：個々の課題に応じた補充的学習（例：資料の要点をまとめる、PCの操作復習など）を推奨する。＜2時間＞						
授業方法	ペアワーク、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどにより、各回設定のテーマについて演習を行う。＜BYOD対象科目＞						
評価基準と評価方法	・受講姿勢・態度(40%)：授業内で出された課題に対して主体的に取り組んでいるか、学びに向かう主体的な姿勢や他者と協働して学ぼうとする態度が築けているかなどを総合的に評価。到達目標(1)(3)の確認。 ・プレゼンテーション(60%)：プレゼンテーションに用いたデータや資料、プレゼンテーションの態度・内容などを総合的に評価。到達目標(2)(3)に対応。 ※評価基準（評価ルーブリック）は、共通資料に掲載するので、各自取り組みの参考にされたい。						
履修上の注意	※出席及び授業への参加態度を重視する。 ・出席回数が開講日数の2/3に満たない者には、原則単位認定を行わない。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・欠席する場合は、担当教員に連絡すること。						
教科書	学科共通資料を配付する。また必要に応じて授業毎にプリントを配付する。						
参考書	適宜指示する。						

参考書	適宜指示する。
-----	---------

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	金融商品学						
担当教員	荒木 千秋					科目ナンバ	U73100
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	金融商品の体系的知識を習得するとともに、生活者の立場からライフプランに合った金融商品の選び方を学ぶ。						
授業の概要	金融に関する基本的な理解と金融商品全体の体系的な知識を学ぶ。特に金融商品の持つさまざまなリスクや金融トラブルを回避するための基礎知識と対処法、金融商品や金融機関にする法律などについて理解を深める。 具体的には、生活者の立場から金融商品の選び方・組み合わせ方、金融商品を巡る環境の変化と自己責任、ライフプランに合った金融商品の選択について学ぶ。						
到達目標	(1)「ライフプランニングの中に金融商品がどのように位置付けられ、その重要性がどのようなものであるか」ということを理解できる」【知識・理解】 (2)「金融商品の体系的な知識を習得し、その具体的説明ができる」【汎用的技能】 (3)「生活者の立場からライフプランに合った金融商品の選び方を身近なものとして認識することができる」【態度・志向性】						
授業計画	第1回 ガイダンス：ライフプランニングの中の資産形成 第2回 金融・経済の基本①：GDP、経済成長率、景気動向指数、CIとDI 第3回 金融・経済の基本②：日銀短観、マネーストック、物価指数、金融市場と金利変動、金融政策、財政政策 第4回 セーフティネットと関連法規：預金保険制度、投資保護基金、消費者契約法、金融商品販売法、金融商品取引法、その他の法規 第5回 貯蓄型金融商品：金利の基礎知識、銀行の金融商品等 第6回 債券①：債券の基本 第7回 債券②：債券の応用 第8回 第5～7回のまとめと中間試験【PC必携】 第9回 株式①：株式の基本、株式指標 第10回 株式②：株式の応用 第11回 投資信託：投資信託の基本、投資信託の分類、主な投資信託の種類、投資信託のディスクロージャー、トータルリターン通知制度、投資信託取引 第12回 外貨建て金融商品：外貨建て金融商品の基本、主な外貨建て金融商品 第13回 ポートフォリオ理論：ポートフォリオ理論の基本、ポートフォリオ理論で用いる指標、ポートフォリオの期待収益率とリスク 第14回 税金と制度：預貯金と税金、債券と税金、株式と税金、投資信託と税金、資産形成制度 第15回 第9～14回のまとめと定期試験【PC必携】						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業前準備学習：各回授業で取り上げる内容とキーワードに関係する文献資料を図書館およびweb検索で見つけて、読み込むこと（学習時間：2時間） ・授業後学習：授業の復習を行うこと（学習時間：2時間）						
授業方法	各回設定のテーマについて講義する。授業の單元ごとに、演習問題または、レポート課題を出す。PCを使いながら、その問題に個人ワークあるいはグループワークによって答えること。＜BYOD対象科目＞						
評価基準と評価方法	・定期試験（30％）：第9～14回で取り上げた内容の理解度を評価するとともに、到達目標（1）および（3）の達成度を確認する。 ・中間試験（30％）：第2～7回で取り上げた内容の理解度を評価するとともに、到達目標（1）および（2）の達成度を確認する。 ・平常点（40％）：小テストと松蔭manabaコースコンテンツへの提出物によって内容の理解度を評価するとともに、到達目標（1）～（3）の達成度を確認する。						
履修上の注意	・欠席回数が5回を超えた場合には、定期試験を受ける資格を与えない。 ・出席確認時に不在だった場合は、その回は欠席とする。 ・講義中に無許可で退出した場合は、欠席扱いとする。 ・授業開始後30分経過後を遅刻とし、遅刻は4回で1回の欠席扱いとする。 ・学校感染症、公共交通機関の運休・遅延といったやむをえない事情により欠席したとき、証明書を提出した場合に限って考慮の対象とする。 ・【PC必携】の授業回は、パソコンを持参すること。						
教科書	特に使用しない。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	経営学概論／経営学基礎演習						
担当教員	今井 佐知子					科目ナンバー	H11140
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	経営学全般の初歩学習。						
授業の概要	経営学は、営利企業に限らず、官公庁・教育機関などの多様な組織における複雑な活動・現象を理解してゆくための考え方を提供しているということを学習します。						
到達目標	経営学全般について学ぶことにより、受講生が、今後、さらに詳しく学習したいと思う分野を選択することができるレベルに到達することを目標とします。【知識・理解】						
授業計画	毎回教科書を必帯 第1回 企業経営の全体像 第2回 経営学の全体像 第3回 企業と会社 第4回 企業とインプット（金融資本・労働）市場との関わり 第5回 企業とアウトプット（製品・サービス）市場との関わり 第6回 競争戦略のマネジメント1 第7回 競争戦略のマネジメント2 第8回 多角化戦略のマネジメント 第9回 国際化のマネジメント 第10回 マクロ組織のマネジメント 第11回 ミクロ組織のマネジメント 第12回 キャリアデザイン 第13回 経営学の広がり1 第14回 経営学の広がり2 第15回 授業の振り返り						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	毎回の予習：教科書の該当分の通読。企業経営に関するニュースに日頃から関心を持つ＜2時間＞。 毎回の復習：授業で学んだ理論を事例にあてはめてみる＜2時間＞。 小テストの前には、それまでの学習範囲全体の復習を各自で行う。						
授業方法	講義形式＜BYD0対象科目＞ 受講者間の意見交換を行います。						
評価基準と評価方法	授業への積極的参加と提出物（50%） 授業の後半で小テストを実施し、目標到達度を確認（50%）						
履修上の注意	講義全体の3分の2の出席が確保できない場合、受講資格を失う。						
教科書	加護野忠雄・吉村典久 編著（2021）『1からの経営学』第3版（碩学舎）、ISBN：978-4-502-37521-7						
参考書	随時紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	経営学概論／経営学基礎演習						
担当教員	今井 佐知子					科目ナンバー	H11140
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	経営学全般の初歩学習。						
授業の概要	経営学は、営利企業に限らず、官公庁・教育機関などの多様な組織における複雑な活動・現象を理解してゆくための考え方を提供しているということを学習します。						
到達目標	経営学全般について学ぶことにより、受講生が、今後、さらに詳しく学習したいと思う分野を選択することができるレベルに到達することを目標とします。【知識・理解】						
授業計画	毎回教科書を必帯 第1回 企業経営の全体像 第2回 経営学の全体像 第3回 企業と会社 第4回 企業とインプット（金融資本・労働）市場との関わり 第5回 企業とアウトプット（製品・サービス）市場との関わり 第6回 競争戦略のマネジメント1 第7回 競争戦略のマネジメント2 第8回 多角化戦略のマネジメント 第9回 国際化のマネジメント 第10回 マクロ組織のマネジメント 第11回 ミクロ組織のマネジメント 第12回 キャリアデザイン 第13回 経営学の広がり1 第14回 経営学の広がり2 第15回 授業の振り返り						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	毎回の予習：教科書の該当分の通読。企業経営に関するニュースに日頃から関心を持つ＜2時間＞。 毎回の復習：授業で学んだ理論を事例にあてはめてみる＜2時間＞。 小テストの前には、それまでの学習範囲全体の復習を各自で行う。						
授業方法	講義形式＜BYD0対象科目＞ 受講者間の意見交換を行います。						
評価基準と評価方法	授業への積極的参加と提出物（50%） 授業の後半で小テストを実施し、目標到達度を確認（50%）						
履修上の注意	講義全体の3分の2の出席が確保できない場合、受講資格を失う。						
教科書	加護野忠雄・吉村典久 編著（2021）『1からの経営学』第3版（碩学舎）、ISBN：978-4-502-37521-7						
参考書	随時紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	経営戦略論						
担当教員	今井 佐知子					科目ナンバー	U73880
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	企業における経営戦略を理解する。						
授業の概要	経営戦略を初めて学ぶ学生さんが対象です。企業における経営戦略を理解する際に、必要となる基本的な理論や概念について学習します。						
到達目標	経営学のフレームを活用することにより、企業の戦略が、どのような理論に基づいているのかを理解できる。【知識・理解】						
授業計画	毎回、教科書を必帯。 第1回 戦略とは 第2回 業界の構造 第3回 取り巻く環境 第4回 基本戦略 第5回 製品ライフサイクル別戦略 第6回 市場地位別戦略 第7回 リソース・ベースト・ビュー 第8回 事業システム 第9回 事業領域 第10回 成長戦略 第11回 資源展開 第12回 戦略の社会的側面 第13回 組織構造 第14回 組織文化 第15回 企業変革 注）発表担当の回ではPCを用いることが望ましい						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	毎回の予習：教科書の該当分の通読。担当回での教科書の内容紹介の準備＜2時間＞。 毎回の復習：時事問題に授業で学んだ理論をあてはめてみる＜2時間＞。小テストの前には、それまでの学習範囲全体の復習を各自で行う。						
授業方法	講義形式＜BYD0対象科目＞ 受講者間の意見交換を行います。						
評価基準と評価方法	授業への積極的参加と毎回の提出物（60%） 授業の後半で小テストを実施し、目標到達度を確認（40%）						
履修上の注意	講義全体の3分の2の出席が確保できない場合、受講資格を失う。						
教科書	嶋口充輝、内田和成、黒岩健一郎（編著）『1からの戦略論』第2版（碩学舎）、ISBN：978-4-502-16741-6						
参考書	随時紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	化粧心理学						
担当教員	鳥居 さくら					科目ナンバ－	U73250
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	化粧行動の心理学的観点からの考察						
授業の概要	化粧行動は、人間の生存に直接関わる行為ではないにも関わらず、古来より世界各地でおこなわれてきた。その意味を知覚心理学、認知心理学、社会心理学、生理心理学、健康心理学、人格心理学、高齢者心理学などのさまざまな心理学的見地から考察する。また実際の生活場面に適した自己表現としての化粧について考える。人間として心身ともに健康に生きていくための力と知識を化粧行動をとおして身につける。						
到達目標	1. 化粧行動の効用を複数の心理学的観点から説明できる。[知識・理解] 2. 生活における化粧行動の心理的意味について自分の考えを述べることができる。[知識・理解][態度・志向性] 3. 状況や場面に応じた自己表現方法について考えることができる。[知識・理解][汎用的技能]						
授業計画	1. オリエンテーション 2. 化粧と自己表現 [PC必携] 3. 社会と自己表現 [PC必携] 4. 化粧と自己愛 [PC必携] 5. 化粧と対人魅力 [PC必携] 6. 肌の視覚的認知 [PC必携] 7. 肌とストレス [PC必携] 8. 肌と印象 [PC必携] 9. 顔における年齢・性別の印象 [PC必携] 10. 表情の視覚的特徴 [PC必携] 11. 顔と化粧に関するグループワーク [PC必携] 12. 顔と化粧に関するグループワーク発表 [PC必携] 13. 化粧と感情 [PC必携] 14. 医療分野や高齢者における化粧の心理的効果 [PC必携] 15. まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業で指示する資料を収集し、まとめる。（学習時間：2<時間>） 授業後学習：授業で指定された課題をレポートとして作成、または、松蔭manabaに投稿する（学習時間：2<時間>）						
授業方法	主に講義形式でおこなう。顔写真や化粧品などを用いて評価し、グループでディスカッションし、レポートを作成する授業回もある。manabaを利用し小テストやアンケートなどをおこなう授業回もある。 〈BYOD対象科目〉						
評価基準と評価方法	授業内での提出物および松蔭manabaへの投稿(50%)：化粧行動に関連する自分の考えを表現する力や自己表現としての化粧の方法を考える力を評価する。到達目標2および3に関する到達度の確認。 試験(50%)：化粧や化粧行動の心理学的意味に関する理解度を評価する。到達目標1および2に関する到達度の確認。						
履修上の注意	10回以上の出席がないと、受講資格を失う。私語厳禁とする。						
教科書	なし。適宜、資料をmanabaに添付する。						
参考書	「顔の百科事典」 丸善出版 ISBN：978-4-621-08958-3 「化粧行動の社会心理学 化粧する人間のこころと行動」 北大路書房 ISBN：978-4-7628-2226-1						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	行動科学基礎演習Ⅰ						
担当教員	鳥居 さくら					科目ナンバ－	U22010
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学の基礎的な実験法と考え方の習得						
授業の概要	行動科学の基本となる心理学の基礎的な実験方法と考え方について学ぶ。少人数のグループに分かれ、知覚、学習・記憶、情意・行動などの心理学の基礎的な実験を、実験者および被験者のいずれの立場にもなって実施し、データを集計し、図表を作成し、統計的解析、考察を加え、レポートを作成する。このような一連の実験研究過程の経験を通して、科学的論理思考と実証方法を身につける。3年時の演習、4年時の卒業研究に向けた知識と技法を習得する。						
到達目標	1. 心理学の基礎的な実験手法を説明できる。[知識・理解] 2. エクセルを用いてデータ整理ができ、結果を図表で表すことができる。[汎用的技能] 3. データに基づいて考察を記述することができる。[汎用的技能] 4. 図表を含めたレポートを作成できる。[汎用的技能] 5. グループのメンバーと協力して実施することができる。[態度・志向性]						
授業計画	1. 授業の進め方、班分け [PC必携] 2. レポートの書き方(1)－構成－ [PC必携] 3. レポートの書き方(2)－図表の作成－ [PC必携] 4. ミュラーリヤーの錯視(1)－解説－ [PC必携] 5. ミュラーリヤーの錯視(2)－実験の実施－ [PC必携] 6. ミュラーリヤーの錯視(3)－データの整理－ [PC必携] 7. 鏡映描写(1)－解説と実験－ [PC必携] 8. 鏡映描写(2)－データの整理－ [PC必携] 9. 自由再生における系列位置効果(1)－解説と実験－ [PC必携] 10. 自由再生における系列位置効果(2)－データの整理－ [PC必携] 11. 要求水準(1)－解説と実験－ [PC必携] 12. 要求水準(2)－データの整理－ [PC必携] 13. 認知的葛藤(1)－解説と実験－ [PC必携] 14. 認知的葛藤(2)－データの整理－ [PC必携] 15. 講評 [PC必携]						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：参考書の該当実験のページに目をとおしておく。（学習時間：2時間） 授業後学習：レポートを作成し、松蔭manabaに提出する。（学習時間：2時間）						
授業方法	実習形式でおこなう。 1つの実験をグループで実施する。グループで交互に実験者と被験者になり、取得したデータをグループでまとめる。考察は各自で考え、レポートとしてまとめたら、次のテーマの授業時間初めまでに、その回の実験レポートを松蔭manabaに提出する。 <BYOD対象科目>						
評価基準と評価方法	レポート80%（締め切り厳守）：レポートの結果のまとめ方、図表の作成の仕方、考察の内容について評価する。 到達目標1, 2, 3, 4に関する到達度の確認。 実験への取り組み20%：グループワークで実施する実験における協調性、積極性、粘り強さを評価する。 到達目標5に関する到達度の確認。 レポートのフィードバックは松蔭manabaをとおして行う。						
履修上の注意	実験のため、毎回出席することが原則である。11回以上の出席がないと受講資格を失う。欠席する場合は、次回までに自分で補っておくようにする。15分以上の遅刻は欠席扱いにする。すべてのレポートを期限までに松蔭manabaに提出することが必須である。						
教科書	なし。資料をmanabaに添付する。						
参考書	「実験とテスト＝心理学の基礎 実習編」心理学実験指導研究会 編 培風館						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	行動科学基礎演習Ⅱ						
担当教員	鳥居 さくら					科目ナンバー	U22020
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学の基礎的な実験、検査・調査法と考え方の習得						
授業の概要	行動科学の基本となる心理学の基礎的な実験方法、検査や調査法と考え方について学ぶ。少人数のグループに分かれ、心理検査、イメージの測定、社会的態度尺度の作成法などの心理学の基礎的な検査や調査を、実験者および被験者のいずれの立場にもなって実施し、データを集計し、図表を作成し、統計的解析、考察を加え、レポートを作成する。このような一連の実験研究過程の経験を通して、科学的論理思考と実証方法を身につける。3年時の演習、4年時の卒業研究に向けた知識と技法を習得する。						
到達目標	1. 心理学の基礎的な実験、検査・調査手法を説明できる。[知識・理解] 2. エクセルを用いてデータ整理ができ、結果を図表で表すことができる。[汎用的技能] 3. データに基づいて考察を記述することができる。[汎用的技能] 4. 図表を含めたレポートを作成できる。[汎用的技能] 5. グループのメンバーと協力して実施することができる。[態度・志向性]						
授業計画	1. 講義の進め方、班分け [PC必携] 2. 状態不安尺度(STAI)の受検と整理、解釈 [PC必携] 3. YG性格検査(1)－解説－ [PC必携] 4. YG性格検査(2)－受検と評点－ [PC必携] 5. 触2点閾(1)－解説と実験－ [PC必携] 6. 触2点閾(2)－整理と解釈－ [PC必携] 7. SD法によるイメージの測定(1)－解説と実験－ [PC必携] 8. SD法によるイメージの測定(2)－データの整理－ [PC必携] 9. SD法によるイメージの測定(3)－解析－ [PC必携] 10. 社会的態度尺度の構成(1)－解説と評定－ [PC必携] 11. 社会的態度尺度の構成(2)－整理と解釈－ [PC必携] 12. 一対比較による好悪の尺度化(1)－解説と実験－ [PC必携] 13. 一対比較による好悪の尺度化(2)－データの整理－ [PC必携] 14. 一対比較による好悪の尺度化(3)－解析－ [PC必携] 15. 講評 [PC必携]						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習：参考書の該当実験のページに目をとめておく。(学習時間：2<時間>) 授業後学習：実験・調査のレポートをまとめ松蔭manabaに提出する。(学習時間：2<時間>)						
授業方法	実習形式でおこなう。 1つの実験、検査・調査をグループで実施する。グループで交互に実験者と被験者になり、取得したデータをグループでまとめる。考察は各自で考え、レポートとしてまとめたら、次のテーマの授業時間初めまでに、その回の実験レポートを松蔭manabaに提出する。 <BYOD対象科目>						
評価基準と評価方法	レポート80%（締め切り厳守）：レポートの結果のまとめ方、図表の作成の仕方、考察の内容について評価する。 到達目標1, 2, 3, 4に関する到達度の確認。 実験への取り組み20%：グループワークで実施する実験、検査・調査における協調性、積極性、粘り強さを評価する。到達目標5に関する到達度の確認。 レポートのフィードバックは松蔭manabaをとおして行う。						
履修上の注意	実験のため、毎回出席することが原則である。11回以上の出席がないと受講資格を失う。都合により欠席する場合は、次回までに自分で補っておくようにすること。15分以上の遅刻は欠席扱いにする。すべてのレポートを提出期限までに提出することが必須である。						
教科書	なし。資料をmanabaに添付する。						
参考書	「実験とテスト＝心理学の基礎 実習編」心理学実験指導研究会 編 培風館						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	神戸の食と文化						
担当教員	江 弘毅					科目ナンバ	U73640
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	地元・神戸の食と文化を概観するとともに、その特徴や魅力を押さえる。						
授業の概要	海と山に囲まれ自然と豊富な食材に恵まれた環境にある神戸は、開港以来、外国文化を取り入れ、洋食・パン・洋菓子、中国料理やインド料理、ベトナム料理など、日本独自の料理に限られることのない多様で国際色豊かな食文化を培ってきた。 また近年、世界からも注目される日本の味わいの土台をつくり、外国の食文化と日本独自の食文化をうまく融合させて、日本の食をけん引してきた神戸の食。 現在も神戸は日本を代表する「グルメ都市」として、さまざまな食のトレンドを牽引し、観光客を魅了している。 その背景にある文化を歴史的に考察しながら、江戸時代から現代に至る神戸の食文化の変遷と熟成について理解を深めるとともに、あたらしい神戸の食の魅力創造にもスポットを当てる。						
到達目標	(1)「地元人」というスタンスから神戸の食について知り、語り、書き、表現することができる。【知識・理解】 (2)和食、フランス料理、中国料理などの神戸の代表的料理の特徴を理解し、わかりやすく説明することができる。【知識・理解】 (3)魅力ある神戸グルメについて、独自の企画を立てたり情報発信することができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 ガイダンス この授業で何をやるのか。どんな授業なのか [PC必携] 第2回 神戸の食、の現在進行系～最前線 [PC必携] 第3回 神戸～兵庫県の地勢、自然と恵まれた食材 [PC必携] 第4回 神戸の食を「和食」から見る＝「上方(摂津の)料理」の伝統 [PC必携] 第5回 灘の生一本。日本酒づくり [PC必携] 第6回 神戸開港と洋食。その始まりと展開 [PC必携] 第7回 神戸の洋食とその系譜 [PC必携] 第8回 「パン・スイーツの街・神戸」の歴史と展開 [PC必携] 第9回 世界を魅了する「神戸ビーフ」 [PC必携] 第10回 神戸のエスニック・コミュニティ（とくにイスラム圏、ベトナム）に見る食 [PC必携] 第11回 神戸の中国料理と中華街・南京町 [PC必携] 第12回 神戸のお好み焼きと地ソース [PC必携] 第13回 神戸観光とグルメ。フードツーリズムの観点から [PC必携] 第14回 神戸の食はメディアにどう取り上げられているか [PC必携] 第15回 この授業のまとめと試論提出 [PC必携]						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前、授業後にmanabaおよび神戸の食に関する参考書を読んで、キーワードや専門用語を理解する（90分）。 神戸にある老舗の洋食店、パン屋、洋菓子店、中国・インド料理店など、そして長田区のお好み焼き店集中エリアを意識して訪ね、食べるなど実体験する（90分）。 雑誌など出版物の神戸の特集グルメ記事や新聞、雑誌、印刷物そしてインターネットで神戸食関連の資料を集め、ストックし、学習する（60分）。						
授業方法	講義は毎回manabaにコース・コンテンツを挙げます。 毎回、レジュメや資料をmanabaでアップし講義します。 授業中のその都度の質問と応答、そして毎回の講義についてのリアクションペーパーをmanabaのレポートに書いてください。 PCもしくはタブレットは必携のこと。 〈BYOD対象科目〉						
評価基準と評価方法	期末試験として2000字程度の試論を提出40%。 各回授業のあとに書いて提出するリアクションペーパー40%。 授業中のコール＆レスポンス20%。						
履修上の注意	出席が授業回数の3分の2に満たない者は期末試験を受けることができません。						
教科書	毎回、レジュメや資料を配布します。						
参考書	『聞き書 兵庫の食事(日本の食生活全集)』日本の食生活全集兵庫編集委員会編、農山漁村文化協会 ISBN-10 454091006 : X 『外国人居留地と神戸』田井玲子著、神戸新聞総合出版センター ISBN: 9784343007339 『神戸と居留地』神戸外国人居留地研究会編、神戸新聞総合出版センター ISBN-10: 4343003159 『神戸と洋食』江弘毅著、神戸新聞総合出版センター ISBN: 9784343010575 『神戸の中国料理』神戸新聞出版センター ISBN: 9784875211280						

参考書	『神戸のパン・ケーキ・チョコレート』神戸新聞出版センター ISBN-10: 487521325 『神戸とお好み焼き 比較都市論とまちづくりの視点から』三宅正弘著、神戸新聞総合出版センター ISBN-10: 4343002055 『日本外食全史』阿古真理著、亜紀書房 ISBN-9784750516837 『ケンミン食のなぜ』阿古真理著、亜紀書房 ISBN-9784750517834
-----	--

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	神戸論						
担当教員	江 弘毅					科目ナンバー	U12050
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	開港以来その都市としての性格を決定づけられた神戸の成り立ちを知り、その特徴と魅力を概観する。						
授業の概要	この授業では、松蔭が神戸・地元の大学であることを前提に、都市社会のモデルとして神戸を取りあげ、現代社会における都市生活についての独自の魅力と社会的な問題を理解し、その問題を解決する方法について学ぶ。最初に、神戸の歴史、開港が決定つけた街の性格、生活様式から文化までを具体的な実例によって学ぶ。続いて、神戸のたぐいまれな街の魅力とそのさまざまなコンテンツを知り理解する。最後に大水害、空襲による破壊、震災と復興を経験した都市として神戸を見直すことにより、今後、災害に備えた生活者として必要な知識をまとめる。						
到達目標	(1) 都市としての神戸の魅力について語り、書き、表現することができる。【知識・理解】 (2) 神戸を「わがまち」としてとらえ、独自のまちづくりについて立案することができる。【知識・理解】 (3) 神戸で都市生活、グルメやファッション、クリエイティブ産業にかかわる人的ネットワークをつくること ができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 オリエンテーション。この授業でなにをやるのか。どんな授業なのか [PC必携] 第2回 神戸と二度の開港。古代から近世 [PC必携] 第3回 慶応3年(1868)の開港で街の性格が決定づけられた神戸 [PC必携] 第4回 開港と外国人の居住による文化 [PC必携] 第5回 外国人居留地、雑居地ほかの近代建築で神戸のまちをとらえる [PC必携] 第6回 開港と洋食文化 [PC必携] 第7回 神戸のパン、スイーツ [PC必携] 第8回 神戸と中国人、中華街の南京町 [PC必携] 第9回 神戸の観光 [PC必携] 第10回 神戸の地勢、自然 [PC必携] 第11回 災害と神戸 [PC必携] 第12回 洋装の黎明からファッション都市・神戸へ [PC必携] 第13回 阪神間モダニズムについて [PC必携] 第14回 メディアのなかの神戸 [PC必携] 第15回 神戸流生活術 [PC必携]						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	神戸の都市としての特徴や魅力をmanabaや参考書はじめ、文学作品、雑誌や新聞、印刷物、映像、デザイン、音楽、グルメ…から抽出し、資料としてストックし、学習すること(90分)。 その資料に基づき、「現地」「現場」を訪ねて実感すること(120分)。						
授業方法	あらかじめ毎回manabaのコースコンテンツに講義の内容をアップします。 レジュメや資料もmanabaにアップします。 講義についてのリアクションペーパーをmanabaのレポートに書いてください。 〈BYOD対象科目〉 【実務経験のある教員等による授業】 都市情報誌の編集長であった職歴を生かして、神戸におけるグルメ、ファッション、観光産業などの事例を紹介しつつ、実務家としての人的ネットワークを生かしたフィールドワークを行う。						
評価基準と評価方法	期末試験＝試論(1200字)50%。各回提出のリアクションペーパー(manabaのレポートに記入)30%、質問応答(コール&レスポンス)、授業中の発表発言20%。						
履修上の注意	出席が授業回数の3分の2に満たない者は期末試験を受けることが出来ません。						
教科書	なし。manabaと毎回の授業内容に応じて。レジュメや資料を配付します。						
参考書	『神戸学』 崎山昌廣監修、神戸新聞総合出版センター ISBN:4-343-00353-1 『外国人居留地と神戸』 田井玲子著、神戸新聞総合出版センター ISBN:9784343007339 『神戸と洋食』 江弘毅著、神戸新聞総合出版センター、ISBN: 9784343010575 『古地図で見る神戸』 大國昌美著、神戸新聞総合出版センター ISBN:9784343006035 『灘の歴史』 田辺真人監修、灘区80年史編集委員会編、神戸新聞総合出版センター ISBN:9784343006455 『ミナト神戸の宗教とコミュニティー』 関西学院大学キリスト教と文化研究センター編、神戸新聞総合出版センター ISBN:9784343007254 『神戸外国人居留地—ジャパン・クロニクル紙ジュビリーナンバー』 神戸新聞出版センター ISBN: 9784875210481						

参考書	『神戸の中国料理』神戸新聞出版センター ISBN:9784875211280 『南京町と神戸華僑』呉宏明、高橋晋一編著、松籟社 ISBN-10:4879843385
-----	---

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	国際ビジネス						
担当教員	平井 拓己					科目ナンバ	U72540
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	国際ビジネスの実態と環境変化を学ぶ						
授業の概要	ヒト・モノ・カネ・情報が国境を越えるときに何か起こるのか、国際ビジネスの実態とその環境変化を学ぶ。具体的には、世界的な企業や特色のある企業を取り上げ、ケーススタディなどにより、成功や失敗の要因を考察する。そのために、国際ビジネスに必要な基本的なビジネス英語と経営・金融知識の基礎を学ぶ。また、日本と関係が深い、アメリカ、アジア、ヨーロッパ地域の経済やビジネスの特徴について理解を深める。						
到達目標	基本的な知識や事例の理解をもとに、国際ビジネスが生活のあらゆる部分に関わることを説明できる。（知識・理解）						
授業計画	1. オリエンテーション：国際ビジネスについて 2. ビジネスの基礎 3. 国際ビジネスの基礎(1) 株式会社の仕組み 4. 国際ビジネスの基礎(2) 上場・株式公開 5. 国際ビジネスにおけるコミュニケーション(1) 世界の多国籍企業 6. ヨーロッパにおけるビジネス(1) 多国籍企業の実例 7. ヨーロッパにおけるビジネス(2) ダイバーシティ 8. アジアにおけるビジネス(1) 日本のグローバルビジネス：実例 9. アジアにおけるビジネス(2) 世界市場での競争 10. アメリカにおけるビジネス(1) ITビジネスの発展 11. アメリカにおけるビジネス(2) GAFAをめぐる課題 12. 国際ビジネスにおけるコミュニケーション(2) 異文化理解 13. 国際ビジネスにおけるコミュニケーション(3) 国際ビジネスに必要な語学 14. 今後の国際ビジネス 15. 質疑応答、期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：経済紙などを読み、毎回の授業時に提出する質問項目（キーワード）を考えまとめる。（学習時間：1時間） 授業後学習：授業中に示す「お題」（授業内容に関連する自主研究）についてまとめて、次回授業時に提出する。（学習時間：3時間）						
授業方法	講義 授業内で紹介する映像や新聞記事をもとに、それらの内容についての質問項目について考え、小レポートを作成、提出する。作成にあたり、テーマによってグループワークを行う。						
評価基準と評価方法	平常点（毎回提出物があります） 40% 中間レポート及び期末試験 60% （受講者数によっては発表をもって試験に替える場合がある）						
履修上の注意	授業は定刻に開始するため受講者には時間厳守を求めます。遅刻は減点の対象となります。 講義中の携帯電話などの使用は厳禁とします。 教室内では帽子を脱いで下さい。 以上守っていただけない場合及び他の受講者に迷惑となる行為を行う受講生は、退出していただきます。						
教科書	なし（資料を配付します）						
参考書	講義中に指示します。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	社会調査演習B						
担当教員	稲見 直子					科目ナンバー	U1321B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	量的調査の手法を用いて社会調査の一連の過程を実践的に学ぶ。						
授業の概要	社会調査演習Aで学修したことを踏まえ、この授業では引き続き、自治体が行った調査データを分析し、報告書作成、プレゼンテーションまでを実践的に行い、地域の課題を発見・解決する力を身に付ける。						
到達目標	(1) 量的調査の手順や技法について専門用語を用いて説明できる。【知識・理解】 (2) 量的調査の企画から分析、報告までできる。【汎用的技能】 (3) 量的調査に主体的に取り組むことができる。【態度・志向】						
授業計画	第1回 社会調査演習Aの中間報告の振り返り 第2回 報告書作成に向けた構成案の検討① 第3回 報告書作成に向けた構成案の検討② 第4回 中間報告 第5回 追加分析 第6回 報告書執筆(1) 第7回 報告書執筆(2) 第8回 報告書執筆(3) 第9回 報告書返却・修正(1) 第10回 報告書修正(2) 第11回 最終報告書提出 第12回 最終報告準備(1) 第13回 最終報告準備(2) 第14回 最終報告準備(3) 第15回 最終報告						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回に関連する事項について、社会調査の参考書に目をとおり要点を整理しておく。＜2時間＞ 授業後学習：授業で出された課題に取り組む。＜2時間＞						
授業方法	社会調査演習Aで行った分析結果をもとに、報告書作成およびプレゼンテーションを行う。						
評価基準と評価方法	・ 授業参加度(10%)：授業に主体的に取り組んでいるかなどを総合的に評価(20%) 到達目標(3)の確認。 ・ 中間報告(20%)：報告態度。内容を総合的に評価(30%)。到達目標(2)(3)の確認。 ・ 報告書(50%)：分析的に書けているか、決められた形式で書けているかなどを総合的に評価(50%)。到達目標(1)(2)の確認。 ・ 最終報告(20%)：発表内容及び発表態度をもとに評価。到達目標(2)(3)の確認。						
履修上の注意	・ 出席回数が全体の3分の2に満たない者は原則単位認定は行わない。 ・ 20分以上の遅刻は欠席とみなし、遅刻3回で欠席1回とする。 ・ 学外実習に伴う交通費などの実費負担がある。						
教科書	授業内容に応じて、適宜レジメと資料を配布する。						
参考書	大谷信介・木下栄二他編，2013，『新・社会調査へのアプローチ——理論と方法』 ミネルヴァ書房。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	社会調査演習A						
担当教員	稲見 直子					科目ナンバー	U1321A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	量的調査の手法を用いて社会調査の一連の過程を実践的に学ぶ。						
授業の概要	この授業では、調査企画から実査、分析、報告書作成、プレゼンテーションまで社会調査の一連の過程について実践的に学ぶ。今年度は自治体が行った調査データを二次分析し、地域の課題を発見・解決する力を身に付ける。						
到達目標	(1) 量的調査の手順や技法について専門用語を用いて説明できる。【知識・理解】 (2) 量的調査の企画から分析、報告までができる。【汎用的技能】 (3) 量的調査に主体的に取り組むことができる。【態度・志向】						
授業計画	第1回 社会調査とは何か（これまで学んできたことを振り返る） 第2回 課題設定に向けた文献・周辺リサーチ(1) 文献資料の収集 第3回 課題設定に向けた文献・周辺リサーチ(2) 既存データの分析 第4回 課題設定に向けた文献・周辺リサーチ(3) テーマの決定 第5回 課題設定の発表・全体討論 第6回 データ整理(1) データクリーニング 第7回 データ整理(2) データ入力 第8回 データ分析(1) SPSSを用いて単純集計、Excelを用いてグラフ作成① 第9回 データ分析(2) SPSSを用いて単純集計、Excelを用いてグラフ作成② 第10回 データ分析(3) データの読み解き① 第11回 データ分析(4) データの読み解き② 第12回 データ分析(5) データの読み解き③ 第13回 中間報告準備(1) PowerPointを用いて報告原稿作成① 第14回 中間報告準備(2) PowerPointを用いて報告原稿作成② 第15回 中間報告／社会調査演習Bに向けて						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回に関連する事項について、社会調査の参考書に目をとおり要点を整理しておく。＜2時間＞ 授業後学習：授業で出された課題に取り組む。＜2時間＞						
授業方法	各自で現代の若者ライフスタイルについて既存データを用いて現状を把握した後、アンケート調査を実施しその実情を分析する。						
評価基準と評価方法	・授業参加度（20％）：授業に主体的・協働的に取り組んでいるかなどを総合的に評価。到達目標(3)の確認。 ・課題提出（30％）：授業内で出された課題の内容や提出状況などを総合的に評価。到達目標(1)(3)の確認。 ・中間報告（50％）：報告態度・内容を総合的に評価。到達目標(2)(3)の確認。						
履修上の注意	・出席回数が全体の3分の2に満たない者は原則単位認定は行わない。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなし、遅刻3回で欠席1回とする。						
教科書	適宜レジメと資料を配布する。						
参考書	大谷信介・木下栄二他編，2013，『新・社会調査へのアプローチ——理論と方法』ミネルヴァ書房。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	社会調査法／社会調査基礎演習Ⅰ						
担当教員	稲見 直子					科目ナンバー	U22030
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	量的調査の特質と意義を理解し、量的データの収集技法や分析方法を修得することを目的とする。						
授業の概要	この授業では、量的調査に関する調査設計と実施方法について解説する。また、実際の社会調査を通じてデータ収集からデータ整理、データ分析までの具体的な技法や調査の一連の過程を実践的						
到達目標	(1) 量的調査の特質と意義を理解し、専門用語を使って説明できる。【知識・理解】 (2) 調査企画から実査、分析までができる。【汎用的技能】 (3) 量的調査に主体的に取り組むことができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 量的調査とは 第2回 量的調査の手順／調査倫理 第3回 サンプリング 第4回 質問紙の作成方法 第5回 質問紙の配布・回収 第6回 質問紙の作成（グループワーク） 第7回 統計データの読み解き 第8回 実査 第9回 データ入力（グループワーク） 第10回 データ整理（グループワーク） 第11回 分析（1）SPSSを用いて単純集計・度数分布表の作成 第12回 分析（2）Excelを用いてグラフ作成 第13回 分析（3）SPSSを用いてクロス集計表作成 第14回 分析（4）レポート作成① 第15回 分析（5）レポート作成②						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：広告や新聞など様々なメディアに掲載されている量的調査に関心をもち、どのような手順で調査が実施されているのかを調べる。＜2時間＞ 授業後学習：授業で学んだ専門用語の復習のほか、データ入力やデータ整理、レポート作成において授業内にできなかったものは授業外に行う。＜2時間＞						
授業方法	前半は講義形式、後半は演習形式で行う。演習では、調査企画や質問紙作成、データ入力・整理はグループで行い、分析とレポート執筆は各自で行う。						
評価基準と評価方法	・授業参加度（10％）：授業内の課題の取組み・提出状況や授業への姿勢・態度を総合的に評価。到達目標（3）に対応。 ・小テスト（30％）：量的調査に関する専門用語の理解度を評価。到達目標（1）に対応。 ・小レポート（20％）：分析的に書けているか、決められた形式で書けているかなどを総合的に評価。到達目標（2）に対応。 ・期末レポート（40％）：分析的に書けているか、決められた形式で書けているかなどを総合的に評価。到達目標（2）に対応。						
履修上の注意	・出席回数が全体の3分の2に満たない者は原則単位認定は行わない。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなし、遅刻3回で欠席1回とする。						
教科書	適宜レジメと資料を配布する。						
参考書	大谷信介・木下栄二他編、2013、『新・社会調査へのアプローチ——理論と方法』ミネルヴァ書房。 篠原清夫・清水強志・榎本環・大屋根淳、2010、『社会調査の基礎——社会調査士A・B・C・D科目対応』弘文堂。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	社会調査論							
担当教員	稲見 直子					科目ナンバー	H21060	
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	木曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	社会調査の種類や技法を学び、実際の調査ができるようになるための基礎的事項を修得する。							
授業の概要	社会調査の種類や技法を学び、実際の調査ができるようになるための基礎的事項を解説する。調査の設計から現地調査の実施方法、データの収集と分析、報告書の作成までの一連の流れを量的・質的調査の双方について解説するほか、社会調査における調査倫理について理解をはかる。また、これまでの社会調査史をたどりながら、実際の調査を題材として社会調査の意義や用途を解説する。							
到達目標	(1)社会調査の基礎的な理論や技法について、専門用語を用いて説明することができる。【知識・理解】 (2)社会調査のデータを読み解くことができる。【知識・理解】 (3)主体的に社会調査を実施することができる。【態度・志向性】							
授業計画	第1回 社会調査の目的と意義 第2回 社会調査の方法論 第3回 量的調査と質的調査 第4回 社会調査の倫理 第5回 公的統計 第6回 二次データの利用(1) 公的統計の読み解き① 第7回 二次データの利用(2) 公的統計の読み解き② ※PC必携 第8回 調査の種類と実例(1) 世論調査 第9回 調査の種類と実例(2) マーケティング調査（ゲストスピーカー） 第10回 調査の種類と実例(3) 観察法 第11回 調査の種類と実例(4) ドキュメント分析 第12回 調査の種類と実例(5) 面接法 第13回 社会調査の歴史 第14回 フィールドワークをまとめる ※PC必携 第15回 期末テスト							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：広告や新聞記事など様々なメディアに載っている社会調査に興味を持ち、その妥当性を疑ってみる。＜2時間＞ 授業後学習：授業で学んだ専門用語を復習するほか、データの読み解きの練習をする。＜2時間＞							
授業方法	基本的に講義形式をとるが、manabaでの小テスト実施、既存データの読み解き、フィールドワークの実施なども取り入れ、学生の主体的参加を促す。＜BYOD対象科目＞							
評価基準と評価方法	・小テスト（30％）：社会調査に関する専門用語の理解度を評価。到達目標(1)に対応。 ・レポート（30％）：公的統計やフィールドワークのデータ収集がきちんと行われているか、データの読み解きが正確に行われているかなどを総合的に評価。到達目標(2)(3)に対応。 ・期末テスト（40％）：社会調査に関する専門用語や歴史の理解度を評価。到達目標(1)(2)に対応。							
履修上の注意	・出席回数が全体の3分の2に満たない者は原則単位認定は行わない。 ・学外でフィールドワークを実施するので、交通費や入館料が発生することがある。 ・社会調査士を将来的に目指すことを目的としているので、この科目を受講した学生は引き続き「社会調査法（旧社会調査基礎調査Ⅰ）」「質的調査法（旧社会調査基礎調査Ⅱ）」を受講することが望ましい。							
教科書	適宜レジメと資料を配布する。							
参考書	大谷信介・木下栄二他編, 2013,『新・社会調査へのアプローチ——理論と方法』ミネルヴァ書房. 篠原清夫・清水強志・榎本環・大屋根淳, 2010,『社会調査の基礎——社会調査士A・B・C・D科目対応』弘文堂.							

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	生涯発達論						
担当教員	加納 真美					科目ナンバー	H11040
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	発達段階をととしたヒトの身体の仕組みと心理社会的成長を中心に考察する。						
授業の概要	発達段階をととした人間の身体の仕組みと心理社会的成長を中心に考察する。人間の発生時における遺伝によって子どもへ受け継がれる性質、出生後の脳や感覚器官の発達、認知機能の心理生理的発達と脳の変化、社会性の心理的発達、成人し抱える心理的諸課題、自らが親になる際の母性や父性の出現と役割、このように発達段階をととして獲得していく生理的変化、身体の構造や心理社会的スキルを知る。常に成長する人間を生物として考える目を養う。						
到達目標	1. ヒトの遺伝、脳のはたらき、発達に関する基本的な用語の説明をすることができる。[知識・理解] 2. 発達段階における心理社会的スキルを行動面と機能面から解説することができる。[知識・理解] 3. 遺伝、発達における行動の事例を挙げ、それについて自分の考えを述べるすることができる。[知識・理解] [態度・志向性]						
授業計画	1. 講義の紹介、恋愛の科学について 2. 新生児、乳児について 3. 胎児について、出生前診断について 4. 遺伝と環境について① 相関について、双生児研究 5. 遺伝と環境について② チンパンジー研究 6. 記憶のしくみについて 7. 記憶の障害について 8. 高次脳機能障害について 9. 愛着について① 愛着形成のパターン、ストレンジシチュエーションテストについて 10. 愛着について② 児童期以降の愛着について、虐待の問題 11. 性と性役割について 12. LGBTQと性スペクトラムについて 13. 発達障害について① 種類と症状について 14. 発達障害について② 対処方法、社会の取り組みについて 15. まとめ、縦断研究について						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業で指示する資料を収集し、まとめる。（学習時間：2時間） 授業後学習：授業で指定された課題についてレポートの作成（学習時間：2時間）						
授業方法	講義形式で授業を実施する。進度に応じて、ミニレポートと授業内での発表を行う						
評価基準と評価方法	小レポート(30%)：授業中に視聴した資料のまとめや実験・演習のまとめと、それに対する自分の考えについて評価する。到達目標2,3に関する到達度の確認。 レポート(50%)：授業で扱った内容に関する理解度とそれを生活に応用する力について評価する。到達目標1,2,3に関する到達度の確認するために、2つ～3つのテーマに沿ったレポートを提出すること。 確認テスト：(20%)：確認のためのテストを授業内に行なう						
履修上の注意	3分の2以上の出席が必須である。授業中、私語、電子機器の操作を禁止する。						
教科書	なし。プリントを適宜用いる。						
参考書	「生涯発達心理学」 金子書房、ISBN：4-7608-9211-7 「アタッチメント」 ミネルヴァ書房、ISBN:4-623-04107-7						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	消費行動論						
担当教員	杉林 弘仁					科目ナンバ	U12100
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	消費することなしに日々の生活は考えられません。ところが皆さんは、「なぜ、それを買ったのか」自分の消費行動について、あまり考えることはないと思います。この授業では「消費者心理」から捉えられる「消費者行動」と企業の「マーケティング行動」の2つの視点から、皆さんが普段考えることのない消費者行動について勉強します。「消費者行動を捉えるフレームの理解」がこの授業のテーマです。						
授業の概要	皆さんの多くは、数年後には企業の側にたって製品やサービスを提供していく側になります。その前に、皆さんの毎日の生活は、企業が作り出す製品やサービスによって成り立っているということ、そして、企業からみれば皆さんは「市場にいる人々」ということを理解します。人々の消費行動は、不思議に打ち満ちた世界です。消費者行動論は、この不思議の「消費」について考える「道具」です。この不思議の解明に乗りだそうというのがこの講義の内容です。 授業の計画としては、3部構成です。 最初は、「個人としての消費者」から入り、消費者行動を理解するための理論や概念をつかみます。消費者行動論はマーケティングとの関わりは外せません。その次は、企業はどのようにして消費者の行動を読み取りマーケティングに活かそうとしているのか。企業のマーケティング視点から消費者行動論を捉えます。途中に実務家を交えた講義を設ける予定です。そして、最後は「社会的存在としての消費者」について考えます。						
到達目標	<知識・理解の観点から> 皆さんが、消費者心理に基づく消費行動を理解し、企業はどのようにして消費者の行動を読み取りマーケティングに活かそうとしているのか、企業のマーケティング行動について説明できることを目標とします。 <態度・志向性の観点から> 教室の中や本の上でなく、市場におりましょう。今から自分をマーケターとして、市場をみる習慣、市場をみる目を養い、日常からの発見への工夫ができることを目標にします。 <汎用的技能の観点から> 自ら積極的コミュニケーションを図る態度を身につけることを目標にします。						
授業計画	第1週 インTRODクシヨンとして、市場と企業の関わりについて考えます。みんなは消費者であること。最初に社会・経済・消費の構造を理解します。「消費者行動とは何なのか」まず、消費者行動論の全体像をつかみます。 第2週 「消費者にとって現実とは何か」知覚のプロセスについて理解します。 第3週 「消費者はどのように製品やサービスを学ぶのか」学習のプロセスを学習します。 第4週 「人は何によって動かされるのか」消費者の情報処理と記憶のメカニズムを学習します。購買へと促す動機づけについて考えます。 第5週 「なぜ好きと嫌いが生まれるのか」消費者の「態度」の形成について学習します。 第6週 消費者は問題を解決する。「なぜ、それを買ったのか」消費者の購買意志決定のプロセスについて学習します。 第7週 ここから企業の立場からの学習です。「消費者をどのように切り分けるのか」市場細分化について理解します。 第8週 「消費者をどのように説得させるのか」企業のマーケティング・コミュニケーションについて学習します。 第9週 店頭からのマーケティングとして、「売れる店舗レイアウト」と「売れる販売」、そして「マーチャンダイジングとは何か」を学習します。 第10週 企業の第一線で活躍する実務家をお招きし、その事業について解説いただき、企業と消費者行動の結びつきを考えます。 第11週 「買い物は自己表現なのか」「消費が自己のアイデンティティを示すのか」消費とアイデンティティについて考えます。 第12週 「買い物は誰が決めるのか」家族や組織としての購買意志決定について考えます。 第13週 我々は「社会的動物」としての個人です。個人に影響を与える「集団」について考えます。 第14週 「なぜブランド品を選ぶのか、製品はライフスタイルの基礎か」社会階級とライフスタイル、「ステータス」について考えます。 第15週 「文化とは何か」、文化と消費者行動について考えます。消費者行動論の総復習として確認テスト、その解説と消費者行動論のポイントを振り返ります。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：課題を出します。 授業後：テキストを読み返してください。テキストや授業で得た知見から、実際の消費者行動を企業のマーケティング活動に照らして「考えてみる時間」をとってください。 それには、フィールドにでて観察することです。現場で得た知見やアイデアを、ノートを作って記録することを求めます（2時間）						
授業方法	・授業はパワーポイントを使って「講義形式」で進めますが、状況によって授業予定項目が変わる場合があります。実務家講義が予定に合わない場合は授業に変更します。 ・受講者数にもよりますが、双方コミュニケーションを図るため随時発言を求め、ディスカッションの時間も設けます。						
評価基準と評価方法	・授業への取り組みや積極性 20%：授業後のアンケートなど授業への貢献度や「態度」をみます。 ・期中のレポートもしくはテスト40%：状況みて途中でレポートもしくはテストを行います。 ・期末の確認テスト 40%						

履修上の注意	出席点というものは存在しませんが、出席が50%以下の受講生は期末テストを受けることはできません。
教科書	松井剛・西川英彦他(2020)『1からの消費者行動論 第2版』(碩学舎/中央経済社) 2,400円
参考書	皆さんの状況をみて随意、紹介していきますが、とりあえず、 青木幸弘・新倉貴士・佐々木壮太郎他(2012)『消費者行動論 マーケティングとブランド構築への応用』他著(有斐閣) 2,200円 松井剛・大竹光寿・北村真琴訳(2015)『ソロモン消費者行動論』 8,800円

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	消費者法						
担当教員	池内 博一					科目ナンバー	U73090
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	この授業では、消費者法の意義や各種消費者立法の規定内容を解説するとともに、消費者トラブル事例とそれに対処するための方法を明らかにすることをテーマとする。						
授業の概要	この授業は、消費者法の意義や歴史、各消費者関連立法の規定内容などを理解するとともに、くらしにおいて生じる消費者問題について、その法的解決方法を自ら思考することができる力を身につけることを目的とする。具体的には、まず、消費者法総論として、消費者法の意義や体系、歴史などを学ぶ。その後、各論として、消費者基本法をはじめ、消費者契約法、特定商取引法、割賦販売法などの各種消費者関連立法の背景や目的、規定内容等について個別的に解説・検討する。また、各回の授業テーマに関連する重要な消費者トラブル事例を取り上げ、受講者が消費者問題とその法的解決方法について自ら考える機会を提示する。						
到達目標	①消費者法の意義を理解するとともに、個別の消費者関連立法の目的や規定内容を説明できるようになる。 ②消費者トラブルについて、法的に思考し、その解決方法を検討・提示できるようになる。 ③消費者法の理解を通して、社会に役立つ法的素養を身につける。						
授業計画	第1回 講義ガイダンス 第2回 消費者法とは何か（消費者法の意義、歴史、体系） 第3回 民法と消費者法①（私法の基本原則、信義則、公序良俗） 第4回 民法と消費者法②（詐欺、強迫、契約、不法行為） 第5回 消費者基本法 第6回 消費者教育推進法 第7回 消費者契約法①（情報提供義務、不当な勧誘行為） 第8回 消費者契約法②（不当な契約条項、消費者団体訴訟制度） 第9回 特定商取引法①（総論、クーリングオフ） 第10回 特定商取引法②（規制対象取引） 第11回 消費者信用取引と法 第12回 電子商取引と法 第13回 広告・表示と法 第14回 消費者の安全と法 第15回 消費者被害の救済と法 ※なお、進捗状況や受講者の理解度に応じて、順番や内容などを若干変更することがある。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：事前配信する授業資料を確認して、キーワードや法令などを調べておく（学習時間2時間） 授業後学習：授業資料を精読して授業内容を振り返る。課題に取り組み、期限内に提出する（学習時間2時間）						
授業方法	対面での講義形式で実施する。 消費者トラブルに関する具体的事例も取り入れながら授業を行う。						
評価基準と評価方法	授業参加状況、授業内課題、最終テストにより総合的に評価する。 1. 授業参加・授業内課題（小テスト）…50点 2. 最終テスト（試験またはレポート）…50点						
履修上の注意	①毎回出席状況を確認するので、無断欠席をしないこと ②私語、途中退室、その他の授業環境を乱す行為をしないこと						
教科書	教科書は指定しない。 授業資料を配信・配付する。						
参考書	中田邦博・鹿野菜穂子「基本講義 消費者法〔第5版〕」日本評論社、2022年（ISBN:978-4-535-52620-4） その他の参考書については、授業内で適宜紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	消費生活論						
担当教員	青谷 実知代					科目ナンバ－	U12110
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	目まぐるしく変化する状況を消費生活の視点から捉え、消費者と企業（生産者も含む）の双方向から理解することで持続可能な社会の形成を目指したライフスタイルの確立を目指す。						
授業の概要	私たちが普段使っているもの、身につけているもの、家にあるものは、ほとんどがどこかで購入されたものである。お店に出向いて買うこともあれば、インターネットで買うということもあるだろう。私たちがどのようにしてこうしたものを買って使っているのか、一連の消費行動を振り返りながら考えていく。そして、経済社会の変化と消費生活、消費者の権利と責任、消費者と企業や行政とのかかわり及び連携の在り方について学び、持続可能な社会の形成を考え、消費者の支援に必要な能力と態度とは何か理解を深めていく。						
到達目標	①経済社会の変化と消費生活の関係を理解することができる。（知識・理解） ②消費者の権利と責任を考え、実践していくために必要な態度・志向性を身につけることができる。（態度・志向性） ④持続可能な社会の形成を描くことができる。（汎用的技能）						
授業計画	第1回 個人としての消費者（家計の現状から） 第2回 消費生活の視点（知覚：人の数だけ現実が存在する）【PC必携】 第3回 生活における経済管理（学習：観察学習・・・動機づけ）【PC必携】 第4回 財・サービスの選択（記憶：思い出は美化される？）【PC必携】 第5回 多様化する流通・販売方法と消費者（態度：好き・嫌いとはどのように生まれるのか）【PC必携】 第6回 意思決定—なぜそれを買ったのか—【PC必携】 第7回 人の好みの違いと消費者の権利・責任【PC必携】 第8回 コミュニケーション—発信源効果とメッセージ効果—【PC必携】 第9回 店頭マーケティング—売れるお店はどうやってつくる？—【PC必携】 第10回 社会的存在としての消費者：アイデンティティ【PC必携】 第11回 家族の購買意思決定とライフサイクル、子供の社会化【PC必携】 第12回 集団—なぜ友人同士の服装は似てしまうのか？—【PC必携】 第13回 ステイタス—なぜモノが集団のシンボルになるのか？—【PC必携】 第14回 持続可能な社会の形成と消費行動（サブカルチャー）【PC必携】 第15回 儀式としての消費（文化）と環境問題（まとめ）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	【授業前】常に新聞を見て情報を集めておくこと。昨今の環境配慮などがどのように進んでいるのか読んでおく（学習時間：2時間） 【授業後】授業中に取り組んだ内容を含め、何を学び、どのように考えたのか・・・という自分の考えをまとめる（学習時間：2時間）						
授業方法	講義形式（BYOD対象科目） ・課題解決型 ・ディスカッションやディベート、プレゼンテーションを実施						
評価基準と評価方法	中間テスト（20％）、レポート（2回）manabaで提出（20％）、期末試験（60％）などによる総合評価						
履修上の注意	①新聞必読 ②授業中の携帯電話、メール、居眠り、20分以上の遅刻・途中退出など、厳しく対処する。						
教科書	授業中に紹介する						
参考書	随時、授業中に紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	食行動論						
担当教員	鳥居 さくら					科目ナンバー	U72220
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	食行動の心理学						
授業の概要	人が生きていくうえで欠かせない行動が食行動である。この授業では、乳児期、幼児期、児童期、青年期の各年代における食行動の心理的な特徴や問題点を解説し、食問題をテーマとした課題について議論する。母乳の心理的意味、食の嗜好や嫌悪の発達、集団における食行動の変容、食環境の心身に対する影響、食にまつわる行動異常などについて論じる。生涯にわたる自分自身や家族の健康を食の観点から考え、実践できる方法を身につける。						
到達目標	1. 各年代における食行動の心理学的な特徴や問題点を列挙し、説明することができる。[知識・理解] 2. 個人や社会における食問題についてまとめ、自分の考えを述べることができる。[知識・理解][態度・志向性]						
授業計画	1. 授業の概要 【対面】 [PC必携] 2. 離乳期までの食行動(1)－母乳とミルク－ 【対面】 [PC必携] 3. 離乳期までの食行動(2)－母乳の育てる仕組み－ 【対面】 [PC必携] 4. 離乳期までの食行動(3)－母乳の心理的側面－ 【遠隔】 [PC必携] 5. 幼児期の食行動(1)－味覚の発達－ 【遠隔】 [PC必携] 6. 幼児期の食行動(2)－食物嗜好と拒否の発達－ 【遠隔】 [PC必携] 7. 食問題をテーマにしたKJ法の活用(1)－テーマ設定－ 【対面】 [PC必携] 8. 食問題をテーマにしたKJ法の活用(2)－アイデア出し－ 【対面】 [PC必携] 9. 食問題をテーマにしたKJ法の活用(3)－発表－ 【対面】 [PC必携] 10. 児童期の食行動(1)－特徴と問題点－ 【遠隔】 [PC必携] 11. 児童期の食行動(2)－食卓の絵からの考察－ 【遠隔】 [PC必携] 12. 青年期の食行動(1)－摂食障害－ 【遠隔】 [PC必携] 13. 青年期の食行動(2)－味とニオイの相互作用－ 【遠隔】 [PC必携] 14. 青年期の食行動(3)－食行動と環境要因－ 【対面】 [PC必携] 15. まとめ 【対面】 * 授業回により、【遠隔】と【対面】が変更になる場合があります。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業で指示する資料を収集し、まとめる。（学習時間：2<時間>） 授業後学習：授業で指定された課題を松蔭manabaに投稿する（学習時間：2<時間>）						
授業方法	講義形式で授業を実施する。 授業に関係するテーマについてグループでディスカッションし、まとめ、発表を実施する授業回もある。 manabaを利用し小テストやアンケートなどをおこなう授業回もある。 <遠隔指定授業> <BYOD対象科目>						
評価基準と評価方法	小レポート(50%)：グループディスカッションのレポートや提出物を評価する。到達目標2に関する到達度の確認。 試験(50%)：授業でとりあげた、各年代における食行動の心理学的な特徴や問題点を確認し、自分の考えを述べるかについて評価する。到達目標1,2に関する到達度の確認。						
履修上の注意	3分の2以上の出席がないと、受講資格を失う。						
教科書	なし。適宜、資料をmanabaに添付する。						
参考書	「人間行動学講座2 たべる－食行動の心理学－」 中島義明、今田純雄編 朝倉書店 1996 4800円 「母乳」 山本高治郎著 岩波新書 1983 490円 「未熟児」 山内逸郎著 岩波新書 1992 580円 「子どもと家族とまわりの世界(上)赤ちゃんはなぜなくの」 D・W・ウィニコット著 星和書店1985 1400円 「知っていますか 子どもたちの食卓 ー食生活からからだの心が見えるー」 足立己幸 NHK「子どもたちの食卓」プロジェクト 日本放送出版協会 2000 1500円						

--	--

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	食品衛生学						
担当教員	亀井 健吾					科目ナンバー	U73450
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	「食」に関わる者として必要な食品衛生行政・関連法規、食中毒、食品添加物などの食品衛生・衛生管理の基礎的知識を身に付ける。また、食餌性病害の原因を知り、その特徴と予防方法について学ぶ。						
授業の概要	食品衛生学では、「食の安心・安全」の重要性を認識し、安全性の確保および衛生管理の方法について理解することを目的として講義を進める。 本講義では、食中毒や食品添加物を中心として、食品衛生に関連する最新情報について解説する。						
到達目標	・食品汚染を引き起こす微生物や有害物質について述べることができる【知識・理解】 ・食品添加物の有用性と安全性を説明することができる【知識・理解】 ・食の安全に関する諸問題に適切に対応するための知識と判断力を身につける【知識・理解、汎用的技能】						
授業計画	第1回 食品の安全 第2回 食品衛生と法規 第3回 食品の変質とその防止(1) -微生物による変質 第4回 食品の変質とその防止(2) -化学的変質 第5回 食中毒(1) -食中毒の分類 第6回 食中毒(2) -細菌性食中毒① 第7回 食中毒(3) -細菌性食中毒② 第8回 食中毒(4) -ウイルス性食中毒、寄生虫 第9回 食中毒(5) -自然毒、化学性食中毒 第10回 食中毒(6) -かび毒、寄生虫、衛生動物 第11回 有害物質と食品の安全性 -放射性物質、有害元素、農薬 第12回 食品添加物と安全性(1) -食品添加物の分類、安全性評価 第13回 食品添加物と安全性(2) -食品添加物の有用性と安全性 第14回 食品衛生対策 第15回 食品の器具と容器包装 第16回 期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業計画に従って、授業までに教科書の該当する箇所を読むこと。（学習時間1.5時間） 授業後学習：毎回の授業後に内容を整理し、ワークブックを用いて復習するようにすること。（学習時間2.5時間）						
授業方法	講義で実施します。教科書を必ず持参するようにしてください。 授業内で挙手またはアプリを利用した質問受付の時間を設け、ディスカッション・回答を行い解決します。 課題としてワークブックを配布しますので、後日提出してください。						
評価基準と評価方法	期末試験：70% 小テスト・課題(ワークブック)：30%						
履修上の注意	20分未満の不在（遅刻・早退等）は、1/3回の欠席とみなす。また20分以上不在の場合は、欠席扱いとする（交通機関遅延などの事情がある場合は考慮する）。 出席回数が開講回数の2/3に満たない者は、原則として単位認定を行わない。 成績不良者に対する期末試験の再試験は実施しない。 ただし4年生以上の者で、3年生後期までに配当された卒業必修単位が本授業を除きすべて修得済みの者に対しては、一度に限り再試験を実施する。						
教科書	健康・栄養科学シリーズ 食べ物と健康『食品の安全』改訂第2版（国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 監修、有蘭幸司 編） ISBN：978-4-524-24532-1						
参考書	『新 食品衛生学要説』医歯薬出版 細貝祐太郎、松本昌雄、廣末トシ子 編 三訂 食品の安全性 第3版 （公社）日本フードスペシャリスト協会 篇						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	食品加工学						
担当教員	川口 真規子					科目ナンバ－	U72420
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	食品加工の原理や保存方法について学び、伝統的加工法から現在の最新加工法までその原理と応用技術を理解する。						
授業の概要	消費者の嗜好の多様化、健康・安全志向、生活の合理化などから、加工食品の占める割合や価値は高まり、さらに質と量の充実が図られていくと予想される。食品の加工・貯蔵に関する理論や食品の加工技術及び製造工程について、①植物性食品、②動物性食品、③その他の食品の順で解説する。						
到達目標	1) 各種加工食品の製造工程と基本的な加工原理を説明できる。【知識・理解】 2) 加工食品の利点や欠点を理解したうえで実生活に応用できる力を身に付ける。【知識・理解】						
授業計画	第1回：食品加工の目的、原理、概要 第2回：食品の加工法 第3回：食品の保存法 第4回：農産食品の加工（穀類の加工） 小テスト① 第5回：農産食品の加工（イモ類・豆類の加工） 第6回：農産食品の加工（野菜・果実類の加工） 第7回：畜産食品の加工（肉類の加工） 第8回：畜産食品の加工（乳・卵の加工） 第9回：水産食品の加工 小テスト② 第10回：食用油脂および調味食品 第11回：嗜好食品およびインスタント食品 第12回：食品の包装 第13回：加工食品の規格と表示制度 《PC必携》 第14回：加工食品と食品衛生 食品業界の現状 《PC必携》 第15回：まとめ、期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：授業計画に従って教科書の該当するところをあらかじめ読んでおく グループワークのための資料作成を行う（学習時間：2時間）。 授業後：配布プリント等を使い学習内容をノートにまとめる（学習時間：2時間）。						
授業方法	講義 ただし、第13回「加工食品の規格と表示制度」に関してはグループワークの結果発表をふまえて、解説・講義を行う反転授業形式とする。 《BYOD科目》						
評価基準と評価方法	授業における発表（10%）：発表時における積極性、グループでの協調性、発表技術で評価する。 到達目標1）に関する到達度の確認。 小テスト（40%）、期末テスト（50%）：学習内容全般に対する理解度で評価する。 到達目標1）に関する到達度の確認。						
履修上の注意	積極的に学ぶ姿勢が必要です。						
教科書	新食品・栄養科学シリーズ 食品加工学（第2版）食べ物と健康3 化学同人 ISBN 978-4-7598-1117-9						
参考書	特になし						

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	食品加工学実験							
担当教員	川口 真規子					科目ナンバー	U22430	
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	金曜1～2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	各種加工食品を製造することにより、食品加工の原理を深く理解する。 食品の製造に必要な科学的知識を実験を通じて理解し、食品の加工に応用する。							
授業の概要	加工食品は私たちの食生活に不可欠なものである。本実験は加工食品の製造工程を具体的に把握するとともに、その加工原理や貯蔵方法などを科学的に理解することを目的としている。							
到達目標	1) 加工食品を実際に製造することにより、その加工原理および製造方法を述べることができる。 【知識・理解】 2) 加工に必要な機器類の原理を理解したうえで適切に使用して食品加工を行うことができる。【汎用的技能】 3) 実験により得られた結果について論理的な考察を加えることができる。【知識・理解】 4) 科学レポートの作成ルールに基づいた書式・図表を用いてレポートを作成することができる。 【汎用的技能】							
授業計画	第1回 諸説明 【PC必携】 第2回 豆類の加工 みそ仕込み 第3回 乳類の加工 ヨーグルト 《実験1》ヨーグルトのpH測定 種実類の加工 ピーナツクリーム 第4回 いも類の加工 こんにゃく 第5回 菓子類の加工 キャラメル・バタースカッチ 《実験2》砂糖の加熱温度の違いによる変化 第6回 豆類の加工 豆腐 第7回 穀類の加工 うどん 《実験3》グルテンの分離 第8回 乳類の加工 アイスcream まとめ1 レポート提出 【PC必携】 第9回 乳類の加工 フレッシュチーズ 第10回 野菜類の加工 トマトケチャップ 【PC必携】 《実験4》加熱濃縮による可溶性固形成分の変化測定 野菜類の加工 ビクルス 第11回 肉類の加工 ソーセージ 第12回 菓子類の加工 シュトーレン 《実験5》製パン発酵条件の比較 乳類の加工 バター 第13回 果実類の加工 ・びん詰めの製造 りんごジャムびん詰め 《実験6》ベーキングパウダーによる膨化試験 第14回 乳類の加工 乳酸飲料 みそ官能評価 第15回 まとめ2 レポート提出 【PC必携】							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：実習・課題レポートの準備（学習時間1時間） 授業後：実習・課題レポートの作成・完成（学習時間1時間）							
授業方法	実習および実験 《BYOD対象科目》							
評価基準と評価方法	授業への取り組み（30％）：実習・実験に対する積極性や協調性、衛生対策の順守などで評価する。 到達目標1）2）に関する確認。 レポート（70％）：実習・実験内容の理解度、データのまとめ方と図表の作成の仕方などで評価する。 到達目標1）3）4）に関する確認。							
履修上の注意	この科目は「食品加工学」履修済みの学生のみ受講可能です。 食品アレルギーのある学生は事前に連絡してください。対応します。							
教科書	オリジナルのテキストを配布							

参考書	特になし
-----	------

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	食品学						
担当教員	升井 洋至					科目ナンバ	U73440
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	食品について、その科学的性質を総合的に理解する。						
授業の概要	食品は我々の日常生活を健康に維持する上で、栄養に富み、積極的に摂取する食物の素材材料でなくてはならない。そのためには、栄養のみでなく、嗜好的に「おいしく」食べる因子の持つ役割も重要である。味、匂い、色彩などとともテクスチャーも、これらの重要な要因である。これら因子を視覚、嗅覚、視覚、触覚さらに聴覚など人は五感の総合判断により、「食べる」のである。本講義では、食品の成分と特性について解説する。さらに、食品の味、色、香り、テクスチャー等とおいしさとの関連性について解説する。						
到達目標	食品成分の科学的性質を理解し、そして日常の食生活でこれらの食品の科学的特性について、説明できる。（知識・理解） 本講義より、食品から調理加工品をつくり、利用することを理解して、食に関連する課題の解決について提案できる。（汎用的技能）						
授業計画	第1回 授業の概要と説明 食品の分類と食品成分表① （1）食品とは （2）食品の機能 （3）食品の分類 第2回 食品の分類と食品成分表② （4）食品成分表 食品成分の構造と基礎① （1）水分 第3回 食品成分の構造と機能② （2）炭水化物 第4回 食品成分の構造と基礎③ （3）たんぱく質 第5回 小テスト① 食品成分の構造と基礎④ （4）脂質 1 第6回 食品成分の構造と基礎⑤ （4）脂質 2 （5）ビタミン 1（水溶性ビタミン） 第7回 食品成分と構造の基礎⑥ （5）ビタミン 2（脂溶性ビタミン）（6）無機質 第8回 食品酵素の分類と性質① （1）酵素の分類・性質 （2）食品酵素と品質 第9回 食品酵素の分類と性質 （3）食品加工と酵素 第10回 小テスト② 色・香り・味の分類と性質① （1）色 第11回 色・香り・味の分類と性質② （2）香り 第12回 色・香り・味の分類と性質③ （3）味 第13回 食品成分の変化① （1）炭水化物の変化 （2）たんぱく質の変化 第14回 食品成分の変化② （3）脂質の変化 （4）成分間相互作用 食品機能① （1）食品機能の概念 （2）機能性食品 第15回 食品機能② （3）食品機能 まとめ 第16回 期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：講義テーマについて、教科書による予習（学習時間2時間） 授業後学習：講義内容について、要点整理、確認テストによる理解度の確認（学習時間2時間）						
授業方法	対面講義						
評価基準と評価方法	レポート課題10%、小テスト30%、期末試験60% レポート課題：課題について、調査し、自己の考えを述べているかを評価する。 小テスト：講義を通じて、説明した内容（特に教科書記載の文言）が理解できているかを評価する。 期末試験：講義を通じて得た知識等より、食品について総合的に説明ができるかを評価する。						
履修上の注意	日常生活で食品について、興味、関心をもって、講義の予習、復習を行うこと。 出席回数が開講回数の3分の2に満たない場合、単位認定は行わない。 遅刻、早退30分以上は欠席とする。						
教科書	食物学Ⅰ，建帛社 ISBN 978-4-7679-0703-1						
参考書	新 食品・栄養科学シリーズ「食品学総論(第3版) 食べ物と健康①」森田準司・成田宏史編、化学同人、ISBN 978-4-7598-1640-2 八訂 食品成分表 2025、香川明夫／監修、女子栄養大学出版部、ISBN 978-4-7895-1025-7 新版 日本食品大事典 電子版付、杉田浩一・平宏和・田島眞・安井明美 編、ISBN978-4-263-70716-6						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	食品機能学						
担当教員	川口 真規子					科目ナンバー	U73470
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	生物にとって食品とは本来「成長および生命の維持」という機能を有するものである。しかし、現在の私たちは基本的な機能のみならず様々な機能を求めて食品を摂取している。本授業では、日常的に摂取する食品の機能（一次機能：栄養性、二次機能：嗜好性、三次機能：生体調節機能）について説明し、特に三次機能については主な機能とその作用メカニズムについて、実際の食品を例に挙げながら解説する。						
授業の概要	食品のもつ3つの機能（一次機能：栄養性、二次機能：嗜好性、三次機能：生体調節機能）について解説する。特に、三次機能については保健機能食品として認可・届け出されている食品素材を中心に、主な機能性とその作用メカニズムについても概説する。						
到達目標	1) 食品の機能性について理解し、解説することができる。【知識・理解】 2) 特定保健用食品、栄養機能食品、機能性表示食品についての最新の知識を理解し、これらに関わる法律について説明できるようになる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 食品の持つ機能とは 【対面】 第2回 食品の生体調節機能 活性酸素と生体 【対面】 第3回 食品の生体調節機能 抗酸化機能 ①活性酸素と疾病 【遠隔】 第4回 食品の生体調節機能 抗酸化機能 ②抗酸化機能を持つ食品 【遠隔】 第5回 食品の生体調節機能 糖質吸収阻害・腸内環境改善機能 ①難消化性成分の特徴 【遠隔】 第6回 食品の生体調節機能 糖質吸収阻害・腸内環境改善機能 ②腸内細菌がヒトに及ぼす影響 【遠隔】 第7回 食品の生体調節機能 ミネラル吸収促進・代謝改善機能 【遠隔】 第8回 食品の生体調節機能 脂質関連代謝機能 ①多価不飽和脂肪酸の分類・特徴 【遠隔】 第9回 食品の生体調節機能 脂質関連代謝機能 ②機能性脂質 【遠隔】 第10回 小テスト 【遠隔】 第11回 食品の生体調節機能 酵素阻害機能 【遠隔】 第12回 食品の生体調節機能 免疫・神経系におよぼす機能 【遠隔】 第13回 特定保健用食品 【遠隔】 第14回 栄養機能食品、機能性表示食品 【遠隔】 第15回 まとめ 期末テスト 【対面】						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：プレゼンテーションのための資料作成を行う（学習時間：2時間）。 授業後：配布プリント等を使い学習内容をノートにまとめる（学習時間：2時間）。						
授業方法	【BYOD対象科目】 松陰manaba、zoomを使用した講義。 ただし、一部の講義はプレゼンテーションの内容をふまえて、解説・講義を行う形式とする。 ＜遠隔指定授業＞						
評価基準と評価方法	小テスト・期末テスト（計60%）：到達目標1）2）の達成度確認。 レポート（30%）：到達目標1）の達成度確認。 受講態度（10%）：プレゼンテーションでの積極性、協調性などで評価する。						
履修上の注意	積極的に学ぶ姿勢が必要です。						
教科書	なし 授業時に資料を配布						
参考書	改定 食品機能学[第2版] 建帛社						

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	食品の流通論							
担当教員	伊藤 佳代					科目ナンバー	U72530	
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	食品食料の生産・流通・消費までの流れと具体的かつ総合的に把握することを目的とする。（フードスペシャリスト試験科目）							
授業の概要	情報、技術、社会環境など様々な要因によりフードマーケティングは、日々変化している。食品をめぐる状況の把握、食品流通に携わる組織、食品流通の役割、特徴、仕組みを理解し、その流通と消費を考察していく。また、マーケティングの基礎理論を学ぶことでフードマーケティングの動向や今日の食品問題と流通システムについて考えていく。							
到達目標	1. 生産現場を理解し、市場の特徴を説明することができる。（知識・理解） 2. 流通プロセスの変化を理解し、現代の流通課題について批判的に捉えることができる。（汎用的技能） 3. 食に関する現代の課題について、主体的な行動をとることができる。（態度・志向性）							
授業計画	授業はフードスペシャリストの指定テキストである「四訂 食品の消費と流通（建帛社）」に沿って進めます。 第1回 オリエンテーションと流通 第2回 食市場の変化① p 2-17 第3回 食市場の変化② p 17-30 第4回 食品の流通① p 32-45 第5回 食品の流通② p 45-60 第6回 外食・中食産業のマーチャンダイジング① p 62-70 第7回 外食・中食産業のマーチャンダイジング② p 70-78 第8回 主要食品の流通① p 80-100 第9回 主要食品の流通② p 100-110 第10回 フードマーケティング① p 114-128 第11回 フードマーケティング② p 128-134 第12回 フードマーケティング③ 企業の事例 第13回 フードマーケティング④ 企業の事例 第14回 食料消費の課題① p 136-143 第15回 食料消費の課題② p 143-152・期末試験							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	【授業前】スーパー、コンビニ、百貨店などでどのように食品を取扱い、管理しているのかを観察する。テキストを事前に一読する。（学習時間：2時間） 【授業後】ニュースや新聞から食品に関する記事にふれる。授業中に指示された課題についてレポート等を作成する。（学習時間：2時間）							
授業方法	講義 ・課題解決型学修を取り入れる。 ・プレゼンテーションを取り入れる。							
評価基準と評価方法	・授業内での提出物とレポート 40% ・プレゼンテーション 50% ・期末試験 10%							
履修上の注意	・講義全体の2/3の出席が確認できない場合は、受講資格を失う。20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・グループワーク、ディスカッション等を積極的に取り入れる。							
教科書	・日本フードスペシャリスト協会編『四訂 食品の消費と流通』建帛社、2021年。ISBN978-4-7679-0687-4 ・文野直樹、陶山計介著/伊藤佳代（執筆協力）『大阪王将の「超える」経営』幻冬舎メディアコンサルティング、2024年3月刊行。ISBN978-4-344-94738-2							
参考書	・陶山計介・鈴木雄也・後藤こず恵編『よくわかる現代マーケティング』ミネルヴァ書房、2017年。ISBN978-4-623-07975-9							

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	食文化論							
担当教員	江 弘毅					科目ナンバー	U73610	
学期	前期／1st semester		曜日・時限	木曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	現在進行系の「都市の食文化」と「消費社会におけるのグルメ」について、さまざまなテーマから概観する。							
授業の概要	衣食住など、人間の生活行動に関する技術や意識の文化を生活文化という。そのなかでも、食物摂取行動に関する文化を食文化といい、この授業では、食文化の意義と内容、文化人類学から見た食、日本⇄神戸の食および料理の伝統と最前線、食のグルメ娯楽化、国際化と交流にも焦点を当てる。またそれぞれの食事・食生活文化を形成させた要因を社会的背景や地理的環境と関連づけて学ぶとともに、時代の変遷に伴って多様化した食文化を理解し、食文化が地域再生のキーとなることを解説する。							
到達目標	(1)食生活および食の楽しみを文化としてとらえることができる。【態度・指向性】 (2)和食、フランス料理、中国料理などの代表的料理の特徴を理解し、わかりやすく説明することができる。【知識・理解】 (3)魅力ある都市の食文化＝グルメについて、情報収集し発信することができる。【知識・理解】							
授業計画	第1回 この授業で何をやるのか。どんな授業なのか [PC必携] 第2回 食文化によって「人間は猿から進化した」 [PC必携] 第3回 食文化と食事文化 文化人類学的ベースから日本の食文化を見る [PC必携] 第4回 料理とは何か。フランスと日本の新しい観点から [PC必携] 第5回 料理と利他。一汁一菜。土井善晴氏による和食の新しい観点 [PC必携] 第6回 おいしいとは何か？ [PC必携] 第7回 ジャック・ピュイゼによる「味覚について」 [PC必携] 第8回 ガストロノミー（楽しむ食文化）のなかの和食と西洋食 [PC必携] 第9回 和食とフランス料理の比較文化論 [PC必携] 第10回 日本の食と経済化、情報化 [PC必携] 第11回 和食と外食 [PC必携] 第12回 「「和食」って何？」「平成・令和食ブーム総ざらい」／阿古真理氏のテキストから [PC必携] 第13回 外食と食ビジネスを支える人 [PC必携] 第14回 ポスト・コロナ、ウィズ・コロナ時代の食 [PC必携] 第15回 授業内容のまとめ。期末課題（試論）提出 [PC必携]							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前、授業後に参考書を読んで、キーワードや専門用語を理解する（90分）。 まちに出て飲食店や市場、スーパーマーケットなどに積極的に行き、さまざまな「食の現場」を知る（120分）。 自分で料理を作ってみて、家族や仲間と一緒に食べて評論してもらう（120分）。							
授業方法	毎回授業前にmanabaのコースコンテンツに講義の内容をアップします。 レジュメや資料も同じくmanabaにアップします。 講義についてのリアクションペーパーをmanabaのレポートに書いてください。 PCもしくはタブレットは必携のこと。 〈BYOD対象科目〉							
評価基準と評価方法	期末試験＝試論（2000字）50%。各回提出のリアクションペーパー（manabaのレポートに書くこと）30%、質問応答（コール＆レスポンス）、授業中の発表発言20%。							
履修上の注意	出席が授業回数の3分の2に満たない者は期末試験を受けることが出来ません。							
教科書	毎回、授業前にmanabaのコースコンテンツをアップし、レジュメや資料を配布します。							
参考書	『講座 食の文化 第一巻～第七巻』 石毛直道監修（財）味の素食の文化センター 『いま「食べること」を問う』サントリー次世代研究所編、農山漁村文化協会 ISBN-10: 4540062670 『子どもの味覚を育てる 親子で学ぶ「ピュイゼ理論」』ジャック・ピュイゼ著、CCCメディアハウス ISBN-10: 4484171081 『フランス料理の歴史』ジャン＝ピエール・プーランほか著、角川ソフィア文庫 ISBN-10: 4044002320 『「うまいもん屋」からの大阪論』江 弘毅著、NHK出版新書 ISBN-10: 414088357X 『哲学するレストラン』橘 真著、ブリコール ISBN-10: 4990880129 『料理と利他』土井善晴・中島岳志著、ミシマ社 ISBN-10: 4990880129 『一汁一菜でよいと至るまで』土井善晴著、新潮新書 ISBN-10: 4990880129 『くらしのための料理学』土井善晴著、NHK出版 ISBN-10: 4990880129							

参考書	『『和食』って何?』阿古真理著、ちくまプリマー新書 ISBN-10 : 4990880129 『何が食べたいの「日本人」? 平成・令和食ブーム総ざらい』阿古真理著、ISBN-10 : 4990880129
-----	---

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	色彩学							
担当教員	花田 美和子					科目ナンバー	U72140	
学期	前期／1st semester		曜日・時限	金曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	色彩の基礎知識を習得する。							
授業の概要	人は情報の大部分を視覚から得ている。その中でも色のもつ影響力は大きい。本講義では色の性質について学び、色の表し方や色彩調和の理論、色の測定方法についての基礎知識を身に着ける。さらに、演習課題を通して、色の効果的な使い方についても学ぶ。							
到達目標	代表的な表色系とカラーオーダーシステムについて説明することができる【知識・理解】 色彩調和に基づいて、色を使った表現をすることができる【汎用的技能】 色と光の関係について科学的に説明することができる【知識・理解】 生活と色に関する諸問題について考察することができる。【知識・理解】							
授業計画	第1回：ガイダンス、生活と色 第2回：光と色 第3回：色の生理 第4回：色の測定 第5回：色の表示1（慣用色名と系統色名） 第6回：色の表示2（マンセル表色系） 第7回：色の表示3（PCCS、オストワルト表色系） 第8回：カラーコーディネートの実践）〔PC必携〕※地域連携課題 第9回：色の調和1（PCCS、ムーン・スペンサー、オストワルト） 第10回：色の調和2（ルード、ジャッド） 第11回：配色技法 第12回：色の心理的効果1 第13回：色の心理的効果2、流行色 第14回：色と文化 第15回：まとめと期末試験							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：教科書の当該箇所を読んで予習する（1.5時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所をプリント等で確認し、演習課題に取り組む。ドリルで復習をする。（2.5時間）							
授業方法	講義、一部演習を含む。 BYOD対象科目							
評価基準と評価方法	平常点:40%、試験:60% 平常点は各回の提出課題の内容、演習課題等を評価する 試験にはカラーコーディネートの実践課題と期末試験が含まれる。							
履修上の注意	1. 教科書、配色カード、のり、はさみ、その他指示されたものを持参すること。 2. 配色カードは試験にも使用するので、各自必ず準備すること。 3. ほとんどすべての授業回でmanabaを使用するため、PCの携行を推奨する。							
教科書	「生活の色彩学 ―快適な暮らしを求めて―」橋本令子・石原久代 編著（朝倉書店）ISBN:978-4-25-460024-7 「新配色カード199a」日本色研事業株式会社							
参考書	「カラーコーディネーションの基礎」東京商工会議所（中央経済社）ISBN:978-4502445804							

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	質的調査法／社会調査基礎演習Ⅱ						
担当教員	稲見 直子					科目ナンバ－	U22040
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	質的調査の特質と意義を理解し、質的データの収集技法や分析方法を修得することを目的とする。						
授業の概要	この授業では、質的調査に関する調査設計と実施方法について解説する。また、実際の社会調査を通じてデータ収集からデータ整理、データ分析までの具体的な技法や調査の一連の過程を実践的に学び、社会調査の理解を図る。						
到達目標	(1) 質的調査の特質と意義を理解し、専門用語を使って説明できる。【知識・理解】 (2) 調査企画から実査、分析、報告ができる。【汎用的技能】 (3) 質的調査に主体的に取り組むことができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 質的調査の目的／観察法 (1) 観察法とは何か／観察法による研究例の紹介と解説／課題説明 第2回 観察法 (2) データ収集 (学外調査予定) 第3回 観察法 (3) データ分析① ※PC必携 第4回 観察法 (4) データ分析② ※PC必携 第5回 観察法 (5) 分析結果の報告 第6回 ドキュメント分析 (1) ドキュメント分析とは何か／ドキュメント分析による研究例の紹介と解説／課題説明 ※PC必携 第7回 ドキュメント分析 (2) データ収集 ※PC必携 第8回 ドキュメント分析 (3) データ分析① ※PC必携 第9回 ドキュメント分析 (4) データ分析② ※PC必携 第10回 ドキュメント分析 (5) 分析結果の報告 第11回 インタビュー調査 (1) インタビュー調査とは何か／インタビュー調査による研究例の紹介と解説／課題説明 ※PC必携 第12回 インタビュー調査 (2) データ整理 ※PC必携 第13回 インタビュー調査 (3) データ分析① ※PC必携 第14回 インタビュー調査 (4) データ分析② ※PC必携 第15回 インタビュー調査 (5) 分析結果の報告						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：インタビューやエスノグラフィなど質的調査を基にした文献を読む。＜2時間＞ 授業後学習：新聞記事の検索やトランスクリプトの作成のほか、各手法による分析が授業内にできなかったものは、授業外に課題として取り組む。＜2時間＞						
授業方法	各自でテーマを設定して調査企画から実査、データ整理、分析、報告までを演習形式で行い、質的調査の一連の流れを実践的に修得する。＜BYOD対象科目＞						
評価基準と評価方法	・授業参加度 (30%)：授業内の課題の取り組み・提出状況や授業への姿勢・態度を総合的に評価。到達目標 (1) (2) (3) に対応。 ・プレゼンテーション (70%)：質的調査で収集したデータや報告態度・内容など総合的に評価。到達目標 (2) に対応。						
履修上の注意	・出席回数が全体の3分の2に満たない者は原則単位認定は行わない。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなし、遅刻3回で欠席1回とする。 ・学外でフィールドワークを実施するので交通費や入館料が発生することがある。						
教科書	適宜レジメと資料を配布する。						
参考書	岸政彦・石岡文昇・丸山里美, 2016, 『質的社会調査の方法——他者の合理性の理解社会学』有斐閣ストウディア。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	住行動論						
担当教員	奥井 一幾					科目ナンバー	U72230
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	人間の「生活」と「住行動」の関わりについて考える						
授業の概要	本講義は、人間にとって最も身近な生活環境である「住まい」を中心的に扱う。住まいと人間との関わりから、人間行動とそれに伴う心理状態の変化などの具体例を紹介する。また、都市で発生する諸問題（騒音、日照権、ゴミ問題等）、高齢者や障がい者との共生のための住まいのあり方などを取り上げ、家族、地域、世代等に着眼し、人間関係や諸環境間の関連について、批判的に考察する基礎的能力を養う。さらに、本講義で学んだ内容を、自らの生活環境を改善する実践へと発展させるような展開を図る。						
到達目標	(1) 身近な住環境を批判的に考察し、改善案について間取り図を作成することができる【汎用的技能】 (2) 身近な住環境に潜む問題に気づき住行動からの改善を図ることができる【態度・志向性】 (3) 現在の自分、これからの自分を見据えた住まい方のプランについて述べる【知識・理解、汎用的技能】						
授業計画	第1回 講義形態の確認と住行動の扉 第2回 身近な住まいへの着眼 第3回 身近な住まいに関するグループワーク（発表含む） 第4回 家族のライフステージと住まい（一人暮らしに必要な情報） 第5回 家族のライフステージと住まい（一人暮らしの人生設計と住まい） 第6回 家族のライフステージと住まい（子育て家族の住まい・学童期） 第7回 家族のライフステージと住まい（子育て家族の住まい・青年期） 第8回 家族のライフステージと住まい（高齢期の住まい・高齢（単身）世帯） 第9回 家族のライフステージと住まい（多世代同居と住まい） 第10回 共生社会と住まい（ペットと住まい） 第11回 共生社会と住まい（バリアフリー、ユニバーサルデザイン） 第12回 共生社会と住まい（持続可能な社会と住まい）※ゲストスピーカー 第13回 共生社会と住まい（多文化共生と住まい） 第14回 共生社会と住まい（多様な家族形態と住まい） 第15回 住行動に関する終講課題及び講義総括						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	各授業について、理解が不足している点を復習すること＜2時間＞。 次時の授業に向けて、自分の身近な生活環境を振り返り、関連する事項を整理するなど、主体的な学習に臨むための準備を行うこと＜2時間＞。						
授業方法	講義はパワーポイントにそって進め、毎時間ノートに要点を整理すること。講義の最後には「本日の課題」と題したミニ記述課題を実施するので、各自、その時間の学びを総括すること。 さらに、身近な住環境や住まい方等について各自の意見を整理する活動や、それをもってペアワークやグループディスカッションなどを行うことがある。						
評価基準と評価方法	・授業の参加態度・ワークシート記入状況(60%) →到達目標(1)～(3)に対応 ・終講課題(40%) →到達目標(2)および(3)に対応						
履修上の注意	・出席及び授業への参加態度を重視する。 ・出席回数が開講日数の2/3に満たない者には、原則単位認定を行わない。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。						
教科書	授業内容に応じて資料を配布する。						
参考書	・中根芳一（編）『私たちの住居学(第2版):サステナブル社会の住まいと暮らし』オーム社(2019年), ISBN-10:4274223485, ISBN-13:978-4274223488 ・中島義明, 大野隆造（編）『すまう：住行動の心理学（新装版第1刷）』朝倉書店（2020年）, ISBN：978-4-254-52028-6 ・定行まり子, 沖田富美子（編）『生活と住居（第4版）』光生館（2021）, ISBN：978-4-332-32008-1						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	住生活論						
担当教員	稲見 直子					科目ナンバ	H11030
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	住まいに関する基礎的知識を修得するほか、現代の住まいが抱える課題の発見とその解決策を提案する。						
授業の概要	私たちの生活に欠かせない住まいに関して、その基本的な知識の修得だけでなく、現代の住まいが抱える課題を理解し、よりよい住生活を営むための解決策を考える。						
到達目標	(1) 住まいに関する基礎的知識を修得することができる。【知識・理解】 (2) 快適な住空間や安全な住空間を創造することができる。【知識・理解】 (3) 住まいをめぐる課題を自ら発見し解決策を提案することができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 住まいと人権 第2回 日本の住まい 第3回 海外の住まい 第4回 ライフステージと住まい 第5回 住まいと間取り 第6回 間取り図の作成 第7回 住まいと健康・安全 第8回 住まいと災害 第9回 住まいと福祉 第10回 日本の住宅政策 第11回 住生活と費用 第12回 空き家問題 第13回 住まいとまちづくり 第14回 さまざまな集合住宅 第15回 振り返りと期末テスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回の授業で扱うテーマに関する新聞記事を探して読み下調べをする。＜2時間＞ 授業後学習：各回の授業で扱ったキーワードを整理しまとめる。＜2時間＞						
授業方法	基本的に講義形式をとるが、授業内ではワークシートの記入やグループディスカッションなども取り入れ、学生の主体的な参加を促す。						
評価基準と評価方法	・授業参加度（30%）：授業に主体的に取り組んでいるか、ワークシートにおいて分析的に書いているかなどを総合的に評価。到達目標(1)(3)の確認。 ・小レポート（20%）：間取りに関するレポートを作成。到達目標(2)の確認。 ・期末テスト（50%）：住まいに関する基礎的知識を確認する。到達目標(1)の確認。						
履修上の注意	・出席回数が全体の3分の2に満たない者は原則単位認定は行わない。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなし、遅刻3回で欠席1回とする。 ・授業中のスマホ操作・私語・居眠り禁止。注意しても改善されない場合は減点対象とする。						
教科書	授業内容に応じて、適宜レジメと資料を配布する。						
参考書	後藤久監修，2013，『最新住居学入門』実教出版。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	情報社会論						
担当教員	長谷川 誠					科目ナンバ－	U72040
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	生活、仕事などの身近な問題をテーマに情報社会を社会的に捉えていく						
授業の概要	情報化社会とされる今日、我々は、日常生活における様々な問題を解決するために、情報を正確に捉える力や分析する力が求められている。また「情報」と「職業」の接点を考察することは、自身のキャリア形成を考える際や、就職活動に取り組むときに必要な視点となるといえる。この授業では、急速に発展する情報社会を社会的に捉え、仕事、生活をしていくうえで必要な情報の収集、発信の方法や情報モラルについて考えていく。						
到達目標	(1) 情報社会の諸問題を社会的に捉え、説明できる。【知識・理解】 (2) 情報社会に潜むリスクについて理解し、適切な情報の収集、発信方法を習得、使用する。【汎用的技能】 (3) 情報社会に対する興味をより具体的なものとして意識し、議論することができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 オリエンテーション【対面】 第2回 情報社会の成立【対面】 第3回 情報社会の進展【遠隔】 第4回 インターネットの普及【遠隔】 第5回 情報化とプライバシー【遠隔】 第6回 情報モラルとは【遠隔】 第7回 情報社会と職業－情報化がもたらす仕事の変化－【遠隔】 第8回 若者文化と情報－若者にとって「つながる」とは何か－【遠隔】 第9回 若者とインターネット【遠隔】 第10回 ネットいじめ問題【遠隔】 第11回 SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の有効性【遠隔】 第12回 SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の危険性【遠隔】 第13回 就職とインターネット【遠隔】 第14回 生涯学習社会とインターネット【遠隔】 第15回 まとめ【対面】						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・ 情報社会に関するトピックスに日常から関心を持ち、関連文献や行政資料の下調べを通して理解を深めておくこと（学習時間：2時間）。 ・ 授業内容をふまえ学生同士でディスカッションを行い自身の意見をまとめておくこと（学習時間：2時間）。						
授業方法	本授業は「遠隔指定授業」（数回の対面講義有り）のため、ZOOM、manabaを活用しながら、解説、ディスカッションを行う ＜遠隔指定授業＞						
評価基準と評価方法	・ 課題試験70%：授業で扱った情報社会に対する理解度、インターネット、SNSに対する自らの興味・関心の明確性・具体性について評価するとともに、到達目標(1)から(3)に関する到達度の確認。 ・ レポート30%：内容についてのコメント、質問の記述の的確性を評価するとともに到達目標(1)から(3)に関する到達度の確認。 ・ 課題のフィードバックのコメントは、翌週授業において紹介、解説する。						
履修上の注意	・ 出席及び授業への参加度重視。 ・ 欠席した場合は、必ず相談すること。						
教科書	適宜、レジュメ、資料等を配布する						
参考書	授業中に指示する						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	人材マネジメント論／ヒューマンリソースマネジメント論						
担当教員	今井 佐知子					科目ナンバー	U72570
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	企業における人材マネジメントを理解する。						
授業の概要	人材マネジメントを初めて学ぶ学生さんが対象です。企業におけるヒトのマネジメントについて学習します。						
到達目標	組織におけるヒトのマネジメントがどのように行われているのか理解する。【知識・理解】						
授業計画	毎回、教科書を必帯。 第1回 人的資源管理入門 第2回 人間モデル 第3回 戦略的人的資源管理 第4回 組織能力 第5回 組織構造 第6回 モチベーション 第7回 リーダーシップ 第8回 コミットメント 第9回 雇用 第10回 人材育成 第11回 評価 第12回 昇進 第13回 賃金 第14回 労使関係 第15回 国際人的資源管理 注）発表担当の回ではPCを用いることが望ましい						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	毎回の予習：教科書の該当分の通読。担当回での教科書の内容紹介の準備＜2時間＞。 毎回の復習：時事問題に授業で学んだ理論をあてはめてみる＜2時間＞。 小テストの前には、それまでの学習範囲全体の復習を各自で行う。						
授業方法	講義形式＜BYD0対象科目＞ 受講者間の意見交換を行います。						
評価基準と評価方法	授業への積極的参加と毎回の提出物 (60%) 授業の後半で小テストを実施し、目標到達度を確認 (40%)						
履修上の注意	講義全体の3分の2の出席が確保できない場合、受講資格を失う。						
教科書	上林 憲雄（編著）『ベーシック+人的資源管理』 第2版（中央経済社）、ISBN：978-4-502-53241-2						
参考書	随時紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	製菓・製パン実習						
担当教員	作田 はるみ					科目ナンバー	U22160
学期	後期隔週A	曜日・時限	月曜2～5	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	製菓・製パンについて基礎的な知識と技能を系統的に身につける。						
授業の概要	この授業では前期の「製菓・製パン理論」を踏まえ、衛生面に留意しながら基本的な菓子やパンの実習を行う。特別招聘講師や実習アドバイザーとして、神戸マイスターやパン職人を迎え、実践的な指導も受ける。これらの実習を行う中で、各種原材料の役割や取り扱い方、作業工程、作業や操作の効果など、基礎的な知識と技能を系統的に身につけるとともに、市場への視野を広げる。最終的には、各自が独自の菓子やパンを考案・計画し、実際に作り、発表する。						
到達目標	(1) 作るものの特性や作業手順を把握し、衛生面に留意した基本的な作業を説明できる。【知識・理解】 (2) 各種原材料の特性や製造工程などの基礎的な知識を活用し、衛生面に留意した製菓・製パン作業ができる。【汎用的技能】 (3) 基本的な作業を確実にマスターし、タイプに応じた対応ができる。【汎用的技能】 (4) 習得した技術を用いて、独自の菓子やパンを提案（計画、作成）することができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 オリエンテーション、実習前の注意事項、餡、無発酵パン 第2回 手ごねパン ロールパン 第3回 手ごねパン 編みパン 第4回 「特別招聘講師」洋菓子 スポンジ生地 第5回 「特別招聘講師」洋菓子 バター生地 第6回 「特別招聘講師」洋菓子 タルト生地 第7回 「特別招聘講師」洋菓子 シュー生地 第8回 「実習アドバイザー」シンプルなパン 食パン 第9回 「実習アドバイザー」リッチなパン 折り込み生地のパン 第10回 「実習アドバイザー」シンプルなパン フランスパン 第11回 「実習アドバイザー」リッチなパン 菓子パン 第12回 和菓子 蒸し菓子（ゲストスピーカー） 第13回 和菓子 上生菓子（ゲストスピーカー） 第14回 オリジナル菓子・パン作成 第15回 オリジナル菓子・パンの発表、実習のまとめ ※菓子・パンの種類については、その回の代表的なものを挙げている。 ※実習内容の詳細は、第1回オリエンテーションにて伝える。 ※場合によっては、順序や内容を変更することがある。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学修：実習内容について資料や教科書の該当箇所を読み、概要を把握しておく。＜1時間＞ オリジナル菓子・パン作成の準備では、書類を作成する。 授業後学修：実習手順や作業のポイント他、結果について考察し、レポートを作成して提出する。＜1時間＞ ※資料やレポートのやりとりは松蔭manabaを活用する。						
授業方法	実習：作業の説明・示範の後、グループごとまたは個別に製菓・製パン作業を行う。 試食の準備や実習の後片付けもグループで協力をして行う。 発表：第15回では、各自が考案・作成したオリジナルの菓子やパンについて発表し、ディスカッションを行う。						
評価基準と評価方法	授業態度50%、提出物20%、課題20%、小テスト10% 授業態度：実習の取り組み、グループ作業への参加度、実習結果（菓子・パンの仕上り）を総合的に評価する。（実習の取り組みでは、特に衛生面・注意事項への対応を重視する） 提出物：【実習後のレポート】実習結果をもとにレポートが作成できているか、作業内容の記録、結果、考察を総合的に評価する。到達目標（1）に関する到達度の確認。 課題：【オリジナル菓子・パン作成】課題について適切な計画をたて、計画に基づき作成できているか。到達目標（3）（4）に関する到達度の確認。 小テスト：指定した基本的な操作を正確に行っているかを評価する。到達目標（2）（3）に関する到達度の確認。 フィードバックの方法：質問や課題については、授業時および松蔭manabaにて対応する。						
履修上の注意	「製菓・製パン理論」または「和洋菓子・製パン理論」の単位修得者が履修できる。 隔週で2回分連続の実習となるため、日程に注意すること。 実習内容を把握し、実習に適した身支度をした上で、実習に臨むこと。 実習室・試食室へは、許可された物のみ、持ち込みを可能とする。 実習後・試食後の後片付けと実習室・試食室の清掃終了までが、実習時間となる。 全回出席を原則とし、出席回数が開講日の2/3に満たないものには、原則単位認定を行わない。 20分以上遅刻の場合は欠席とし、遅刻・欠席の場合は、必ず連絡をすること。 提出物は、提出期限厳守。実習後の実習レポート提出をもって、実習を受講したこととする。 実習着購入については、ポータルにて連絡をする。（「調理実習」で用いるものを使用する） 実習費8,000円を徴収する。（製パン実習回の昼食に充当する試食分を含む）						

教科書	松蔭manabaの個別指導（コレクション）で連絡してください。 オフィスアワー：前期：木曜 16：20～17：20 後期：月曜 9：30～10：30 （1号館6階研究室）
参考書	『パンの事典』井上好文監修、旭屋出版、ISBN 978-4-7511-0696-9 『プロのためのわかりやすいフランス菓子』辻製菓専門学校、川北末一著、柴田書店、ISBN 978-4-388-05944-7 『決定版 和菓子教本』日本菓子教育センター編、誠文堂新光社、ISBN 978-4-416-81293-8 『和菓子教本』堀正幸著、日本菓子教育センター和菓子編集委員会編、日本菓子教育センター（2014） ※上記は、前期の「製菓・製パン理論」の参考書と同じ。 ※必要に応じて松蔭manabaで紹介をする。

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	製菓・製パン理論／和洋菓子・製パン理論						
担当教員	作田 はるみ					科目ナンバ－	U72650
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	製菓・製パンの実践に活かせる知識や理論を科学的に修得する。						
授業の概要	菓子やパンを作るためには、材料の選定・準備、作業の実施と各工程の見極めが重要となる。そこには物理的、化学的な理由だけではなく、地理的、歴史的な背景がある。この授業では、菓子やパンについての基礎知識（歴史、分類、材料、作業工程、器具・道具）や理論（材料の役割、作業工程の意義、膨化のしくみ）、衛生的な取り扱いなどを学び、製菓・製パンについて科学的、体系的な理解を深める。さらに後期の製菓・製パン実習とリンクさせながら、実践に活かせる知識としての修得を目指す。						
到達目標	(1) 和洋菓子・パン製造の基礎知識や理論、衛生的な取り扱いを理解し、説明できる。【知識・理解】 (2) 製法や素材選びなど製造現場での基本的な知識を体系的に関連づけることができる。【汎用的技能】 (3) 製菓・製パンのコツとカンに類する部分を科学的知識として説明できる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 オリエンテーション、和洋菓子・パンの概要 第2回 歴史と種類 第3回 材料の基礎知識 ① 粉（小麦、米、他） 第4回 材料の基礎知識 ② 糖類 第5回 材料の基礎知識 ③ 乳製品、油脂 第6回 材料の基礎知識 ④ 卵、他 第7回 作業工程 ① [PC必携] 第8回 作業工程 ② [PC必携] 第9回 膨化のしくみ 第10回 基本の生地 ① 第11回 基本の生地 ② 第12回 製菓・製パン道具と器具の役割 [PC必携] 第13回 菓子・パンの周辺 お茶・食器 [PC必携] 第14回 オリジナル菓子・パンに向けて 衛生的な取り扱い [PC必携] 第15回 授業内容のまとめ・総復習と期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学修：松蔭manabaコンテンツに提示する資料、教科書の当該箇所を予習しておく。 ＜2時間＞ 授業後学修：授業の要点と重要箇所の確認・整理をし、松蔭manabaの小テストまたはレポートを提出する。 ＜2時間＞						
授業方法	主として講義形態で授業を行う。グループディスカッションを行うこともある。 講義では教科書や資料を基に、菓子やパンの基礎的な知識、実習で取り上げる菓子やパンの材料や作り方について、理論と関連づけた具体的な説明を行う。パワーポイントや映像を用いたり、布や小麦粉粘土などで成形の練習を行うこともある。また、各自のPCを用いて、関連事項の検索や材料の分量計算など、製菓・製パンに必要な作業準備計画を行う。毎回終了前にはまとめの時間を設けて質問に応じ、小テストまたはレポート課題を課す。 ＜BYOD対象科目＞						
評価基準と評価方法	期末試験50％：授業内容全般についての理解度、興味関心の有無について評価する。 到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認。 課 題 20％：課題に対して積極的に調べ、レポートを作成していることを評価する。 到達目標(2)に関する到達度の確認。 授業態度30％：小テストやレポートにより、理解度、興味・関心の明確性・具体性について評価する。 授業中の作業やディスカッションでは、積極性、興味・関心の明確性・具体性を評価する。 到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認。 フィードバックの方法：授業時および松蔭manabaにて対応する。						
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した人は、定期試験の受験資格を失うものとする。 20分以上遅刻の場合は欠席とする。 提出物は提出期限厳守のこと。 質問には、授業時および松蔭manabaで応じる。						
教科書	『基礎からわかる製パン技術』エコール辻 大阪 辻製パンマスターカレッジ、吉野精一著、柴田書店、ISBN 978-4-388-06107-5 『洋菓子教本』日本菓子教育センター洋菓子編集委員会編、日本菓子教育センター（2017） 『プロのためのわかりやすい和菓子』辻製菓専門学校、仲實著、柴田書店、ISBN 978-4-388-06000-9 ※「製菓・製パン実習」でも上記を教科書として使用する。						
参考書	『パンの事典』井上好文監修、旭屋出版、ISBN 978-4-7511-0696-9 『プロのためのわかりやすいフランス菓子』辻製菓専門学校、川北末一著、柴田書店、ISBN 978-4-388-05944-7 『決定版 和菓子教本』日本菓子教育センター編、誠文堂新光社、ISBN 978-4-416-81293-8 『和菓子教本』堀正幸著、日本菓子教育センター和菓子編集委員会編、日本菓子教育センター（2014） ※必要に応じて松蔭manabaで紹介をする。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	生活学概論						
担当教員	奥井 一幾					科目ナンバー	H01010
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	人間の生活について総合的に学ぶ						
授業の概要	本講義は、人間の生活について、その変化のメカニズムや生活を捉える方法について知り、本学科で学ぶ上での基礎的な知見を得ることを目的とする。前半は、「生活学」や「家政学」の学問体系について概観し、現代の都市的生活様式がどのように形成されてきたかを知る。後半は、生活の中で重要な家計、生活時間、家事労働等について学び、現代生活の具体的特徴を知る。さらに、死別に伴う悲嘆について考えることから、一人の人間が誕生し、生涯を終えるまでの過程を学び、生活を総合的に捉える視点を養う。						
到達目標	(1) 生活学・家政学の成り立ちや現状について理解している【知識・理解】 (2) 個人のライフコースにおける諸課題が説明できる【知識・理解 / 態度・志向性】 (3) 現代の多様な生活課題に対して、自分なりの解決策が提案できる【汎用的技能】						
授業計画	第1回 生活学を学ぶ意義とこれまでの学びの振り返り 第2回 生活学・家政学の成立と変遷 第3回 戦後の生活変化と家族形態の変遷 第4回 生活と家族をめぐる社会的課題（人口動態、各種統計から） 第5回 生活と家族をめぐる身近な課題（生活・家族をめぐる具体的事例から） 第6回 ジェンダーとセクシャリティ 第7回 恋愛とパートナー選択 第8回 生活と生活自立 第9回 ライフイベントとライフプランニング 第10回 生活時間と女性の就業 第11回 消費生活と家計 第12回 情報社会と消費生活 第13回 加齢と高齢期の生活 第14回 死別と悲嘆 第15回 生活学の将来展望と試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱うテーマについて、関連資料や時事問題について調べるなど、下調べをすること。＜2時間＞ 授業後学習：授業内で指示したテーマや扱われた事柄について復習し、インターネットや図書館で関連する書籍・情報を検索するなど、発展的学習を行うこと。＜2時間＞						
授業方法	講義：パワーポイントに沿って進めるので、毎時間配付するワークシートに要点を整理すること。講義の最後は「本日の課題」と題したミニ記述課題を実施するので、各自、その時間の学びを総括すること。さらに、大人数の講義ではあるが、各自が主体性をもって学べるよう、例えばクリッカーなどのICT教材や動画教材などを積極的に活用する。						
評価基準と評価方法	終講試験(60%) →到達目標(1)および(2)に対応 ワークシート記入状況、受講態度・姿勢(40%) →到達目標(1)～(3)に対応 毎時間配付するワークシートの穴埋めはすべて埋めること。また、「本日の課題」は講義で扱われた専門用語や教示内容を引用し、自らの考えを述べるように努めること。						
履修上の注意	講義全体の2/3の出席が確認できない場合は原則として受講資格を失う。 20分以上の遅刻は欠席とみなす。						
教科書	家政学のじかん編集委員会、『育もう家政学-あなたの生活に寄り添う身近な学問-』。2024. 開隆堂。（ISBN：978-4304021985）						
参考書	適宜紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	生活経済学						
担当教員	ガンガ 伸子					科目ナンバ－	U12080
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	
授業の概要	
到達目標	
授業計画	
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	
授業方法	
評価基準と評価方法	
履修上の注意	
教科書	
参考書	

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	生活行動論							
担当教員	鳥居 さくら					科目ナンバー	H01040	
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	日常生活における人の行動の心理学的考察							
授業の概要	日常生活のさまざまな場面における人間の行動とその心理メカニズムについて理解することを目的とする。知覚心理学、認知心理学、社会心理学、人間工学といった心理学と心理学関連領域の基礎的な概念を学ぶとともに、衣、食、住、ストレスや対人関係などの日常の生活行動を取り上げ、具体的な事例をとおしてそれらの心理的な意味やメカニズムを考える。この講義をとおして人間の感覚と行動の関係について考える力を養うことが期待できる。							
到達目標	1. 実生活に関わる心理学の考え方、研究を説明できる。[知識・理解] 2. 図表からわかることを文章で表現できる。[汎用的技能] 3. 行動と科学の結びつきを自分の体験に照らし合わせて表現できる。[知識・理解][態度・志向性]							
授業計画	1.オリエンテーション 【対面】 [PC必携] 2.感覚の心理学的意味 【対面】 [PC必携] 3.行動と感情 【対面】 [PC必携] 4.集団 【対面】 [PC必携] 5.人格 【遠隔】 [PC必携] 6.知覚－視覚－ 【遠隔】 [PC必携] 7.対人魅力 【遠隔】 [PC必携] 8.発達 【遠隔】 [PC必携] 9.記憶 【遠隔】 [PC必携] 10.認知 【遠隔】 [PC必携] 11.感情 【遠隔】 [PC必携] 12.知覚－触覚－ 【遠隔】 [PC必携] 13.対人関係 【遠隔】 [PC必携] 14.心理学の生活への応用 【対面】 [PC必携] 15.まとめ 【対面] ＊授業回により、【遠隔】と【対面】が変更になる場合があります。							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業で指示する資料を収集し、まとめる。（学習時間：2<時間>） 授業後学習：授業で指定された課題を松蔭manabaに投稿する（学習時間：2<時間>）							
授業方法	主に講義形式でおこなう。あるテーマについてグループでディスカッションしたものを発表し、それについての解説を行う回もある。 manabaを利用し小テストやアンケートなどをおこなう授業回もある。 ＜遠隔指定授業＞ ＜BYOD対象科目＞							
評価基準と評価方法	小レポート(50%)：授業のなかで随時おこなう。到達目標3に関する到達度の確認。 試験(50%)：授業で解説した内容について説明できるか、図表から読み取ったことを表現し、自分の考えを展開できるかについて評価する。到達目標1と2に関する到達度の確認。							
履修上の注意	3分の2以上の出席がないと、受講資格を失う。私語厳禁とする。							
教科書	なし。適宜、資料をmanabaに添付する。							
参考書	「視覚世界の謎に迫る—脳と視覚の実験心理学」 ブルーバックス ISBN：978-4062575010 「美人は得をするか 「顔」学入門」 集英社新書 ISBN: 978-4087205589 「皮膚感覚と人間のこころ」 新潮社 ISBN：978-4-10-603722-1 「自分の価値を最大にするハーバードの心理学講義」 大和書房 ISBN: 978-4479795315							

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	生活社会論						
担当教員	稲見 直子					科目ナンバー	H11230
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	日常の＜当たり前＞を問い直す。						
授業の概要	この授業では日常生活を題材に、データや映像を用いて社会事象を読み解く力を身に付ける。						
到達目標	(1) 社会学の基礎的な理論や概念を修得できる。【知識・理解】 (2) データや映像に基づいて社会を読み解くことができる。【汎用的技能】 (3) 社会的なものの方や考え方に基づいて自分の考えを論理的に述べるることができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 社会学とは何か 第2回 近代化と社会 第3回 学校に校則があるのはなぜ？ 第4回 恋愛のゴールは結婚？ 第5回 「友だち」って誰のこと？ 第6回 大学に進学するのはなぜ？ 第7回 雑誌分析 第8回 メディアとジェンダー 第9回 メディアとプロパガンダ 第10回 メディアと現実 第11回 食卓の風景はいつでもどこでも同じ？ 第12回 農業の工業化と市民運動 第13回 ファストファッションはなぜ安い？ 第14回 グローバル化と消費社会 第15回 振り返りと期末テスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：身の回りにあるルールや常識を書き出してそれらへの違和感について考える。＜2時間＞ 授業後学習：授業で習った専門用語等を整理し、日常生活における様々な事象にあてはめて考え理解する。＜2時間＞						
授業方法	基本的に講義形式をとるが、授業内ではワークシートの記入やグループディスカッションなども積極的に取り入れ、学生の主体的な参加を促す。						
評価基準と評価方法	・授業参加度（45%）：授業に主体的に取り組んでいるか、ワークシートにおいて分析的に書けているかなどを総合的に評価。到達目標(1)(3)の確認。 ・期末レポート（15%）：分析的かつ論理的に書けているか、決められた形式で書けているかなどを総合的に評価。到達目標(1)(2)(3)の確認。 ・期末テスト（40%）：授業で扱った専門用語の理解やデータの読み解きができているかを確認する。到達目標(1)(2)(3)に基づいて評価する。						
履修上の注意	・出席回数が全体の3分の2に満たない者は原則単位認定は行わない。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなし、遅刻3回で欠席1回とする。 ・授業中のスマホ操作・私語・居眠り禁止。注意しても改善されない場合は減点対象とする。						
教科書	授業内容に応じて、適宜レジメと資料を配布する。						
参考書	景山佳代子・白石真生編、2020、『自分でするDIY社会学』法律文化社。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	生活情報処理実習						
担当教員	奥井 一幾					科目ナンバ	U22050
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	家庭生活に関わる情報の意義や役割、モラルを理解させ情報処理に関する知識と技術を習得させるとともに、家庭生活に関わる情報通信技術と各種ソフトウェアを主体的に活用する能力と態度を育てる。						
授業の概要	この授業では、コンピュータソフトとしてWord、Excel、PowerPointなどを用いたプレゼンテーション資料作成などの基本的な情報処理技術の修得を目指す。また、家庭生活における文書作成や家計に関わるグラフ、表作成の基礎を学び、これらの技術を活用し、自身の関心分野について、データを収集、加工することに取り組む。そして、これらを通して、社会問題に対する意識を高めるとともに、疑問を解決するための糸口を見つけ出す力や、生活設計をする力を養うことを目的とする。						
到達目標	①家庭生活に関わる、情報通信技術の基礎知識と各種ソフトウェアの知識と技能を習得する。【知識・理解】 【汎用的技能】 ②Word, Excel, PowerPointを活用しながら、企画書作成、データの分析、加工、これらを基にプレゼンテーション資料を作成し、発表することができる。生活を取り巻く環境を実験や社会調査の手法で、情報ツールを用いて学際的に分析し、地域社会が直面している課題の解決方法を社会へ提案できる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 家庭生活における情報化の進展（講義） 第2回 情報モラルとセキュリティー（講義） 第3回 情報通信ネットワーク（課題の設定と情報収集）（講義）電子メール、SNS、Web情報検索、Webにおける情報発信、データベース、教具としてのソフトウェア 第4回 文章作成演習－生活産業に関わるビジネス文章作成（演習） 第5回 文章作成演習－ヒューマンビジネスに関わる生活産業の企画書作成（演習） 第6回 表計算ソフトの操作①－基礎操作（講義と演習） 第7回 表計算ソフトの操作②－データ入力（演習） 第8回 表計算ソフトの操作③－グラフ作成（演習） 第9回 表計算ソフトの操作④－データ分析（演習） 第10回 表計算ソフトの操作⑤－データ分析（演習） 第11回 プレゼンテーションの基礎（講義と演習） 第12回 プレゼンテーション課題の作成（演習） 第13回 プレゼンテーション課題の実演① 第14回 プレゼンテーション課題の実演② 第15回 家庭生活における情報及び情報活用の意義と倫理的な見方や考え方						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：次回の内容について予習し、担当教員の指定した課題とそのキーワードについて調べる。＜2時間＞ 授業後学習：授業内で学習した内容について、繰り返し復習する。次の回までに復習をして課題を作成して松蔭manabaコンテンツに投稿する。＜2時間＞						
授業方法	実習：PCを活用した実習形式である。操作に不安を抱える場合には個別対応を図る。「分からないことはその場で解決」を心がけ、授業外学修を活用し各自のPC習熟度を高めることも目指す。一部、グループワークやディスカッションを行う場合がある。						
評価基準と評価方法	講義中の課題提出：各授業で学んだ内容を理解しているか、専門用語は適切に用いられているか、PC操作は正確に行われているかなど＜70％＞ →目標①・②に対応 プレゼンテーションの課題と実演：授業で示した評価基準に基づいた内容の整理が行われているか、聴衆に分かりやすく示そうとしているかなど＜30％＞ →目標②に対応						
履修上の注意	学生の経験等によっては、既習事項や習得技術が異なるため、第1回目にスキル調査を実施する。その結果によっては、授業計画を若干変更することがある。						
教科書	教科書は使用しない。レジュメなどを配布する。						
参考書	授業内で適宜紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	生活設計論						
担当教員	甲斐 美帆					科目ナンバ－	U72010
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	多様なライフスタイルの中でライフデザインの重要性を理解するとともに、その実践手法であるライフプランニングを行う力を身に付ける。						
授業の概要	多様なライフスタイルの中で自立した個人の確立の必要性を認識し、ライフデザインを行う力を身に付ける。ライフデザインを実現するために必要な貯蓄や資産運用の方法、教育資金プラン、住宅取得プラン、リタイアメントプラン、社会保険・年金制度などの知識を深め、自らで自身の生活設計ができる力を養う。						
到達目標	(1)「多様なライフスタイルの中でライフデザインの重要性を理解するとともに、ライフデザインを数値化した手法であるライフプランニングを身に付けることができる」【知識・理解】 (2)「資金計画、社会保険制度、年金制度を理解し、その具体的説明ができる」【汎用的技能】 (3)「マネープランニングによって将来の生活をシミュレーションすることができる」【態度・志向性】						
授業計画	第1回 ガイダンス ～パーソナルファイナンスの意義と基本的特徴 第2回 ライフプラン① ～ライフプランニングの必要性、収入の確保と支出の管理 第3回 ライフプラン② ～ライフイベント表、キャッシュフロー表 第4回 ファイナンシャルプランニング ～多様な働き方、将来に備えること 第5回 教育資金プラン ～教育費にかかるお金、こども保険(学資保険)、教育ローン、奨学金制度 第6回 住宅取得プラン ～住宅購入にかかるお金、住宅ローンについて 第7回 リタイアメントプラン ～セカンドライフの生活資金、必要なお金 第8回 キャッシュフロー表の見直し ～見直しのポイントと改善策 第9回 社会保険① ～社会保険の種類、公的医療保険、公的介護保険 第10回 第4～9回のまとめと中間試験 第11回 社会保険② ～労働者災害補償保険(労災保険)、雇用保険 第12回 公的年金① ～公的年金制度の全体像、老齢年金 第13回 公的年金② ～障害年金、遺族年金、 第14回 ライフプランニングの実際 ～様々なライフプランの内容を知る 第15回 第11～14回のまとめと定期試験【PC必携】						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	・授業前準備学習：各回授業で取り上げる内容とキーワードに関係する文献資料を図書館およびweb検索で見つけて、読み込むこと(学習時間：2時間) ・授業後学習：授業内で指定した課題についてレポートを作成し、松蔭manabaコースコンテンツに提出すること(学習時間：2時間)						
授業方法	PBL：各回設定のテーマについて講義し、理解を深めるために、PCを使つての事例研究、ディスカッションや発表も取り入れる。＜BYOD対象科目＞						
評価基準と評価方法	・定期試験(30%)：第11～14回で取り上げた内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)および(3)の達成度を確認する。 ・中間試験(30%)：第4～9回で取り上げた内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)および(2)の達成度を確認する。 ・平常点(40%)：講義内容に基づいた練習問題と松蔭manabaコースコンテンツへの提出物によって内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)～(3)の達成度を確認する。						
履修上の注意	・欠席回数が5回を超えた場合には、期末試験を受ける資格を与えない。 ・出席確認時に不在だった場合は、その回は欠席とする。 ・講義中に無許可で退出した場合は、欠席扱いとする。 ・学校感染症、公共交通機関の運休・遅延といったやむをえない事情により欠席したとき、証明書を提出した場合に限って考慮の対象とする。						

教科書	毎回レジュメを配布する
参考書	授業中に適宜、紹介する。

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	生活統計学						
担当教員	富田 因則					科目ナンバー	H21070
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	調査研究で収集したデータを集計・分析するために必要な統計学の知識を習得することを目的とする。						
授業の概要	統計的データを集計・分析するために必要な統計学的知識を修得することを目的としている。授業は変数と尺度、データの分布の概説からはじめ、基本統計量の算出方法、統計的検定の基本的な考え方、さまざまな検定と推定に関する理論と技法、質的データの解析方法などに関する理論と技法の説明へつなげる。さらに、これらの知識を基にして、実際に行われた調査結果あるいは調査資料を用いて、平均の検定、クロス集計表の検定、相関係数の算出、回帰分析などを行う。						
到達目標	(1) 実験や調査で得られたデータについて平均・分散・標準偏差などの基本的な統計量の計算ができる。【汎用的技能】 (2) 母集団と標本、標本抽出分布と生起確率などの統計的検定の考え方を理解し、データ分析に利用できる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 実証的研究の方法 第2回 変数と尺度 第3回 調査データの集計とグラフ化 第4回 代表値：平均値・最大値・最小値・中央値・最頻値 第5回 散布度：範囲・四分領域・分散・標準偏差 第6回 母集団と標本 第7回 標本統計量と統計的検定の基本的な考え方 第8回 単純集計・クロス集計結果の検定 第9回 正規分布と相対的位置の測度 第10回 平均値の区間推定と平均値の差の検定 第11回 統計的検定の注意点 第12回 関連のある二標本における平均値の差の検定 第13回 直線相関と直線回帰 第14回 ノンパラメトリック検定 第15回 まとめと達成度確認試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業後学習： 授業内容を自身で再現できるように復習する。						
授業方法	講義形式にコンピュータ操作による演習・実習を取り入れて実施する。						
評価基準と評価方法	達成度確認試験 100%：授業で解説した重要事項についての知識、基本統計量の算出及び統計的解析などのPCでの実施について評価。到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	統計を使えることが大事。						
教科書	選定中。						
参考書							

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	生活統計学						
担当教員	待田 昌二					科目ナンバー	H21070
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	調査で収集したデータを集計・分析するために必要な、基礎的な統計学の知識を習得することを目的とする。						
授業の概要	統計的データを集計・分析するために必要な、基礎的な統計学的知識を修得することを目的としている。授業は変数と尺度、データの分布の概説からはじめ、基本統計量の算出方法、統計的検定の基本的な考え方、さまざまな検定と推定に関する理論と技法、質的データの解析方法などに関する理論と技法の説明へつなげる。さらに、これらの知識を基にして、実際に行われた調査結果あるいは調査資料を用いて、平均の検定、クロス集計表の検定、相関係数の算出、回帰分析などを行う。全ての授業を通じて、豊富な実例を取り上げながら分かりやすい解説を心がける。						
到達目標	(1) 実験や調査で得られたデータについて平均・分散・標準偏差などの基本的な統計量の計算ができる。【汎用的技能】 (2) 母集団と標本、標本抽出分布と生起確率などの統計的検定の考え方を理解し、データ分析に利用できる。【汎用的技能】						
授業計画	全ての授業回で [PC必携] 第1回 実証的研究の方法 第2回 変数と尺度 第3回 調査データの集計とグラフ化 第4回 代表値：平均値・最大値・最小値・中央値・最頻値 第5回 散布度：範囲・四分領域・分散・標準偏差 第6回 母集団と標本 第7回 標本統計量と統計的検定の基本的な考え方 第8回 単純集計・クロス集計結果の検定 第9回 正規分布と相対的位置の測度 第10回 平均値の区間推定と平均値の差の検定 第11回 統計的検定の注意点 第12回 関連のある二標本における平均値の差の検定 第13回 直線相関と直線回帰 第14回 ノンパラメトリック検定 第15回 まとめと達成度確認試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習： 松蔭manabaで授業前に示す課題を行う（学習時間＜1時間＞） 授業後学習： 松蔭manabaで授業後に示す課題を行うとともに授業内容を試験に結実させるよう復習し、身近な問題に結び付けて考える（学習時間＜3時間＞）						
授業方法	主に講義形式だが、コンピュータ操作による演習・実習を取り入れて実施する。＜BYOD対象科目＞						
評価基準と評価方法	授業に関する課題 60%：毎回の授業で課す課題（事前課題、授業中の課題、事後課題）の評価。到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。 達成度確認試験 40%：授業で解説した重要事項についての知識、基本統計量の算出及び統計的検討などのPCでの実施について評価。到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	スマートフォンの電源オフなど授業マナーを守ること。						
教科書	なし。適宜、プリントを配布する。						
参考書	「心理・教育のための統計法 第3版」サイエンス社 ISBN：978-4-7819-1235-6						

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	生活と法							
担当教員	呉本 和香奈					科目ナンバー	U12070	
学期	前期／1st semester		曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	本授業では、日常生活のさまざまな場面を通じて、法と司法が社会でどのように機能しているかを知るとともに、法学的なものを見方を身につける。							
授業の概要	法律や司法、法学などと聞くと、堅苦しいもの、普通に生きている自分には関係がないもの、と思うかもしれない。しかし実際は、皆さんが日常生活を当たり前を送るために不可欠で身近な存在である。本授業では、「生活」に「法」がどのように関係しているのかを知り、法のしくみを理解するという観点から講義を行う。そのため、憲法や民法といった具体的な法分野の専門知識の解説は最低限にとどめ、日常生活の具体的なシーンを取り上げてさまざまな法的問題を横断的に扱う。							
到達目標	(1)日常的な市民生活において法がどのように規定され、機能しているかがわかる。 (2)上記を自身で調べるための方法、ツールを知っている。 (3)自身の生活、地域社会を、法という観点から捉え、より良くする方策を主体的に考えられる。							
授業計画	第1回 イントロダクション 第2回 法・司法・法学 第3回 法律家のように考える ルールには「解釈」が必要である 第4回 法律家のように考える 法学的思考のトレーニング 第5回 ショッピングと法 物を買うとは法的にどういうことか 第6回 ショッピングと法 トラブルに巻き込まれたらどうなるのか 第7回 家族・子どもと法 法律上の家族、結婚、離婚とは 第8回 家族・子どもと法 養子制度、相続制度 第9回 裁判・訴訟 第10回 自由・権利と法 人権保障とは何か 第11回 自由・権利と法 新しい人権 第12回 行政と法 第13回 アルバイトと法 第14回 犯罪と法 第15回 犯罪と法、レポート課題に関する質疑応答							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	予習：レジュメ、参考文献等を参照して、授業テーマについて自身の日常生活と法がどのように関係しているかを考えてみる（2時間）。 復習：小テストに解答して知識の定着を確認する。レジュメ、参考文献等を参照して復習する。また、周辺領域の生活と法の関係について自身で調べてみる（2時間）。							
授業方法	・講義：対面で行う。 ・ディスカッション：授業テーマに関連した事例問題について、グループディスカッションを行い、ディスカッションペーパーに要点をまとめて提出する。							
評価基準と評価方法	・小テスト(40%)：10点×4回実施。manaba上で実施する。到達目標(1)(2)の到達度の確認。 ・ディスカッションペーパー(40%)：8点×5回実施。授業内で行うディスカッションの内容をまとめてmanabaのフォームに提出する。到達目標(1)(3)の到達度の確認。 ・期末レポート(20%)：具体的な事例問題を通じて法学的な考え方の理解度(到達目標(1))を評価する。また、自身の生活にかかわる法的問題に対して調査(到達目標(2))し、私見を考える力が身についているか(到達目標(3))を確認する。							
履修上の注意	法学に関する予備知識は不要。テーマに関心がある方の参加を歓迎します。 各種資格試験に対応したものではありません。 各提出物の締切日は厳守のこと。							
教科書	なし。レジュメを配布する。							
参考書	・ 矢野常寿、石川博康ほか『法学入門』（有斐閣、2021年、ISBN：978-4641126183） ・ 木俣由美『ゼロからはじめる法学入門』【第3版】（法律文化社、2014年、ISBN：978-4589043559）							

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	生活福祉論						
担当教員	奥井 一幾					科目ナンバ－	H12170
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	生活福祉と社会生活における様々な事象との関わりから、生活福祉の意義や役割について学ぶ。						
授業の概要	価値観が多様化する現代社会においては、一人ひとりが尊厳をもって自分らしいライフスタイルを維持し人間らしい質の高い生活を実現していくことが目指されている。このような中で、生活上の困難や問題が生じたときには、解決していくための援助や支援が社会のシステムとして必要になる。そこで、本講義では、さまざまなライフスタイルを持った個人と家族にとって、ライフコースのそれぞれの時点での支援を考え、生活福祉の観点から課題解決に必要とされる知識および方法・技能を総合的に学ぶ。						
到達目標	(1) 現代の生活福祉における諸問題を理解し、その概要を説明することができる【知識・理解】 (2) それらの諸問題に対して、専門用語を用いながら自らの考えや解決策を述べることができる【汎用的技能、態度・志向性】						
授業計画	第1回 ガイダンス（講義形態の確認と生活福祉を「学ぶ」意義） 第2回 生活福祉の定義をもとめて 第3回 健康な生活習慣と生活福祉 第4回 生活福祉を支えるコミュニケーション 第5回 コミュニケーションの限界 第6回 公共と生活福祉 第7回 集団心理と生活福祉 第8回 ストレスと生活福祉 ※ゲストスピーカーによる講義 第9回 社会保障と生活福祉 第10回 援助行動と生活福祉 第11回 人間の尊厳を考える 第12回 メディアと生活福祉 第13回 いのちと生活福祉 第14回 自らの生活福祉を展望する 第15回 終講課題と質疑応答						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：各テーマについて関連する書籍・新聞記事などを基に自分の考えを整理しておく。＜2時間＞ 授業後：専門用語については、レポートで理解度を問うので必ず復習を行うこと。各テーマについて発展的な学習を行うことが望ましい。＜2時間＞						
授業方法	講義：松蔭manabaを積極的に活用する（資料公開、レポート提出など）。 本講義はアクティブラーニング（グループワーク、ペアワーク、ディスカッション等）を積極的に取り入れる。						
評価基準と評価方法	・終講課題(40%) →到達目標(1)および(2)に対応 ・授業ワークシートの記入状況や受講態度などの平常点(60%) →到達目標(2)に対応						
履修上の注意	講義全体の2/3の出席が確認できない場合は受講資格を失う。 20分以上の遅刻は欠席とみなす。						
教科書	必要に応じて資料を配付する。						
参考書	必要に応じて講義内で紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	生活リスクマネジメント論						
担当教員	甲斐 美帆					科目ナンバ－	U73080
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	現代社会におけるリスクに生活者として対応するために、リスクマネジメントの体系的知識とその能力を育成する。						
授業の概要	生活リスクマネジメントについて、現代社会におけるリスクを分類し、その知識の提供とマネジメント能力の育成を行うことを目的とする。日常生活におけるリスク、災害におけるリスク、契約や情報に関するリスク、仕事に関するリスクなど、生活者が能動的にリスク対応するために、リスクコントロールの方法、リスクファイナンスの観点からは、預貯金・生命保険・損害保険制度について認識し、問題解決の手法を学ぶ。						
到達目標	(1)「現在社会にはどのようなリスクが存在し、それぞれのリスクにどのように対応するかということを理解できる」【知識・理解】 (2)「リスクマネジメントの体系的な知識を習得し、その具体的説明ができる」【汎用的技能】 (3)「生活者の立場から将来にどのようなリスクマネジメントが必要になるかということを認識できる」【態度・志向性】						
授業計画	第1回 ガイダンス～生活とリスク 第2回 日常生活におけるリスクマネジメント① ～現代社会におけるリスクマネジメント、リスクの回避 第3回 日常生活におけるリスクマネジメント② ～社会保障制度と民間保険 第4回 リスクの保有 ～預貯金で備える 第5回 お金に関するリスクマネジメント ～貯めるお金と増やすお金 第6回 リスクの移転 ～保険で備える 第7回 生命保険の基本① ～生命保険の仕組み、必要保障額 第8回 生命保険の基本② ～生命保険の種類、生命保険契約 第9回 契約・情報に関するリスクマネジメント ～契約の基本と様々な契約、情報に対するリスクコントロール 第10回 第1～9回のまとめと中間試験 第11回 災害におけるリスクマネジメント ～災害に対する備え、自助・共助・公助 第12回 損害保険の基本① ～損害保険の仕組み、火災保険、地震保険、自動車保険、 第13回 損害保険の基本② ～その他の損害保険、第三分野の保険 第14回 仕事におけるリスクマネジメント ～業務リスク、ヒトのリスク、コンプライアンス 第15回 第11～14回のまとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業前準備学習：各回授業で取り上げる内容とキーワードに関係する文献資料を図書館およびweb検索で見つけて、読み込むこと（学習時間：2時間） ・授業後学習：授業内で指定した課題についてのレポートの作成し、松蔭manabaコースコンテンツに提出すること（学習時間：2時間）						
授業方法	PBL:各回設定のテーマについて講義し、理解を深めるため、PCを使つての事例研究やディスカッション、発表も取り入れる。＜BYOD対象科目＞						
評価基準と評価方法	・定期試験(30%)：第11～14回で取り上げた内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)および(3)の達成度を確認する。 ・中間試験(30%)：第1～9回で取り上げた内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)および(2)の達成度を確認する。 ・平常点(40%)：講義内容に基づいた練習問題と松蔭manabaコースコンテンツへの提出物によって内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)～(3)の達成度を確認する。						
履修上の注意	・欠席回数が5回を超えた場合には、期末試験を受ける資格を与えない。 ・出席確認時に不在だった場合は、その回は欠席とする。 ・講義中に無許可で退出した場合は、欠席扱いとする。 ・学校感染症、公共交通機関の運休・遅延といったやむをえない事情により欠席したとき、証明書を提出した場合に限って考慮の対象とする。						
教科書	特に使用しない。						

参考書	授業中に適宜、紹介する。
-----	--------------

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	組織論							
担当教員	青谷 実知代					科目ナンバー	U72550	
学期	前期／1st semester		曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	世の中には非常に多種多様な組織が存在する。私企業の組織に対して「公的組織」という研究領域もある。ただ、組織のモデルとして主張される組織のタイプはいくつか集約されている。組織における人間観では、代表的な組織理論として「伝統的組織論」「近代的組織論」の3つを中心に持ち上げ、組織論と言われる分野においてはどのような理論が構築されているのか理解する。							
授業の概要	経営学の組織論の学説史を踏まえながら、現代の経営組織の基礎概念・理論を実践面・実践的な事柄と結びつけながら理解する。							
到達目標	・ 経営組織論の基礎概念・理論を実際の企業組織と関係づけながら知識として身につける【知識・理解】 ・ 身近な組織における諸現象について、学習した知識を応用して理解・解釈することができるようになること【知識・理解】							
授業計画	第1回 経営学における経営組織論の位置付け（対面授業） 第2回 伝統的管理論（経済人モデル） 第3回 科学的管理法 第4回 人間関係論（社会人モデル） 第5回 近代組織論（自己実現モデル） 第6回 世の中いにはどのような組織があるのか（株式会社、NPO、公法人、財団など） 第7回 会社の経営とは（企業経営入門）【PC必携】（対面授業） 第8回 会社はどのように世の中の役になっているのか 第9回 人の働く組織はどのように作るのか（組織設計） 第10回 会社はどのような方針で動いているのか（経営理念と戦略） 第11回 会社は誰が動かしているのか（コーポレート・ガバナンス） 第12回 会社は仕事をどんな仕組みで動いているのか（組織形態） 第13回 社員は仕事をどのように分担しているのか（組織構造と職務設計） 第14回 会社は他の会社とどのように協力しているのか（組織間関係） 第15回 経営組織論の総括（対面授業）							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	企業の組織に関わる新聞などの情報について、感覚を磨くこと。 受講者各自の一般の紙媒体の情報をもとにしたトピックスの発表を予定している（各自の学習時間：毎週4時間の授業外学習）。終盤の授業では、小テストを実施するので（おさらいの学習時間：毎週4時間の授業外学習）							
授業方法	遠隔授業（BYOD対象科目） ・ 遠隔講義ですが受講生との対話形式も取り入れる。（授業で見解を求めることもあるため、積極的な発言を期待したい） ・ グループワークをすることもある。							
評価基準と評価方法	出席と毎回の授業での記入するシート（40%） 小テスト（60%） より総合的に評価する。							
履修上の注意	講義全体の2分の3の出席が確保できない場合は受講資格を失う。 20分以上の遅刻は欠席と判定。 受講マナー（私語など）も評価に加味する。							
教科書	授業ごとに資料を配布する							
参考書	随時紹介する							

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	卒業研究							
担当教員	青谷 実知代					科目ナンバー	U04090	
学期	通年／Full Year		曜日・時限	月曜3	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	マーケティングや流通、消費者行動など経営に関する専門的知識から、興味のある課題、今の時代に求められる課題ほか様々な課題を見つけ、発想を豊かにして深く追求し、自ら論文を作成すること。							
授業の概要	企業のマーケティング・マネジメントやブランド戦略、流通のしくみ、消費者のブランドイメージ、消費行動といった分野でテーマを見つけ（問題意識をもつこと）、自ら主体的に問題設定を行い、解決する糸口が見つけられるよう、1つ1つ丁寧にに取り組むことを目的とする。 色々な事柄のなかから自分の興味・関心のあることから卒業研究のテーマを絞り、その後卒業論文としての構成をどのように立てるのか具体的に考えていく（テーマを絞り込む）。既にそのテーマでされている先行研究の検索、問題意識の明確化、テーマ設定の決定、調査方法論の決定、調査実施、データのまとめ、プレゼンテーションという流れを通して、卒業論文の完成を目指す。 この過程では、好奇心旺盛に取り組みながら見聞を広め、主体性・協調性も共に大切になることも学ぶ。							
到達目標	①日頃から関心のあるテーマを自分で見つけ、関心を高めることができる（知識・理解） ②問題点を見つけ出し調査（定量的・定性的）を進めながら、分析に基づいた考え方をまとめることができる。（汎用的技能） ③課題を批判的に捉え、論文を作成することができる。（態度・志向性）							
授業計画	第1回。卒業研究とは何か。研究課題の探し方 第2回。関心ある分野の領域課題 第3回。研究倫理観とテーマ設定（原則） 第4回。研究計画の立て方（論文構成と章構成）【PC必携】 第5回。資料探しと文献検索の方法①【PC必携】 第6回。資料探しと文献検索の方法②【PC必携】 第7回。論文の書き方【PC必携】 第8回。研究計画の発表①【PC必携】 第9回。研究計画の発表②【PC必携】 第10回。研究計画の発表③【PC必携】 第11回。研究計画の発表④【PC必携】 第12回。テーマ決定後の進め方【PC必携】 第13回。情報収集と先行研究のまとめ【PC必携】 第14回。中間発表①【PC必携】 第15回。中間発表②【PC必携】 第16回。調査方法論の中間発表①（アンケート調査）【PC必携】 第17回。調査方法論の中間発表②（インタビュー調査）【PC必携】 第18回。調査方法論の中間発表③（フィールド調査）【PC必携】 第19回。調査方法論の中間発表④（歴史資料調査）【PC必携】 第20回。文献収集・先行研究批判【PC必携】 第21回。文献収集とノート作り【PC必携】 第22回。論文執筆（章立ての確認）【PC必携】 第23回。引用文献、参考文献、図表などの資料添付の方法【PC必携】 第24回。研究論文の発表①【PC必携】 第25回。研究論文の発表②【PC必携】 第26回。研究論文の発表③【PC必携】 第27回。研究結果と考察①【PC必携】 第28回。研究結果と考察②【PC必携】 第29回。卒論発表の仕方【PC必携】 第30回。最終チェックとプレゼンテーションの準備【PC必携】							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	【授業前】興味・関心のあるテーマ、また課題について追及しておくこと（2時間） 【授業後】ゼミでの議論を通し、改めて課題について考えを深めておくこと（2時間）							
授業方法	演習科目（BYOD対象科目） ・課題解決型学修 ・ディベート ・プレゼンテーション ・フィールドワーク等を取り入れる。							
評価基準と評価方法	・プレゼンテーションや発表準備（20%） ・論文作成過程における中間評価（分析方法等も含む）（20%） ・卒業論文の内容（60%） など総合的に評価する。							
履修上の注意	①何事にも好奇心旺盛に取り組む ②資料やデータ収集のために学外実習を行うこともある。入場料や交通費等は実費負担である。 ③無断欠席は厳しく対処する（積極的な参加姿勢が大事である）。 欠席する場合は、事前・事後に必ず報告する。							

教科書	なし（必要に応じて資料を配布する）
参考書	各自のテーマに併せて、参考文献を紹介する

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	川口 真規子					科目ナンバ－	U04090
学期	通年／Full Year	曜日・時限	火曜3	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	食品学・食文化学および食を通じた地域の活性化に関する研究テーマを各自で設定し、研究に必要な実験・調理・調査を行い、その成果を卒業論文としてまとめる。						
授業の概要	各自で設定したテーマについて個別指導する。 研究の内容によって調査、試作（調理）、実験を行う。						
到達目標	1) 都市生活演習で得た知識と技術をもとに、卒業研究遂行に必要な実験スキルや調査スキルが活用できる。【汎用的技能】 2) 各自で卒業研究テーマを定め【態度・志向性】、必要な種々の調査、試作、実験ができる【汎用的技能】。 3) 研究テーマを遂行するためのプレゼンテーション技術や論理的な思考ができる。【知識・理解】 4) 成果を卒業論文としてまとめ、発表することができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 ガイダンス・卒業研究における研究倫理 第2回 卒業研究テーマの候補選定 第3回 文献調査1 第4回 文献調査2 第5回 研究テーマ最終決定 第6回 研究に必要な手法を探る 第7回 研究計画立案 第8回 各自の研究について 個別指導 第9回 各自の研究について 個別指導 第10回 各自の研究について 個別指導 第11回 各自の研究について 個別指導 第12回 各自の研究について 個別指導 第13回 各自の研究について 個別指導 第14回 各自の研究について 中間報告会1 第15回 各自の研究について 中間報告会2 第16回 後期研究打ち合わせ 第17回 各自の研究について 個別指導 第18回 各自の研究について 個別指導 第19回 各自の研究について 個別指導 第20回 各自の研究について 個別指導 第21回 各自の研究について 個別指導 第22回 各自の研究について 個別指導 第23回 各自の研究について 個別指導 第24回 卒論執筆指導 第24回 卒論執筆指導 第25回 卒論報告会 準備 第26回 卒論報告会 準備 第27回 卒論報告会 準備 第28回 卒論報告会 準備 第29回 卒論報告発表会 第30回 卒論報告発表会						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：実験・調査などの進捗状況および課題についての報告用資料を準備・作成する（学習時間：1時間） 授業後：個別指導後のまとめを行い、次回実験などに必要な文献等を調べておく 収集した文献、資料などを再度読み、レポートにまとめる（学習時間：2時間）						
授業方法	講義、演習、実習、実験						
評価基準と評価方法	授業（調査・実験・試作・発表）に対する積極性（20％）：到達目標1）2）の到達度で評価する。 卒業論文（60％）：到達目標3）4）の到達度で評価する。 プレゼンテーション（20％）：中間報告会及び卒論報告会での発表内容、質疑応答の的確さなどで総合的に評価する。到達目標3）4）の到達度の確認。						
履修上の注意	研究テーマによっては実験やフィールドワークなど、授業外の時間を使う場合がある。						

教科書	なし
参考書	授業時間に適宜紹介する。

授業のテーマ	心理学的研究に関する卒論の作成																																																												
授業の概要	卒業研究では1～3学年で学んだ都市生活に関する専門的知識の中から、学生が関心をもった領域に関する問題を取りあげ、自らがその関心に応じた問題を設定して取り組む。具体的には、先行研究を探索後に残された問題の解決や新しい仮説のための方法を計画、実施し、得られた文献やデータをまとめ、考察する。これらの手続きの最終段階として卒業論文を作成する。この授業で主体的なものごとに取り組み達成していく過程をとおして、何かを解明することに対する喜びと動機づけを獲得することが目的である。																																																												
到達目標	1. 先行研究を発展させ、自ら心理学の実験・研究計画を立てることができる。[知識・理解][態度・志向性] 2. 実験や調査を実行し、データをまとめ、統計的解析ができる。[汎用的技能][態度・志向性] 3. 結果にもとづいた考察をおこない、卒業論文としてまとめ、卒論発表会で発表することができる。[知識・理解][汎用的技能][態度・志向性] 4. 自分の力で計画を立て、主体的に取り組むことができる。[態度・志向性]																																																												
授業計画	<table border="0"> <tr><td>1. ガイダンス</td><td>[PC必携]</td></tr> <tr><td>2. 研究倫理教育</td><td>[PC必携]</td></tr> <tr><td>3. 実験・調査の準備</td><td>[PC必携]</td></tr> <tr><td>4. 実験・調査の準備</td><td>[PC必携]</td></tr> <tr><td>5. 実験・調査の準備</td><td>[PC必携]</td></tr> <tr><td>6. 実験・調査の準備</td><td>[PC必携]</td></tr> <tr><td>7. 第1回報告会</td><td>[PC必携]</td></tr> <tr><td>8. 実験・調査の実施</td><td>[PC必携]</td></tr> <tr><td>9. 実験・調査の実施</td><td>[PC必携]</td></tr> <tr><td>10. 実験・調査の実施</td><td>[PC必携]</td></tr> <tr><td>11. 実験・調査のまとめ</td><td>[PC必携]</td></tr> <tr><td>12. 実験・調査のまとめ</td><td>[PC必携]</td></tr> <tr><td>13. 実験・調査のまとめ</td><td>[PC必携]</td></tr> <tr><td>14. 第2回報告会</td><td>[PC必携]</td></tr> <tr><td>15. 第2回報告会</td><td>[PC必携]</td></tr> <tr><td>16. 実験・調査の準備</td><td>[PC必携]</td></tr> <tr><td>17. 実験・調査の準備</td><td>[PC必携]</td></tr> <tr><td>18. 実験・調査の準備</td><td>[PC必携]</td></tr> <tr><td>19. 実験・調査の準備</td><td>[PC必携]</td></tr> <tr><td>20. 実験・調査の実施</td><td>[PC必携]</td></tr> <tr><td>21. 実験・調査の実施</td><td>[PC必携]</td></tr> <tr><td>22. 第3回報告会</td><td>[PC必携]</td></tr> <tr><td>23. 実験・調査のまとめ</td><td>[PC必携]</td></tr> <tr><td>24. 実験・調査のまとめ</td><td>[PC必携]</td></tr> <tr><td>25. 実験・調査のまとめ</td><td>[PC必携]</td></tr> <tr><td>26. 実験・調査のまとめ</td><td>[PC必携]</td></tr> <tr><td>27. 実験・調査のまとめ</td><td>[PC必携]</td></tr> <tr><td>28. 実験・調査のまとめ</td><td>[PC必携]</td></tr> <tr><td>29. 第4回報告会</td><td>[PC必携]</td></tr> <tr><td>30. 第4回報告会、講評</td><td>[PC必携]</td></tr> </table>	1. ガイダンス	[PC必携]	2. 研究倫理教育	[PC必携]	3. 実験・調査の準備	[PC必携]	4. 実験・調査の準備	[PC必携]	5. 実験・調査の準備	[PC必携]	6. 実験・調査の準備	[PC必携]	7. 第1回報告会	[PC必携]	8. 実験・調査の実施	[PC必携]	9. 実験・調査の実施	[PC必携]	10. 実験・調査の実施	[PC必携]	11. 実験・調査のまとめ	[PC必携]	12. 実験・調査のまとめ	[PC必携]	13. 実験・調査のまとめ	[PC必携]	14. 第2回報告会	[PC必携]	15. 第2回報告会	[PC必携]	16. 実験・調査の準備	[PC必携]	17. 実験・調査の準備	[PC必携]	18. 実験・調査の準備	[PC必携]	19. 実験・調査の準備	[PC必携]	20. 実験・調査の実施	[PC必携]	21. 実験・調査の実施	[PC必携]	22. 第3回報告会	[PC必携]	23. 実験・調査のまとめ	[PC必携]	24. 実験・調査のまとめ	[PC必携]	25. 実験・調査のまとめ	[PC必携]	26. 実験・調査のまとめ	[PC必携]	27. 実験・調査のまとめ	[PC必携]	28. 実験・調査のまとめ	[PC必携]	29. 第4回報告会	[PC必携]	30. 第4回報告会、講評	[PC必携]
1. ガイダンス	[PC必携]																																																												
2. 研究倫理教育	[PC必携]																																																												
3. 実験・調査の準備	[PC必携]																																																												
4. 実験・調査の準備	[PC必携]																																																												
5. 実験・調査の準備	[PC必携]																																																												
6. 実験・調査の準備	[PC必携]																																																												
7. 第1回報告会	[PC必携]																																																												
8. 実験・調査の実施	[PC必携]																																																												
9. 実験・調査の実施	[PC必携]																																																												
10. 実験・調査の実施	[PC必携]																																																												
11. 実験・調査のまとめ	[PC必携]																																																												
12. 実験・調査のまとめ	[PC必携]																																																												
13. 実験・調査のまとめ	[PC必携]																																																												
14. 第2回報告会	[PC必携]																																																												
15. 第2回報告会	[PC必携]																																																												
16. 実験・調査の準備	[PC必携]																																																												
17. 実験・調査の準備	[PC必携]																																																												
18. 実験・調査の準備	[PC必携]																																																												
19. 実験・調査の準備	[PC必携]																																																												
20. 実験・調査の実施	[PC必携]																																																												
21. 実験・調査の実施	[PC必携]																																																												
22. 第3回報告会	[PC必携]																																																												
23. 実験・調査のまとめ	[PC必携]																																																												
24. 実験・調査のまとめ	[PC必携]																																																												
25. 実験・調査のまとめ	[PC必携]																																																												
26. 実験・調査のまとめ	[PC必携]																																																												
27. 実験・調査のまとめ	[PC必携]																																																												
28. 実験・調査のまとめ	[PC必携]																																																												
29. 第4回報告会	[PC必携]																																																												
30. 第4回報告会、講評	[PC必携]																																																												
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：文献講読、実験や発表の準備をおこなう。（学習時間：2<時間>） 授業後学習：出された議論から、反省点をピックアップし、修正、改善する。（学習時間：2<時間>） 目安時間に関わらず、自分の納得のいくまで取り組む態度が必要である。																																																												
授業方法	実習・演習形式でおこなう。報告会の際には進めた箇所までをまとめ発表する。そこでの議論を次のステップに生かして進めていく。 〈BYOD対象科目〉																																																												
評価基準と評価方法	報告書や卒論(70%)：報告書、卒業論文、卒論要旨、卒論発表会の実行性、論理性、正確性、独創性などについて評価する。到達目標1, 2, 3に関する到達度の確認。 参加の取り組み(30%)：積極性、計画性、粘り強さなどについて評価する。到達目標1, 2, 3, 4に関する到達度の確認。																																																												
履修上の注意	毎回出席することが原則である。都合により欠席する場合は、教員に事前に連絡し、次回までに補っておくようにする。																																																												

教科書	なし。適宜、資料をmanabaに添付する。
参考書	「心理学マニュアル 要因計画法」 北大路書房 ISBN: 978-4762821967 「心理学マニュアル 質問紙法」 北大路書房 ISBN: 978-4762821097

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	長谷川 誠					科目ナンバー	U04090
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	授業を通して、論文執筆のための方法や技術を修得し、各自のテーマに沿って卒業論文を書き上げる						
授業の概要	卒業研究では1～3学年で学んだ都市生活に関する専門的知識の中から、学生が関心をもった領域に関する問題ととりあげ、自らがその関心に応じた問題を設定し取り組む。具体的には、先行研究を探索後に残された問題の解決や新しい仮説のための方法を計画、実施し、得られた文献やデータをまとめ、考察する。これらの手続きの最終段階として卒業論文を作成する。この授業で主体的にものごとに組み組み達成していく過程をとおして、何かを解明することに対する喜びと動機づけを獲得することが目的である。						
到達目標	①過去の文献、調査研究報告を整理し、自ら研究計画を立てることができる（知識、理解） ②情報を主体的、批判的に受容し、論理的に判断する能力、自分の考えを的確に表現する高度なコミュニケーション能力の習得（汎用的技能） ③自立した人間としての自己の確立と、身に付けた知識・社会に還元し他者と調和して生きる姿勢の習得（態度、志向性）						
授業計画	1. 卒業研究、卒業論文について 2. 研究計画の立て方① 3. 研究計画の立て方② 4. 各自のテーマ、関心について① 5. 各自のテーマ、関心について② 6. 各自のテーマ、関心について③ 7. 先行研究の調査① 8. 先行研究の調査② 9. 先行研究の調査③ 10. 調査結果の考察① 11. 調査結果の考察② 12. 調査結果の考察③ 13. 各自の研究内容の報告と質疑応答① 14. 各自の研究内容の報告と質疑応答② 15. 中間報告会① 16. 中間報告会② 17. 各自の研究内容に関する個人指導① 18. 各自の研究内容に関する個人指導② 19. 各自の研究内容に関する個人指導③ 20. 各自の研究内容に関する個人指導④ 21. 各自の研究内容に関する個人指導⑤ 22. 中間報告会③ 23. 中間報告会④ 24. 各自の研究内容に関する個人指導⑥ 25. 各自の研究内容に関する個人指導⑦ 26. 各自の研究内容に関する個人指導⑧ 27. 各自の研究内容に関する個人指導⑨ 28. 最終報告会① 29. 最終報告会② 30. 総括						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：文献検索、資料収集、調査（学習時間：2時間） 授業後学習：調査結果の整理、プレゼンテーション資料作成（学習時間：2時間）						
授業方法	演習、個人指導を中心とし、定期的に発表を行う						
評価基準と評価方法	ルーブリック評価に基づき評価する。 主に研究計画書、中間報告書の提出およびプレゼンテーション30%。到達目標①、②及び③に関する到達度の確認。卒業論文の最終報告および提出70%。到達目標①、②及び③に関する到達度の確認。 課題のフィードバックのコメントは、翌週授業において紹介、解説する。						
履修上の注意	主体的に取り組む、教員への報告等は欠かさないこと						

教科書	授業中に紹介する
参考書	授業中に紹介する

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	花田 美和子					科目ナンバ－	U04090
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	衣生活学、色彩学等に関連するテーマを取り上げ、卒業論文を作成する。						
授業の概要	前期はテーマを設定し、先行研究の調査、予備実験等をおこなった上で、研究計画を作成する。 後期は定期的に進捗を確認しながら本実験、調査を進め、提出締切日までに卒業論文を完成させる。						
到達目標	各自のテーマに沿って研究の背景や先行研究を調べ、実験や調査を行って知見を得る。【知識・理解】 論理的に文章を組み立て、一定水準の卒業論文を完成させる【汎用的技能】 研究で得られた成果を実生活に役立てる方法を考察する【態度・志向性】						
授業計画	第1回：ガイダンス 第2回：先行研究の調査 1 図書館での文献検索ガイダンス 第3回：先行研究の紹介 2 第4回：先行研究の紹介 3 第5回：テーマの設定と研究計画の検討 1 第6回：テーマの設定と研究計画の検討 2 第7回：テーマの設定と研究計画の検討 3 第8回：予備実験 1 第9回：予備実験 2 第10回：予備実験 3 第11回：研究テーマと研究計画の発表 1 第12回：研究テーマと研究計画の発表 2 第13回：研究テーマと研究計画の発表 3 第14回：研究の実践 第15回：中間発表 第16回：研究の実践 第17回：研究の実践 第18回：研究の実践 第19回：研究進捗状況の確認 第20回：研究の実践 第21回：研究の実践 第22回：研究の実践 第23回：研究進捗状況の確認 第24回：卒業論文執筆の方法 1 第25回：卒業論文執筆の方法 2 第26回：研究進捗状況の確認 第27回：論文の完成 第28回：論文要旨作成 第29回：研究発表準備 第30回：研究発表準備						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業時間外にも研究を進めていくことが必要となる。（授業前後、180分） 一斉授業の他、必要に応じて個人指導をおこなう。						
授業方法	演習、実験						
評価基準と評価方法	研究への取り組み:50%、卒業論文:50%						
履修上の注意	研究は互いに協力し合いながら計画的にすすめること。 提出期限を守ること。						

教科書	使用しない。
参考書	随時紹介する。

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	調理科学実験						
担当教員	長尾 綾子					科目ナンバー	H21150
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3～4	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	調理操作に対する興味・関心を持ち、調理科学的な視点を培う。また、実験を通して調理の基礎的な技術を身に着ける。						
授業の概要	調理の基礎技術を理解するために必要な実験を行う。 加熱方法や加熱時間による食材の変化、切り方の違いによる味の浸透の差異、材料配合変化による調理への影響などを実験を通して学習する。						
到達目標	(1) 調理操作が食品に及ぼす影響を理解し、説明できる【知識・理解】 (2) 計量をはじめとする基礎的な調理操作を正しく行うことができる【汎用的技能】 (3) 調理操作による物理的・化学的な影響を踏まえて調理に臨むことができる【態度・志向性】						
授業計画	第1回 諸注意その他、計量（調味料） 第2回 味覚の実験（閾値、味の相互作用、官能評価） 第3回 野菜・果物・いもの実験①（食品の下処理と廃棄率） 第4回 野菜・果物・いもの実験②（食品の変色と防止法、褐変防止方法の効果の確認） 第5回 加熱操作に関する実験（大根の煮え方） 第6回 米の実験 炊飯工程と米の糊化条件の確認、米の組成と粘りの関係 第7回 実験結果プレゼンテーション・考察〈第2回から6回までの実験結果のまとめ・班による発表〉 第8回 だし汁の実験（相乗効果、だし素材、浸漬・加熱方法による食味の違い） 第9回 汁物の実験（調味パーセント、塩分含量測定） 第10回 ゲル化剤の実験（寒天・ゼラチン・カラギーナンの特性に及ぼす副材料の影響） 第11回 卵の実験（卵液希釈度・調味料の量や食味への影響） 第12回 小麦粉の実験（材料の配合割合がクッキーに及ぼす影響） 第13回 肉・魚介の実験（ハンバーグステーキと副材料の役割） 第14回 牛乳の実験、砂糖の実験 第15回 実験結果プレゼンテーション・考察〈第8回から14回までの実験結果のまとめ・班による発表〉						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	実験科目のため、データの整理や結果のまとめは授業内に行うが、松蔭manabaにて資料の提示やレポートの提出、およびグループごとのプレゼンテーションの準備を行うために次の時間を要する。 授業前準備学習：実験内容に目をおしておく。＜学習時間：30分＞ 授業後学習：（毎回）レポートの作成、（2回）グループ発表の準備。＜学習時間：30～60分＞						
授業方法	実験：実験内容説明後、グループごとに実験を行い、データ整理、結果についてのディスカッションを行う。 各自、実験記録をもとにレポートを作成し、松蔭manabaに提出する。 プレゼンテーション：第9回と第15回にグループごとのプレゼンテーションを行い、要点を整理する。						
評価基準と評価方法	授業態度（実験、発表への取り組み）50%、レポート（実験ノートを含む）50% 授業態度：実験の取り組み、グループ作業への参加度、グループ発表の内容より、総合的に評価する。 到達目標（1）（2）（3）に関する到達度の確認。 レポート：実験結果をもとにレポートが作成できているか、実験記録、結果、考察を総合的に評価する。 到達目標（1）（2）（3）に関する到達度の確認。 フィードバックの方法：授業時および松蔭manabaにて対応する。						
履修上の注意	「調理学」を履修していることが望ましい。 実験内容を把握し、実験に適した身支度をした上で臨むこと。（実験用白衣を着用：各自購入） 実験室へは許可された物の持ち込みを可能とする。 実験のため全回出席を原則とし、出席回数が開講日の2/3に満たないものには、原則単位認定を行わない。 20分以上遅刻の場合は欠席とする。 提出物は提出期限厳守。実験後のレポート提出を以ってその回を受講したこととする。						
教科書	『Nブックス実験シリーズ 調理科学実験』第2版、長尾綾子・香西みどり編著、建帛社、ISBN 978-4-7679-0623-2						
参考書	『調理学』（公社）日本フードスペシャリスト協会編、建帛社、ISBN 978-4-7679-0524-2 『NEW 調理と理論』、山崎清子・島田キミエ・渋川祥子・下村道子・市川朝子・杉山久仁子著、同文書院、ISBN 978-4-8103-1395-6						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	調理学						
担当教員	升井 洋至					科目ナンバー	H11130
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	調理について理解し、調理をするために必要な知識を学び、修得する。						
授業の概要	人が健康を維持するためには、適切に食事を摂らなければならない。食事は、単にタンパク質、炭水化物、油脂等を摂るだけでなく、「適切に、おいしく」摂る必要がある。このためには、食材の特性を理解し、適切な調理方法を行うことが求められる。嗜好的に好まれる＝おいしく食べるために、調理学では、調理をするために必要な知識として、食事設計の基本知識、食素材の調理性、調理操作による組織または物性と栄養成分の変化などを学ぶ。						
到達目標	(1) 食事設計の基本知識、食素材の調理性、調理操作による組織または物性と栄養成分の変化などを理解する。【知識・理解】 (2) 状況に合わせた食事設計ができるようになる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 おいしさの設計―①調理の意義、②食べ物の嗜好性 第2回 おいしさの設計―③おいしさの演出 第3回 おいしさの設計―④食事設計 第4回 調理操作―非加熱操作と器具 第5回 調理操作―加熱操作と器具 第6回 調理操作―熱源の種類と加熱機器・器具 第7回 食品素材の調理特性―炭水化物を多く含む食品の調理性 <確認試験> 第8回 食品素材の調理特性―たんぱく質を多く含む食品の調理性 第9回 食品素材の調理特性―ビタミン・無機質を多く含む食品の調理性 第10回 食品素材の調理特性―成分抽出素材の利用と調理性 第11回 調理と食品開発―調理と摂食機能 <確認試験> 第12回 調理と食品開発―安全性への配慮 第13回 調理と食品開発―調理から加工への展開 第14回 調理と食品開発―消費と流通への展開 第15回 授業内容のまとめ 第16回 期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：講義テーマについて、教科書による予習（学習時間2時間） 授業後学習：講義内容について、要点整理、確認テストによる理解度の確認（学習時間2時間）						
授業方法	対面講義形態で行う。講義では教科書をもとにパワーポイント等で解説する。調理操作や食品素材の変化について具体的に説明をする。						
評価基準と評価方法	期末試験 60%：授業内容全般についての理解度、興味関心の有無について評価する。 到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。 レポート課題20% 確認試験 20%：2回実施						
履修上の注意	日常生活で「調理する」ことについて、興味、関心をもって、講義の予習、復習を行うこと。食べたものが、どのように調理され、提供されているかを考えてください。出席回数が開講回数の3分の2に満たない場合、原則単位認定は行わない。遅刻、早退30分以上は欠席とする。						
教科書	『調理学 第2版』 (公社)日本フードスペシャリスト協会編、建帛社 ISBN:9784767906560						
参考書	『調理学 第2版』、淵上倫子編著、朝倉書店、ISBN978-4-254-61650-7 『NEW 調理と理論 第二版』、山崎清子・島田キミエ・渋谷祥子・下村道子・市川朝子・杉山久仁子著、同文書院、ISBN 978-4-8103-1507-3 『コツと科学の調理事典 第3版』、河野友美著、医歯薬出版、ISBN978-4-263-70264-2 映像で学ぶ『調理の基礎とサイエンス』、松崎政三・藤井恵子・寺本あい編著、学際企画、ISBN 978-4-8103-1395-6						

参考書	『たのしい調理―基礎と実習―』第5版、山内知子他著、医師薬出版株式会社、ISBN 978-4-263-70653-4
-----	--

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	調理実習						
担当教員	橋本 沙幸					科目ナンバ－	U12140
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3～4	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	食生活の自立に必要な基本的な調理技術を習得する。						
授業の概要	日常の日本料理を中心とした調理実習を通して、基礎的調理技術、食品の性質とその取り扱い方、食事作法など食事に関する基礎的総合的技能を養う。具体的には、非加熱および加熱調理操作、調味操作などの基礎的調理操作を行う過程で起こる諸現象を観察することにより、調理の理論と技術との関連性を把握し、合理的な調理技能を修得する。また、食事計画から食卓構成を実習するプロセスでは、食品の栄養的価値、安全で衛生的な取り扱い方、食卓の演出などを総合的に学ぶ。						
到達目標	(1) 基本的な調理方法、調理の特異性、調理の意味、調理の可能性について理解する。【知識・理解】 (2) 基本的な調理技術を習得し、調理に対する興味を広げる。【汎用的技能】 (3) 食生活に対する自信を培い、自らの食を省み、食の自律を促す。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 オリエンテーション、調理実習の心得、包丁の扱い方 第2回 ご飯の炊き方 第3回 出汁の取り方 第4回 野菜の切り方 第5回 寒天とゼラチンの扱い方 第6回 日本料理1 第7回 日本料理2 第8回 日本料理3 第9回 西洋料理1 第10回 西洋料理2 第11回 自主献立の準備（調理工程の確認、食材の発注作業） 第12回 中国料理1 第13回 中国料理2 第14回 自主献立 第15回 日常食の課題献立						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：実習で使用する食材の分量を計算する。（学習時間1時間） 課題1：献立を立案する。（学習時間1時間） 課題2：包丁の扱い方、卵を使用した料理の練習。（学習時間2時間） 授業後学習：再現性のある作り方、反省点や改善点をまとめる。（学習時間1時間）						
授業方法	実習：説明・示範の後、グループごとに作業手順や操作方法を確認した上で調理や後片付けを行う。 自主献立では、献立立案・調理手順書や発注書の作成を行い、調理した後、レポートにまとめる。						
評価基準と評価方法	受講態度・実習への取り組み (60%) 調理への参加度、衛生面への配慮、発表内容より総合的に評価する。到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。 調理技術試験 (20%) 包丁の扱い方、卵を使用した料理について試験を行う。到達目標(2)に関する到達度 課題・レポート (20%) 再現性のある作り方の記入、献立の作成について総合的に評価する。到達目標(1)(3)に関する到達度の確認。なお、レポート評価後は、添削したレポートを返却して各自にフィードバックする。						
履修上の注意	「調理学」の単位修得者が履修できる。 20分以上の遅刻・不在は欠席扱いとする。全回出席を原則とし、出席回数が開講日数の3分の2に満たない場合は単位認定を行わない。食材の準備があるため、欠席する場合は事前に必ず連絡すること。（無断欠席は受講態度より減点する） 調理に適した身支度をした上で実習に臨むこと。 調理室でのアクセサリーの着用は認めない。爪は自宅で切ってくること。 授業中の携帯電話の使用は禁止する。 提出物は、提出期限厳守。実習後の実習レポート提出をもって、実習を受講したこととする。 実習着購入については、ポータルにて連絡をする。 実習費8,000円を徴収する。						
教科書	毎回プリントを配布する。						

参考書	「八訂 食品成分表 2025」、香川明夫 監修、女子栄養大学出版部、2025年、ISBN 978-4-263-70123-2 『たのしい調理—基礎と実習—』第6版、山内知子他著、医師薬出版株式会社、ISBN 978-4-263-70536-0 映像で学ぶ『調理の基礎とサイエンス』松崎政三・藤井恵子・寺本あい編著、学際企画、ISBN 978-4-906514-86-1
-----	--

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	地域インターンシップ／食と農の地域インターンシップ						
担当教員	青谷 実知代					科目ナンバー	U22420
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	地域産業の理解を深め、インターンの実習（イベント）を通して課題解決に繋げていく。						
授業の概要	瀬戸内海に面し、さらに六甲山という自然に囲まれた環境の中で、神戸の産業がどのように生み出し育まれてきたのかを理解します。その上で、自らが関心を持った産業へ視察、調査をし、インターンシップを通して課題解決に向かいます。技術や専門知識を深めるとともに、安心した暮らし方を考えたり将来の夢やキャリア形成を考える機会を提供します。 分野によっては、異文化交流をはかりながらコミュニケーション能力など基礎的な実践力を養います。						
到達目標	①神戸で育まれた産業を理解する。（知識・理解） ②安心・安全な生活環境づくりについてのプロセスを描くことができる。（汎用的技能） ③将来のキャリア形成を考える。（態度・志向性） ④異文化交流をはかりながらコミュニケーション能力を養う。（態度・志向性）						
授業計画	【集中講義】 <本学 事前指導4回：青谷> 第1回 神戸の現状と課題 第2回 神戸の防災と減災 第3回 神戸の産業① 第4回 神戸の産業② <学外でのインターンシップ（課題解決のカギを学ぶ：視察重視）> （第5～7回は、青谷と共に学外実習を行う。第8～13回は、履修生のみで実習を行う。） 第5回 生活の暮らしを考える：防災イベント参加（2024年度は無印良品とコラボレーション） 第6回 生活の暮らしを考える：防災イベント参加（同上） 第7回 灘区のイベント参加（王子公園にて） 第8回 灘区のイベント参加：（王子公園にて） 第9回 イベント企画：（実習体験） 第10回 イベント企画：（実習体験） 第11回 イベント企画（実習体験） 第12回 イベント開催（実習体験） 第13回 イベント開催（1月を予定） <本学 学内実習および事後指導2回：青谷> 第14回 プレゼンテーション：実習報告会 第15回 持続可能な社会に求められる人材を目指して ※例年、12月と2月にワカメの種付け・収穫体験実習があります。日程が分かり次第、ご連絡します。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	①農業や食に関する新聞や雑誌の話題をつかんでまとめておくこと。（事前学習：2時間） ②兵庫県の特産品を確認、整理。環境に配慮した取り組みについてレポート作成（事後学習：2時間）						
授業方法	講義と実地研修（インターンシップ） ・講義ではプレゼンテーションやディベートを取り入れて実施する。						
評価基準と評価方法	評価基準と評価方法 平常点（インターンシップの参加も含む）50%：各回提出のリアクションペーパー（講義内容についてのコメント・質問など）により評価する。到達目標に関する到達度の確認。 プレゼンテーション 30% レポート課題 20%						
履修上の注意	①授業回数の3分の1以上欠席した人は評価基準を失うものとする。 ②学外実習の費用（交通費や入館料、参加費など）は、自己負担とする。						
教科書	資料を配布して学修を進めます。必要に応じて、レジュメを配布します。						

参考書	随時紹介していきます。
-----	-------------

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	地域社会論						
担当教員	稲見 直子					科目ナンバー	U73870
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	地域の空き家再生策を考える。						
授業の概要	この授業では、フィールドワークなどの社会調査を通じて地域の課題を発見し、その課題に対して大学資源と空き家を活用した解決策を考える。						
到達目標	(1)社会調査を通じて地域の課題を発見することができる。【知識・理解】 (2)課題に対する解決策として、大学資源をどのように活用することができるかを提案することができる。【汎用的技能】 (3)学生自らが地域住民や自治体職員と協力して地域社会の現状を主体的に学び、課題解決策の企画と報告までを行うことができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 神戸市北区山田町を調べる(1) 文献資料調査 ※PC必携 第2回 神戸市北区山田町を調べる(2) 統計資料調査 ※PC必携 第3回 神戸市北区山田町を調べる(3) ゲストスピーカー ※PC必携 第4回 フィールドワーク 第5回 地域の課題を整理 ※PC必携 第6回 大学資源を用いた空き家活用方法を考える(1) ※PC必携 第7回 大学資源を用いた空き家活用方法を考える(2) ※PC必携 第8回 大学資源を用いた空き家活用方法を考える(3) 中間報告 第9回 アンケート調査の企画(1) ※PC必携 第10回 アンケート調査の企画(2) ※PC必携 第11回 アンケート調査の実施(フィールドワーク) 第12回 アンケート調査の分析 ※PC必携 第13回 報告に向けた準備(1) ※PC必携 第14回 報告に向けた準備(2) ※PC必携 第15回 報告会						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：各回の授業で扱うテーマに関する新聞記事を探して読み、下調べをする。＜2時間＞ 授業後学習：各回の授業で扱ったキーワードを整理しまとめる。＜2時間＞						
授業方法	演習形式のほか、学外でのフィールドワークを実施する。＜BYOD対象科目＞						
評価基準と評価方法	・授業参加度(30%)：社会調査やグループワークなど授業に主体的に取り組んでいるかなどを総合的に評価。到達目標(3)の確認。 ・社会調査(40%)：文献資料やフィールドワーク、アンケート調査を通じて地域社会の課題を的確に把握できているか、地域課題に対して大学資源を活用した提案ができていないかなどを総合的に評価。到達目標(1)(2)の確認。 ・プレゼンテーション(30%)：報告資料や報告内容、報告態度などを総合的に評価。到達目標(1)(2)(3)の確認。						
履修上の注意	・授業回数の3分の1以上欠席した人は、原則単位認定を行わない。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。また遅刻3回で欠席1回とする。 ・グループワークを行うことがある。 ・週末に学外調査を実施することがある(月1回程度)。また、それに伴う交通費や入場料が必要になる。ただし、第11回のフィールドワークについては中止になる可能性もある ・地域住民や自治体職員など外部の人たちと協働することがあるため、欠席時の連絡や時間厳守などマナーやルールが守れること。						
教科書	適宜レジメと資料を配布する。						
参考書	小熊英二, 2019, 『地域をまわって考えたこと』東京書籍. 山下祐介, 2020, 『地域学をはじめよう』岩波ジュニア新書.						

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	地域ブランド論							
担当教員	青谷 実知代					科目ナンバ－	U72520	
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	地域の引力を生み出し、強いブランドを創るためのプロセスを学修する。							
授業の概要	地域の引力を生み出し、観光を盛り上げていくには、国・都道府県・市町村・住民・観光施設など様々な関係者が集まり、「自分事」として地域の課題を捉え、取り組むことが強い地域ブランドづくりに繋がる。いわゆるそれは、交流人口の増加や滞在人口の増加、さらに地方創生にも関わる取り組みとなる。 日本人による旅行消費額は、日本国内における旅行消費額の約8割を占める。こうした需要が、持続的な観光振興の鍵を握ることになる。しかし、日本人の旅行消費額は、国際的に見ても未だに低い水準にある。訪日外国人旅行者数が急激に伸びている一方で、日本人の国内旅行社数や海外旅行者数はほとんど伸びていない。「観光に来てもらう国」よりも国民が「観光に行く国」（旅行にお金をつかう国）のほうが、幸福度は顕著に高い。 日本人の旅行を促進し、観光を楽しむ人が増えることは、地域振興のみならず人々の幸せにも結びつく。そこで、地域の引力が増加し、地域のブランド力が強くなるプロセスを、農林水産業・食品産業・伝統工芸産業・観光サービス業・商業などの分野で幅広い展開が行われているケースを取り上げ、理解する。 そして、そのケースを通して本講義ではブランドの理論、手法、実践例、活用方法を学ぶ。							
到達目標	①地域ブランドの概念について政府機関の考え方を踏まえながら企業ブランドとの関係性について知識と理解を深めることができる。（知識・理解） ②地域ブランドの構築に際して形成すべき要素・構成について理解し、アイデアを深めていく。（汎用的技能） ③ブランドの対象となるものに付与すべき価値や機能について考え、地域の課題を考えることができる。（態度・志向性）							
授業計画	第1回 地域ブランドの概念と構成（誘致・誘客からマーケティングへ） 第2回 地域ブランドの意味と役割（観光のブランドづくりとは何か） 第3回 ブランドのマネジメント（どうすれば強いブランドが生まれるのか） 第4回 地域ブランドの分析視覚：地域空間のブランディング（イメージが浮かばなければ、選ばない） 第5回 ブランドと地名の違い【PC必携】 第6回 地域ブランドの付与条件【PC必携】 第7回 地域ブランドの一番とは何かー地方創生との関わりー【PC必携】 第8回 地域ブランドのシンボル【PC必携】 第9回 地域の引力を生み出す方法（ゲストスピーカー） 第10回 地域ブランド資源としての地域産品：食がブランドを強くする【PC必携】 第11回 地域ブランドのマネジメントの特徴（ブランドづくりのステップ）【PC必携】 第12回 地域ブランドと観光地の集客イベント事業（観光立国は幸せな国か）【PC必携】 第13回 地域ブランドの競争（量の観光から質の観光へ）【PC必携】 第14回 地域ブランドの共創（プレゼンテーション）【PC必携】 第15回 地域固有性とブランディング							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	①地域の情報誌や駅構内にあるフリーペーパーなど資料を収集し、まとめる。（学習時間：2時間） ②授業中に指示された課題をレポートしつつ、地元（自分が住んでいる市町村）の観光実態を把握すること。（学習時間：2時間）							
授業方法	講義形式（BYOD対象科目） ・課題解決型学修を取り入れる。 ・プレゼンテーションを行う。							
評価基準と評価方法	・各回提出のリアクションペーパー（講義内容についてのコメント・質問・アイデア）などにより評価する。（10%） ・レポート課題への取り組みとプレゼンテーションの評価（30%） ・期末試験（60%）							
履修上の注意	①授業中配布するプリントは、各回の出席者のみ配布する（欠席の時は、翌週授業時に限り再配布）。 ②講義全体の2/3の出席が確認できない場合は、受講資格を失う。 ※20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ③アクティブラーニング（グループワーク、ディスカッションなど）を積極的に取り入れる。 ④学外実習（見学）を伴うこともあるため、入館料や交通費等は自己負担となる。 ※この科目は、「マーケティング論」「食と観光のマーケティング論」「食と観光産業のマーケティング論」と併せて履修することが望ましい。							
教科書	随時紹介する。							
参考書	『1からの観光』高橋一夫・大津正和・吉田順一編著、中央経済社 ISBN978-4-502-67410-5 岩崎邦彦著『観光ブランドの教科書』日本経済新聞出版社、ISBN978-4-532-32307 陶山計介・室博・小菅謙一・羽藤雅彦・青谷実知代『地域創生と観光』千倉書房、2022年、ISBN978-4-8051-1273-1							

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	地域メディア編集論						
担当教員	江 弘毅					科目ナンバー	U73850
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	地域メディアとその編集。インターネットの普及以来、激変したメディアとそこで発信される地域情報の現在進行形を概観する。						
授業の概要	この授業では、さまざまなメディアで発信される地域情報のありようを、激変するメディア自体とその情報伝達のシステムの変貌とともに探っていく。とくに、この大学がある神戸の地元情報を地域情報としてとらえ、ソーシャルメディアを含めたさまざまなメディアで情報化へ表現することを「地域メディア編集」と位置づける。2年次前期の「神戸論」から、神戸の歴史、開港が決定づけた街の性格と外国文化（洋食やパン・スイーツ、ファッション…）および神戸の観光をメディア・コンテンツのベースとして再確認し、さらにこの専門科目の「地域メディア編集論」の実践科目である「メディアとコンテンツ制作」（後期）にブリッジする。						
到達目標	（１）地域情報の発信のためのメディアについて、理解し考察することができる。【知識・理解】 （２）高度に発達した情報化社会のなかで、さまざまなメディアで神戸の街を情報化し編集することができる。【汎用的技能】 （３）地域情報とソーシャルメディアの親和性を理解し、そこで神戸の情報を発信・共有・拡散することができる。【態度・指向性】						
授業計画	第1回 この授業でなにをやるのか 第2回 都市空間にインターネットがやってきた 第3回 情報、コンテンツの乗り物としてのメディア 第4回 メディアの発展とその変貌 第5回 マスメディアとソーシャルメディア 第6回 地域情報とマスメディア 第7回 地域情報とフリーペーパー 第8回 地域情報とネット、ソーシャルメディア、SNS（Facebook、TikTokなど） 第9回 コンテンツとしての神戸の消費情報。洋食、パン・スイーツ、街やお店などは、どのように紹介されているか 第10回 神戸のフード・ツーリズム（食をめぐる旅）情報 第11回 神戸の観光・エンタメ情報 第12回 映画作品、文学作品のなかの神戸 第13回 地域ブランディングと神戸 第14回 地域メディアを編集する 第15回 期末試験としての試論を書く すべての回で【PC必携】						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	参考書を読み理解することと、神戸の地域情報をネット上のコンテンツのみならず、雑誌や新聞、印刷物、映像、デザイン、音楽、グルメ、ファッション…から抽出し、資料としてストックし、読んで感じて学習すること（90分）。その資料に基づき、「現地」「現場」を訪ねて実感すること（120分）。						
授業方法	毎回授業前にmanabaのコースコンテンツに講義の内容、レジュメや資料をアップします。 毎回のリアクションペーパーをmanabaのレポートに書いてください。 実際のフィールドワーク（取材や撮影）につながらるように、神戸の実例を中心に講義する。 〈BYOD対象科目〉 【実務経験のある教員等による授業】 都市情報誌「Meets」の編集長であった職歴、さまざまなメディアに、社会や街について執筆・編集している現役のプロフェッショナルとしての経験を生かして、変貌するメディアの現場と、神戸におけるグルメ、ファッション、観光産業などのコンテンツを紹介しつつ、実務家としての人的ネットワークを生かしたフィールドワークを行う。						
評価基準と評価方法	期末試験＝試論（1200字）50%。各回提出のリアクションペーパー（manabaのレポートに記入）30%、質問応答（コール＆レスポンス）、授業中の発表発言20%。						
履修上の注意	3分の2以上の出席に満たない学生には単位を認めません。						
教科書	毎回、授業前にmanabaのコースコンテンツをアップし、レジュメや資料を配布します。						

参考書	『編集進化論 editするのは誰か?』中俣暁生著、フィルムアート社 ISBN978-4-8459-1054-0 『ソーシャルメディア論 つながり再設計する』藤代裕之編著、青弓社 ISBN978-4-7872-3391-2 『コミュニケーション論をつかむ』辻大介ほか著、有斐閣 ISBN978-4-641-17720-8 『大人のためのメディア論講義』石田英敬著、ちくま新書 ISBN978-4-480-06871-2
-----	---

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	地域連携論						
担当教員	江 弘毅					科目ナンバー	U12160
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	現在進行形で進む地域連携の具体例を知り、市民的成熟に基づいたコミュニティづくりを考える。						
授業の概要	本講義は、現代社会における地域が抱える諸問題について、いかにして関係諸機関が連携を図り、その問題解決を行うかについて学ぶ。 前半は、資本主義（新自由主義とグローバリズム）や社会制度、行政の取り組みからコミュニティへ地域連携の意義と必要性を考え、後半はコミュニティづくりや、ソーシャル・ビジネスの具体的事例、NPOや市民団体等による先駆的な実践を紹介する。 官民による多様な実践例から、身近な生活をよりよくする地域連携のあり方について考察する。						
到達目標	(1) コミュニティにおいての市民的成熟を身につけることができる。【知識・理解】 (2) 地域のコミュニティづくりに参画することができる。【態度・志向性】 (3) 地域のコミュニティづくりの具体案を出すことができる。【知識・理解】						
授業計画	前半は「地域連携」の社会的意義、考え方を概論。 後半は教員がこれまで関わってきたり取材してきたさまざまなNPOやTMOなどの組織、地域団体、祭礼組織、ネットワークの実例をリアルに紹介し、それを理解し考察する。 第1回 この地域連携論でなにをやるのか 第2回 コロナ禍でいっそう進んだ格差社会 第3回 新自由主義（ネオリベリズム）について 第4回 新自由主義、グローバリズムと地域社会 第5回 世界のフラット化が地域を消滅させる 第6回 「公」「共」「私」を理解する 第7回 中景＝「中間」共同体はどこにあるのか 第8回 ソーシャル・キャピタル（社会関係資本）という考え方 第9回 地元灘区の「灘区のnaddist―地元と生きる」 第10回 尼崎南部再生研究室（尼崎市）の取り組み 第11回 市民と落語家が作った「天満天神繁昌亭」（大阪市北区） 第12回 岸和田だんじり祭にみる祭礼と地域連携 第13回 農業と地域連携 第14回 地域連携＝コモンを創造する 第15回 期末レポートをまとめる すべての回で [PC必携]						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：授業計画に関連するテーマに応じて参考書を読み、さまざまなメディアから情報を収集する（学習時間90分）。 授業後学習：授業計画にあがった事例の地元をその都度歩くこと、地域イベントなどに参加すること（学習時間120分）。						
授業方法	毎回授業前にmanabaのコースコンテンツに講義の内容をアップします。 レジューメや資料もアップします。 毎回のリアクションペーパーをmanabaのレポートに書いてください。 実際のフィールドワークにつながるように、大阪～阪神間～神戸の実例を中心に講義する。 学期中に、自分が知り得た地域連携の実例、タイムリーな地域イベントに参加して、それをレポートすること。 〈BYOD対象科目〉						
評価基準と評価方法	期末レポート「わたしが知る地域連携（2000字）」（50％）。各回提出のリアクションペーパー（30％）、授業でのコール＆レスポンス（20％）						
履修上の注意	3分の2以上の出席に満たない学生には単位を認めません。						
教科書	毎回、授業前にmanabaのコースコンテンツをアップし、レジューメや資料を配布します。						
参考書	『NHKテキスト 100分で名著 カール・マルクス 資本論』斎藤幸平著、NHK出版 ISBN:9784142231218 『武器としての資本論』白井聡著、東洋経済新報社 ISBN-10:4492212418 『人口減少社会のデザイン』広井良典著、東洋経済、ISBN-10: 4492396476 『コミュニティを問い直す』広井良典著、ちくま新書、ISBN-10: 4480065018 『ソーシャル・キャピタル入門～孤立から絆へ』稲葉陽二著、中公新書、ISBN-10: 412102138X						

参考書	『奇跡の寄席 天満天神繁昌亭』堤成光著、140B、ISBN-10: 4903993043 『ローカリズム宣言』内田樹著、deco ISBN:9784906905164 『コロナ後の世界』内田樹著、文藝春秋 ISBN:9784163914589 『メイドイン尼崎本』ティーエムオー尼崎 『南部再生へ尼崎南部地域の情報誌』（フリーマガジン） HP『ナダタマ』 http://www.naddist.jp
-----	--

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	データ分析法I／調査集計演習						
担当教員	稲見 直子					科目ナンバー	U22080
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	平均値・分散・標準偏差等の基礎的な統計知識を使いながらデータの作成をし、詳細な分析手法を扱い、統計に慣れながら理解することを目指す。						
授業の概要	定量データや定性データなどの基礎的な資料が読め、平均、分散、標準偏差などの記述統計の知識を使ってデータの作成・分析ができる事を目標とする。エクセルやSPSSなどの統計ソフトを利用して、単純集計、クロス集計、グラフ作成などを実際のデータを使いながら学ぶ。さらに変数と変数の相関係数とその検定、因果関係と相関関係の区別、疑似相関が理解できるようにする。						
到達目標	(1) データを作成する手法を身に付け説明することができる。【知識・理解】 (2) データの違いに気が付き、正しい分析手法を使えるようになる。【汎用的技能】 (3) データの裏側を読み解き、それについて議論することができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 関連データの探し方 第2回 官公庁統計の収集・整理 第3回 フィールドワーク論文の読み方 第4回 エクセルの基礎 エクセルデータの入力 第5回 エクセルの基礎 平均・分散・標準誤差 第6回 相関係数 因果関係と相関関係 第7回 相関係数とその検定 第8回 クロス集計の基礎 第9回 クロス集計表の検定- χ^2 検定- 第10回 エクセルによるグラフの作成 第11回 エクセルとワード ワードによるレポートの作成 第12回 SPSSによる統計分析 (1) -t検定- 第13回 SPSSによる統計分析 (2) --一元配置の分散分析- 第14回 報告書の作成 第15回 報告書の作成						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：社会調査に関するトピックスに関心を持ち、関連文献を活用し代表的な分析手法について下調べをして理解を深めておくこと。＜2時間＞ 授業後学習：授業内で指示した課題について反復練習を行い、分析手法について理解を深めること。＜2時間＞						
授業方法	演習形式で進め、1人1台のPCを用いて分析・検討を進める。						
評価基準と評価方法	・授業毎のチャレンジ問題(10%)：授業で示した分析手法の理解度を評価。到達目標(1)および(3)に対応。 ・レポート、小テスト(30%)：データを読み取る力を評価。到達目標(2)に対応。 ・期末テスト(60%)：データの性質を読み取り、正しい手法を選択し分析する力を評価。到達目標(1)(2)(3)に対応。 ※課題に対するフィードバックは、翌週の授業において解説する。						
履修上の注意	・復習を必ずすること。 ・出席回数が全体の3分の2に満たない者は原則単位認定は行わない。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなし、遅刻3回で欠席1回とする。						
教科書	授業内容に応じて、適宜レジメと資料を配布する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	データ分析法Ⅱ／データ処理法Ⅰ							
担当教員	長谷川 誠					科目ナンバー	U23090	
学期	前期／1st semester		曜日・時限	木曜1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	質問紙調査で得られたデータの分析によく利用される多変量解析法について、基礎的な考え方とともに、各種解析法とその分析手順について学習する。特に、分散分析、重回帰分析、因子分析について詳しくとりあげる。							
授業の概要	社会学・経営学的データ分析で用いる基礎的な多変量解析について、その基本的な考え方と主要な計量モデルを解説する。使用するデータは「社会調査基礎演習Ⅰ」で得られた質問紙調査であり、統計ソフト（SPSS）を用いて、このデータで実際に多変量解析を行う。解析の方法は、重回帰分析を中心として、その後データの構造や仮説によって、分散分析や共分散分析、t検定あるいはパス解析や因子分析、数量化理論の適用など、少なくとも2・3種類の統計手法を体験させる。							
到達目標	(1)「質問紙から得られたデータを、適切な手法で分析することができるようになる」【知識・理解】 (2)「今までのデータ知識とは違う読み取り方ができるようになる」【汎用的技能】 (3)「得られたデータから現状を理解し、問題点を捉えることができるようになる」【態度・志向性】							
授業計画	第1回 ガイダンス～多変量解析とは 第2回 多変量を要約する：多変量データの種類 第3回 データセットの作成方法：SPSSの基本操作 第4回 記述統計の作成方法：SPSSによる記述統計 第5回 分散分析とは：3つ以上のグループで平均値を比較するための手法 第6回 分散分析の適用方法：一元配置の分散分析、二元配置の分散分析 第7回 分散分析を体験する：SPSSによる分散分析～中間試験 第8回 重回帰分析とは：説明変数が2つ以上の回帰分析 第9回 重回帰分析の適用方法：最小二乗法、偏回帰係数の解釈、決定係数、決定係数の有意性検定、変数選択 第10回 重回帰分析の問題点：多重共線性とその対応方法 第11回 重回帰分析を体験する：SPSSによる重回帰分析 第12回 因子分析とは：複数の観測変数の中から共通因子を抽出するための手法 第13回 因子分析の適用方法：探索的因子分析、確証的因子分析 第14回 因子分析を体験する：SPSSによる因子分析 第15回 授業のまとめと定期試験							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業前準備学習：各回授業で取り上げる内容とキーワードについて、その関係文献を図書館で見つけて、読み込むこと（学習時間：2時間） ・授業後学習：授業内で指定したテーマ・課題についてレポートを作成し、松蔭manabaコースコンテンツに提出すること（学習時間：2時間）							
授業方法	各回設定のテーマについて講義し、課題を提示する。その課題について周囲と協力しながら取り組むこと。							
評価基準と評価方法	・定期試験(30%)：第8～14回で取り上げた内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)および(3)の達成度を確認する。 ・中間試験(30%)：第1～7回で取り上げた内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)および(2)の達成度を確認する。 ・平常点(40%)：リアクションペーパー（講義内容に基づいた練習問題）と松蔭manabaコースコンテンツへの提出物で内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)～(3)の達成度を確認する。							
履修上の注意	・出席及び授業への参加度重視。 ・欠席した場合は、必ず相談すること。							
教科書	特に使用しない。適宜、プリントを配布する。							
参考書	授業中に適宜、紹介する。							

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	特別調理実習						
担当教員	長尾 綾子					科目ナンバ	U23470
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3～4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	この特別調理実習では、伝統食や季節感のある食文化および多様な世代のニーズに対応する献立作成と調理技術を修得し、将来の豊かな食生活や食文化の伝承につないでいくことをテーマとする。						
授業の概要	この特別調理実習は、家庭科教職課程の必修教科でもあるため、構成については高校の指導要領を考慮した。日常食を中心に学ぶ「調理実習」に引き続き、特別調理実習では、行事食・供応食、幼児と高齢者の食事、体調を整える食事についての調理実習を行い、調理の理論と技術を深める。具体的には、各食事の献立作成において、栄養面、嗜好性、経済性、能率性、季節性を考慮し、喫食者と食事の目的にあわせて調理をすることによって、その重要性を理解し、それぞれの調理操作やもてなし方について学ぶ。						
到達目標	(1) 季節ごとの行事食や供応食といった伝統食の特長、および食事の目的や喫食者の多様なニーズに対応した献立作成や調理の工夫について理解する。【知識・理解】 (2) 食事の目的や喫食者に応じて、調理の工夫や技術など習得したことを活用できる。【汎用的技能】 (3) 将来的には自立した豊かな食生活を営むことが出来るようになることを目指す。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 オリエンテーション、お茶と和菓子 第2回 おもてなしの松花堂弁当（春の香り） 第3回 祝膳：赤飯と尾頭付き 第4回 祝膳：端午の節句の祝膳 第5回 咀嚼・嚥下に考慮して①：離乳食 第6回 咀嚼・嚥下に考慮して②：幼児食 第7回 野菜と豆類たっぷりの精進料理 第8回 なつかしの家庭料理①：薄味でおいしい食事 第9回 なつかしの家庭料理②：揚げ物をじょうずに 第10回 なつかしの家庭料理③：食物繊維たっぷりの食事 第11回 「特別招聘講師」による調理実習 第12回 咀嚼・嚥下に考慮して③：高齢者食 第13回 咀嚼・嚥下に考慮して④：長寿を慶ぶ祝膳 第14回 パーティー料理 第15回 まとめ、ティーパーティ ※実習の内容や順番は変更することがあります。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学修：実習内容について、資料や教科書の該当箇所を予習し、概要を把握しておく。＜1時間＞ 授業後学修：実習の手順、調理の工夫や要点、使用した食材などについてレポートを作成する。＜2時間＞ ※資料の提示やレポートの提出は松蔭manabaを活用する。						
授業方法	実習：調理の説明・示範の後、安全面衛生面に注意をしながら、グループで協力をして調理や後片付けを行う。 調理中は調理による変化を観察し、仕上がった料理を試食する。 実習内容によっては、グループごとに所定の調理を行い、試食することもある。 実習後に各自でレポートを作成する。						
評価基準と評価方法	授業態度・実習への取り組み60%、提出物40% 授業態度：実習の取り組み、グループ作業への参加度、実習結果（料理の仕上がり）から、総合的に評価する。（実習の取り組みでは、特に衛生面・注意事項への対応を重視する） 到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。 提出物：【課題・レポート】課題、及び実習結果（実習のポイント、作業内容の記録、結果、考察など）について適切なレポートが作成できているかを総合的に評価する。 到達目標(2)(3)に関する到達度の確認。 フィードバックの方法：授業時および松蔭manabaにて対応する。						
履修上の注意	「調理学」および「調理実習」の単位修得者が履修できる。 実習内容を把握し、調理に適した身支度をした上で実習に臨むこと。 実習室・試食室には許可された物のみ持ち込みを可能とする。 実習後・試食後の後片付けと実習室・試食室の清掃終了までが実習時間となる。 全回出席を原則とし、出席回数が開講日の2/3に満たないものには、原則単位認定を行わない。 20分以上遅刻の場合は欠席とし、遅刻・欠席の場合は必ず連絡をすること。 提出物は、提出期限厳守。実習後の実習レポート提出をもって、実習を受講したこととする。 実習着は「調理実習」で用いたものを使用する。 実習費8,000円を徴収する。						
教科書	毎回プリントを配布する						

参考書	『たのしい調理—基礎と実習—』第5版、山内知子他著、医師薬出版、ISBN 978-4-263-70653-4 ※上記は「調理実習」の教科書 映像で学ぶ『調理の基礎とサイエンス』松崎政三・藤井恵子・寺本あい編著、学際企画、ISBN 978-4-906514-86-1 『NEW 調理と理論』第二版、山崎清子・島田キミエ・渋川祥子・下村道子・市川朝子・杉山久仁子・米田千恵・大石恭子共著、同文書院、ISBN 978-4-8103-1507-3 『これからの調理学実習』新調理研究会編、オーム社、ISEN 978-4-274-06997-0 ※上記は「調理実習」の参考書と同じ。
-----	---

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	都市生活演習A							
担当教員	青谷 実知代					科目ナンバー	U0308A	
学期	前期／1st semester		曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	①地域活性化につながるブランド・マーケティングの在り方を理解し、商品企画・開発を目指す。 ②デジタル社会の変化を捉え消費者のニーズを把握する。							
授業の概要	マーケティングにおける基礎知識や方法を実践しながら身につける。 具体的には、商品（イベントも含む）の企画・立案をするために必要な調査方法（仮説構成、様々な調査方法の特徴、調査項目の設定、調査票の作成、分析、報告書）を学び、市場の実態を具体的に捉える。 さらに、一連のプロセスを経験させ、理解したうえで、企画書を作成し、実際にプレゼンテーションを実施する。 【テーマ】 地域や企業の成り立ちから現在に至るまでのプロセスを学び「伝統・文化・事業の継承」を軸にブランドの視点から理解を深めていく。 その上で、次世代につながる新たな取り組みをするために創造性を膨らませ、商品企画に取り組む。 企画案の創出には、質的データから得られた情報の分析結果と量的データから得られた統計的分析結果との関連性・相違性を把握し、その上で、総合的なブランド・マーケティングでまとめていく。 最終的には実務家に向けプレゼンテーションが実施できるよう目指していく。							
到達目標	①商品の企画・立案の方法を学び、応用しながら実践することができる。（態度・志向性） ②マーケティングの方法論をどのように実践するのか理解することができる。（知識・理解） ③調査データを読み取り、商品につなげ工夫することができる。（汎用的技能）							
授業計画	第1回. 演習で取り上げるテーマと取り組み方法 第2回. マーケティングを実践することの意義 第3回. 調査目的の明確化①（フィールドワークを実施する） 第4回. 調査目的の明確化②（フィールドワークを実施する） 第5回. 調査枠組みの検討①【PC必携】 第6回. 調査枠組みの検討②【PC必携】 第7回. 質的調査を行うための仮説設定【PC必携】 第8回. 量的調査を行うための仮説設定【PC必携】 第9回. 調査票の素案作りとその方法【PC必携】 第10回. 調査票の作成・完成とプレテスト【PC必携】 第11回. インタビュー調査実施（テーブル越し）【PC必携】 第12回. アンケート調査の実施（学内・学外にて）【PC必携】 第13回. 調査収集とまとめ【PC必携】 第14回. 調査結果についてのプレゼンテーション【PC必携】 第15回. 調査結果についてのプレゼンテーション【PC必携】							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	【授業前】課題設定を行うためにも人・モノ・情報・環境、全てにおいて常に変化していることの観察力を磨き、まとめておくこと（学習時間：2時間） 【授業後】議論やディスカッションを通して、課題について考え（アイデア）、まとめる（レポート作成も含める）（学習時間：2時間）							
授業方法	演習形式（BYOD対象科目） ・課題解決型学修 ・反転授業 ・ディスカッション、ディベート ・グループワーク ・プレゼンテーション ・フィールドワーク							
評価基準と評価方法	企画力（アイデア出し）のまとめかた（20%） グループディスカッション（20%） レポート（30%）、プレゼン発表などによる総合評価（30%）							
履修上の注意	①グループ作業をするので各自責任を持って挑んでください。 ②授業への積極的な参加が重要。 ③データ収集や現場視察のため学外実習もある。入場料や交通費などは実費負担となる。 ④好奇心旺盛に楽しむことが必要！ ⑤固定観念を持たないで前に進みましょう。 アクティブラーニング（ディスカッション、グループワークなど）を積極的に取り入れる。							
教科書	なし（必要に応じて資料を配布する）							

参考書	陶山計介・室博・小菅謙一・羽藤雅彦・青谷実知代編著、『地域創成と観光』千倉書房、2022年、ISBN978-4-8051-1273-1
-----	---

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活演習A						
担当教員	今井 佐知子					科目ナンバ	U0308A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	企業と業界に関する理解を深める。						
授業の概要	製薬業界を事例として、ビジネスモデルの調査方法を学習し、各自の関心に沿った事例研究を行います。						
到達目標	業界・企業のビジネスモデルを調査し、理解することができる【知識・理解】 調査内容をわかりやすく説明できる【態度・志向性】 習得した調査方法を異なる事例に応用できる。【汎用的技能】						
授業計画	毎回PCを必帯 第1回 薬ができるまで [PC必帯] 第2回 ゴミ箱モデル [PC必帯] 第3回 デシジョンツリー分析 [PC必帯] 第4回 製品ライフサイクル [PC必帯] 第5回 ビジネスモデル [PC必帯] 第6回 製薬事例研究 ①情報収集 [PC必帯] 第7回 製薬事例研究 ②情報分析 [PC必帯] 第8回 製薬事例研究 ③資料作成 [PC必帯] 第9回 製薬事例研究 ④発表準備 [PC必帯] 第10回 事例研究の結果発表 [PC必帯] 第11回 個人研究 ①課題設定のための情報収集 [PC必帯] 第12回 個人研究 ②情報収集と分析 [PC必帯] 第13回 個人研究 ③資料作成 [PC必帯] 第14回 個人研究 ④プレゼン発表準備 [PC必帯] 第15回 個人研究の結果発表 [PC必帯]						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	毎回の予習：事例研究のための情報収集とまとめ＜2時間＞。 研究発表の前には、完成度を高めるために追加準備を各自で行う。 毎回の復習：事例について深く理解し、他の企業と比較してみる＜2時間＞。						
授業方法	講義形式<BYD0対象科目> 受講者間のディスカッション、ディベート、グループワーク。 プレゼンテーション。						
評価基準と評価方法	授業・グループワークへの積極的参加（40%） 事例研究（30%）知識・理解の到達度を確認。 個人研究（30%）態度・志向性、汎用性の到達度を確認。						
履修上の注意	講義全体の3分の2の出席が確保できない場合、受講資格を失う。 学外学習に伴う交通費、入場料などは自己負担となる。						
教科書	随時紹介する。						
参考書	随時紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活演習A						
担当教員	川口 真規子					科目ナンバー	U0308A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	食を通じて地域の活性化に貢献することができる新しい商品の提案や食品素材の提案を行う。 また、このテーマを遂行するためのプレゼンテーション技術や論理的な思考に基づいた提案方法を修得する。						
授業の概要	本演習は、4年次の卒業研究を行うために必要となる基本的な知識の習得および研究法の習得を目的としている。 原則的には個別指導とし、研究の内容によって調査、試作（調理）、実験をグループで行う。 成果は授業終了時に発表し、演習の仕上げとする。						
到達目標	1) 次年度の卒業研究に必要な種々の調査方法について理解する。【知識・理解】 2) 新商品提案などに必要とされる試作、実験の方法などの知識と技術を基礎から積み上げ、修得する。 【知識・理解】【汎用的技術】 3) 成果をレポートにまとめ、さらに効果的なプレゼンテーションができる。【汎用的技術】 4) 自身の持つ興味・関心を具体的な研究テーマに反映することができる【態度・志向性】						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 効率的な研究計画の立て方 第3回 文献の調査方法 《PC必携》 第4回 学術論文の読み方 《PC必携》 第5回 研究テーマを決める 《PC必携》 第6回 研究に必要な手法を探る 《PC必携》 第7回 研究計画を立てる 《PC必携》 第8回 各自の研究について 個別指導 第9回 各自の研究について 個別指導 第10回 各自の研究について 個別指導 第11回 各自の研究について 個別指導 第12回 各自の研究について 個別指導 第13回 各自の研究について 個別指導 第14回 各自の研究について 中間報告会 第15回 後期研究打ち合わせ 《PC必携》						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	演習科目のため、原則として授業時間内にデータ整理、考察などのすべての学習を行う。 ただし、中間報告会（プレゼンテーション）のための準備（資料収集・レジュメ作成）は授業外に行う。（学習時間：4時間）						
授業方法	講義、演習、実習、実験 企業や地域との連携事業を授業内容に取り入れる場合がある。その際はフィールドワークを行う可能性がある。 《BYOD科目》						
評価基準と評価方法	授業態度（30％）：到達目標2）4）の達成度の確認。 プレゼンテーション（70％）：到達目標1）2）3）4）の達成度の確認。						
履修上の注意	研究テーマによってはフィールドワークなどで授業外の時間を使う場合がある。 フィールドワークに係る交通費は実費負担となる。 試作・実験時は2コマ続きの変則的な授業時間になる可能性もある。						
教科書	なし						
参考書	授業時に適宜紹介する						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活演習A						
担当教員	鳥居 さくら					科目ナンバー	U0308A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学研究法の習得						
授業の概要	都市生活演習Aは、4年次に都市生活に関する領域の中から学生が関心をもつ領域で卒業研究を行うために必要となる基本的な知識の習得および研究法の習得を目的としている。先行研究からテーマ設定する方法、研究方法の選択、得られたデータをまとめる方法などを学びながら実際に学生自ら実施し、レポートにまとめ、発表する。それらの過程を通して、自分で都市生活に関わるテーマに関する研究の計画を立て実行できる基礎的な能力を身につけることが期待される。 心理学実験の心理学研究法に関する演習であり、心理学に関する研究法の基礎知識の習得を目的とする。						
到達目標	1. グループで実験を立案し、計画的に進めていくことができる。[態度・志向性] 2. 先行研究からテーマを考え、データを図表にまとめ、統計処理をおこない、レポートにまとめたり発表することができる。[汎用的技能][態度・志向性]						
授業計画	1. ガイダンス [PC必携] 2. レポートの書き方 [PC必携] 3. 文献検索の仕方 [PC必携] 4. 研究における留意点 [PC必携] 5. テーマの設定 [PC必携] 6. 実験計画法(1)-解説- [PC必携] 7. 実験計画法(2)-実施- [PC必携] 8. 心理学実験法(1)-解説- [PC必携] 9. 心理学実験法(2)-実施- [PC必携] 10. 実験の実施 [PC必携] 11. データ処理(1)-解説- [PC必携] 12. データ処理(2)-実施- [PC必携] 13. 統計(1)-解説- [PC必携] 14. 統計(2)-実施- [PC必携] 15. まとめ [PC必携]						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：文献講読、実験や発表の準備をおこなう。（学習時間：2<時間>） 授業後学習：授業時間で仕上がらなかった実験のまとめや、レポートを作成する。（学習時間：2<時間>）						
授業方法	実習・演習形式でおこなう。 授業は一連の研究の流れに沿って進める。先行研究からテーマ設定する方法、実験計画法、実際に実験もしくは調査を行う際の心理学実験法、得られたデータ処理に関する統計処理法を教員が解説した後に、学生がグループでその手続きに則って実施し、レポートにまとめ、発表し、それに対しさらに教員が解説を加え定着を図る。 manabaを利用し小テストやアンケートなどにデータ入力をおこなう授業回もある。<BYOD対象科目>						
評価基準と評価方法	実習への取り組みの態度(40%)：グループ活動における積極性、協調性を評価する。到達目標1に関する到達度の確認。 レポート(60%)：図表の適切さ、統計処理の適切さを、考察の論理性を評価する。到達目標2に関する到達度の確認。松蔭manabaに提出された課題は松蔭manabaでフィードバックする。						
履修上の注意	毎回出席することが原則である。都合により欠席する場合は、教員に事前に連絡し、次回までに補っておくようにする。 必要な資料やデータの収集のため、学外で授業を行う場合があるので、入場料、交通費などの実費負担がある。						
教科書	なし。適宜、資料をmanabaに添付する。						
参考書	「心理学マニュアル 要因計画法」 北大路書房 ISBN: 978-4762821967 「心理学マニュアル 質問紙法」 北大路書房 ISBN: 978-4762821097						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活演習A						
担当教員	花田 美和子					科目ナンバー	U0308A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	都市生活での学び（主に衣生活学系の科目および色彩学）を応用し、地域貢献に結びつける。 地域連携の活動を通して地域社会から学ぶ。						
授業の概要	兵庫・神戸の農業生産者等との共同プロジェクトとして、花卉、野菜などの農産物を使った企画を実施する。 兵庫・神戸の地域協働課との地域連携活動を実施する。 兵庫・神戸の農業生産者との共同プロジェクトとして、神戸産のビオラ苗を使った大学構内の色彩計画を進める。 地域連携の発表の場として松蔭祭でブース展示の計画を立てる。						
到達目標	プロジェクトの中で役割を果たしながら、得意なことを生かし、不得意なことにも向き合えるようになる。【態度・指向性】 都市生活専修でこれまでに学んだ専門知識を再確認し、応用できるようになる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回：ガイダンス、ビオラを使ったアクセサリー製作 第2回：野菜アクセサリー”ヘタに真珠”①試作 第3回：野菜アクセサリー”ヘタに真珠”②試作 第4回：Web用写真撮影ワークショップ(ゲストスピーカー) 第5回：野菜アクセサリー”ヘタに真珠”①商品の製作 第6回：野菜アクセサリー”ヘタに真珠”②商品の製作とプロモーション画像の撮影 第7回：西脇市との共同プロジェクト説明 第8回：西脇市との共同プロジェクト①、オオキンケイギクによる染色の試作 第9回：西脇市との共同プロジェクト②、イベントの準備 第10回：西脇市との共同プロジェクト③、イベントの実施 第11回：松蔭ビオラプロジェクトコンペの準備 [PC必携] 第12回：松蔭ビオラプロジェクトコンペの集計 [PC必携] 第13回：松蔭ビオラプロジェクトコンペ、結果発表、ビオラ発注 [PC必携] 第14回：松蔭祭でのブース展示の企画 [PC必携] 第15回：まとめ、最終課題						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	企画案作成と試作品と商品の製作（2時間） 学外研修（時期はプロジェクトの進捗状況等による）や時間外の活動など、授業時間外（土日）の学習（2時間）						
授業方法	演習、実験、実習、学外研修、ゲストスピーカーによるワークショップ BYOD対象科目						
評価基準と評価方法	平常点80%、課題20% 平常点はプロジェクト等への取り組みを総合的に評価する。						
履修上の注意	1. 授業時間外の活動にも可能な限り参加すること。 2. 学外研修は交通費等自己負担あり。 3. 授業全般にわたってPCの携行を推奨する。 4. 地域連携のスケジュールによってシラバスの内容を変更することがある。						
教科書	なし						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活演習B						
担当教員	青谷 実知代					科目ナンバー	U0308B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	①マーケティングの考え方を地域経営に応用し、ブランド力を高める商品企画・開発を目指す。 ②社会の変化を捉え消費者のニーズを把握する。						
授業の概要	都市生活演習Aで身につけた基礎的なマーケティング知識を応用し、よりハイレベルな商品企画・立案を目指す。 そのために、他大学も参画するプロジェクトに参加しながら、調査分析を応用し、社会でも通用する企画・立案（プレゼンテーションも含む）について学ぶ解する 【テーマ】 他府県の抱える課題について取り組み、解決策を導く。（万博を考慮した取り組み） 前期と同様に、質的データから得られた情報の分析結果と量的データから得られた統計的分析結果との関連性・相違性を把握し、その上で自らの企画を提案する。その提案には、行政をはじめ関連業界の担当者や実務家の前で実践することを目指す。						
到達目標	①商品の企画・立案の方法を学び、より具体的に実践することができる。（態度・志向性） ②マーケティングの方法論をどのように実践するのか理解することができる。（知識・理解） ③調査データを読み取り、具体的な商品につなげることができる。（汎用的技能）						
授業計画	第1回. アイデア創出方法【PC必携】 第2回. グループディスカッションでアイデアをまとめる【PC必携】 第3回. 商品開発の企画・立案の方法①（制作）【PC必携】 第4回. 商品開発の企画・立案の方法②（プレゼン）【PC必携】 第5回. マーケティングの企画書作成（マーケティングの理論展開）【PC必携】 第6回. 調査実施①（フィールドワーク）：アイデアのまとめ方【PC必携】 第7回. 調査実施②（フィールドワーク）：アイデアと理論展開の関係性【PC必携】 第8回. 調査分析（データ入力と集計、分析）①【PC必携】 第9回. 調査分析（データ入力と集計、分析）②【PC必携】 第10回. 中間プレゼンテーション①【PC必携】 第11回. 中間プレゼンテーション②【PC必携】 第12回. 企画書作成【PC必携】 第13回. プレゼン準備と最終確認【PC必携】 第14回. 最終プレゼン発表①【PC必携】 第15回. 最終プレゼン発表②【PC必携】 ※夏期休暇中に実践的な研修を行う（カレッジに参加）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	【授業前】課題設定をしっかりと行うために、人・モノ・情報・環境、全てにおいて常に変化していることの観察力を磨いておくこと。またプレゼンテーションの知識を身につけていくために練習をし、レポートにしてまとめること（学習時間：2時間） 【授業後】ディスカッションを通して、分析や調査方法などを考え、アイデアをまとめていく（学習時間：2時間） ※夏季休暇中にフィールドワークがあります（地域プロジェクトに参加予定）						
授業方法	演習形式（BYOD対象科目） ・課題解決型学修 ・反転授業 ・ディスカッション、ディベート ・グループワーク ・プレゼンテーション ・フィールドワークを取り入れる。						
評価基準と評価方法	企画力（アイデア出し）（20%）、グループディスカッション（20%）、レポート（30%）、プレゼン発表などによる総合評価（30%）						
履修上の注意	①グループ作業をするので各自責任を持って挑んでください。 ②授業への積極的な参加が重要。 ③データ収集や現場視察のため学外実習もある。入場料や交通費などは自己負担となる。 ④好奇心旺盛に楽しむことが必要！ ⑤固定観念を持たないで前に進みましょう。 アクティブラーニングを積極的に取り入れる。 ⑦学外実習に伴う交通費や入館料、参加費等は自己負担となる。						
教科書	なし（必要に応じて資料を配布する）						

参考書	陶山計介・室博・小菅謙一・羽藤雅彦・青谷実知代編著『地域創生と観光』千倉書房、2022年、ISBN978-4-8051-1273-1
-----	--

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活演習B						
担当教員	今井 佐知子					科目ナンバー	U0308B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	問題意識に適した研究方法の学習。						
授業の概要	受講者各自の経営学上の問題意識を明確にし、その解決に資する研究レポートを作成する。						
到達目標	研究レポート作成のプロセスが適用できる【知識・理解】 研究レポートが作成できる【汎用的技能】 研究レポートの内容をわかりやすく説明できる【態度・志向性】						
授業計画	毎回PCを必帯 第1回 問題意識の明確化 [PC必帯] 第2回 先行研究の調査 [PC必帯] 第3回 定性的方法 ①基礎 [PC必帯] 第4回 定性的方法 ②応用 [PC必帯] 第5回 定量的方法 ①基礎 [PC必帯] 第6回 定量的方法 ②応用 [PC必帯] 第7回 個人研究：テーマ設定 [PC必帯] 第8回 個人研究：先行研究の調査 [PC必帯] 第9回 個人研究：調査方針（定性・定量） [PC必帯] 第10回 個人研究：①定性 [PC必帯] 第11回 個人研究：②定量 [PC必帯] 第12回 個人研究：③調査データのまとめ [PC必帯] 第13回 個人研究：発表準備 [PC必帯] 第14回 結果発表 [PC必帯] 第15回 結果発表と総括 [PC必帯]						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	毎回の予習：資料収集と、その読み込み＜2時間＞。 研究発表の前には、完成度を高めるために追加準備を各自で行う。 毎回の復習：課題提出の準備＜2時間＞。						
授業方法	講義形式<BYD0対象科目> 受講者間のディスカッション、ディベート。 プレゼンテーション。						
評価基準と評価方法	課題への積極的取り組み (30%) 調査の実施 (30%) 知識・理解の到達度を確認。 研究結果の提出物と発表 (40%) 態度・志向性、汎用性の到達度を確認。						
履修上の注意	講義全体の3分の2の出席が確保できない場合、受講資格を失う。 学外学習に伴う交通費、入場料などは自己負担となる。						
教科書	随時紹介する。						
参考書	白井利明・高橋一郎（2013）『よくわかる卒論の書き方』 第2版（ミネルヴァ書房）、ISBN：9784623065721						

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	都市生活演習B							
担当教員	川口 真規子					科目ナンバー	U0308B	
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	食を通じて地域の活性化に貢献することができる新しい商品の提案や食品素材の提案を行う。 またこのテーマを遂行するためのプレゼンテーション技術や論理的な思考に基づいた提案方法を修得する。							
授業の概要	本演習は、都市生活演習Aでの成果をもとに、さらに複雑な調査や実験を実施することが可能になるような知識と技術の習得を目的としている。 これにより、4年次の卒業研究を行うために必要となる知識の習得および研究法の習得を目指す。原則的には各自で設定したテーマを個別指導するが、研究の内容によっては調査、試作（調理）、実験をグループで行う。							
到達目標	1）次年度の卒業研究に必要な種々の調査方法について適切に選択できる。【知識・理解】 2）試作、実験の方法などの知識と技術を基礎から積み上げ、修得する。【知識・理解】 3）成果をまとめ、効果的なプレゼンテーションができる。【汎用的技能】 4）食に関わる事柄について興味・関心を持ち、自身の研究テーマを設定できる。【態度・志向性】							
授業計画	第1回 各自の研究について 個別指導 第2回 各自の研究について 個別指導 第3回 各自の研究について 個別指導 第4回 各自の研究について 個別指導 第5回 各自の研究について 個別指導 第6回 各自の研究について 個別指導 第7回 各自の研究について 個別指導 第8回 研究のまとめ方について 第9回 報告会 準備 《PC必携》 第10回 報告会 準備 《PC必携》 第11回 報告会 準備 《PC必携》 第12回 報告会 準備 《PC必携》 第13回 報告会 準備 《PC必携》 第14回 報告発表会 第15回 まとめ 次年度卒業研究にむけて							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	演習科目のため、原則として授業時間内にデータ整理、考察などのすべての学習を行う。 ただし、報告会（プレゼンテーション）のための準備（資料収集・レジュメ作成）は授業外に行う。（学習時間：4時間）							
授業方法	講義、演習、実習、実験 実験・実習に関しては曜日・時限を変更して2コマ連続で実施する場合がある。 企業や地域との連携事業を授業内容に取り入れる場合がある。その際はフィールドワークを行う可能性がある。 《BYOD科目》							
評価基準と評価方法	授業態度（70%）：積極性、協調性などで評価する。到達目標2）、4）の確認。 プレゼンテーション（30%）：報告会の準備・プレゼンテーション及び質疑応答の的確さについて総合的に評価する。到達目標1）3）4）の確認。							
履修上の注意	研究テーマによってはフィールドワークなど、授業外の時間も使う場合がある。 フィールドワークに係る交通費は実費負担となる。							
教科書	なし							
参考書	授業中に適宜紹介する。							

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	都市生活演習B							
担当教員	鳥居 さくら					科目ナンバー	U0308B	
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	火曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学研究法の習得							
授業の概要	都市生活演習Bは、都市生活演習Aの成果をもとに、さらに都市生活に関する複雑な調査や実験を実施することが可能になるよう、規模を拡大しレベルアップした研究法を習得し、実行力を身につけることを目的としている。規模の拡大に伴い、複数の学生で協力して実行していく場合もある。それらの過程を通して、最終的には自分で都市生活に関わるテーマに関する研究の計画を立て実行でき、発展させることのできる能力を身につけることが期待される。 心理学調査の心理学研究法に関する演習であり、心理学に関する研究法の基礎知識の習得を目的とする。							
到達目標	1. グループで調査を立案し、計画的に進めていくことができる。[態度・志向性] 2. 先行研究からテーマを考え、データを図表にまとめ、統計処理をおこない、レポートにまとめたり発表することができる。[汎用的技能][態度・志向性]							
授業計画	1. ガイダンス [PC必携] 2. 実験計画法(1)-解説- [PC必携] 3. 実験計画法(2)-実施- [PC必携] 4. 心理学調査法(1)-評価対象について- [PC必携] 5. 心理学調査法(2)-評価項目について- [PC必携] 6. 心理学調査法(3)-評価用紙の作成- [PC必携] 7. 調査(1)-準備- [PC必携] 8. 調査(2)-実施- [PC必携] 9. データ処理(1)-解説- [PC必携] 10. データ処理(2)-逆転項目の処理- [PC必携] 11. 統計(1)-記述統計の方法- [PC必携] 12. 統計(2)-推測統計の方法- [PC必携] 13. 統計(3)-多変量解析の方法- [PC必携] 14. 報告 [PC必携] 15. まとめ [PC必携]							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：文献講読、調査や発表の準備をおこなう。（学習時間：2<時間>） 授業後学習：授業時間で仕上がらなかった実験のまとめや、レポートを作成する。（学習時間：2<時間>）							
授業方法	実習・演習形式でおこなう。 授業は一連の研究の流れに沿って進める。先行研究からテーマ設定する方法、実験計画法、実際に実験もしくは調査を行う際の心理学実験法、得られたデータ処理に関する統計処理法を教員が解説した後に、学生がグループでその手続きに則って実施し、レポートにまとめ、発表し、それに対しさらに教員が解説を加え定着を図る。 manabaを利用し小テストやアンケートなどにデータ入力をおこなう授業回もある。<BYOD対象科目>							
評価基準と評価方法	実習への取り組みの態度(40%)：グループ活動における積極性、協調性を評価する。到達目標1に関する到達度の確認。 レポート(60%)：図表の適切さ、統計処理の適切さを、考察の論理性を評価する。到達目標2に関する到達度の確認。 松蔭manabaに提出された課題は松蔭manabaでフィードバックする。							
履修上の注意	毎回出席することが原則である。都合により欠席する場合は、教員に事前に連絡し、次回までに補っておくようにする。 必要な資料やデータの収集のため、学外で授業を行う場合があるので、入場料、交通費などの実費負担がある。							
教科書	なし。適宜、資料をmanabaに添付する。							
参考書	「心理学マニュアル 要因計画法」 北大路書房 ISBN: 978-4762821967 「心理学マニュアル 質問紙法」 北大路書房 ISBN: 978-4762821097							

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活演習B						
担当教員	花田 美和子					科目ナンバー	U0308B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	都市生活での学び（主に衣生活学系の科目および色彩学）を生かした地域連携活動の実施						
授業の概要	神戸市灘区の地域連携イベントでワークショップを担当する。 兵庫・神戸の農業生産者との共同プロジェクトとして、神戸産のビオラ苗を使った大学構内の色彩計画の実施とプロモーション活動をおこなう。 地域連携の発表の場として松蔭祭でブース展示をおこなうとともに、服のリユース交換会を実施する。 卒業研究のテーマ設定に関する課題に取り組む。						
到達目標	都市生活専修で学んだ専門知識を応用して、地域連携活動を計画することができる。【汎用的技能】 地域連携活動やワークショップを通して、実践的態度を養い新たな視点を得る【態度・指向性】 卒業研究のテーマ設定に向けて文献調査等を行い、方向性を定める【態度・指向性】						
授業計画	第1回：神戸市灘区のイベント準備（ネイチャークラフト） 第2回：松蔭祭準備 服のリユース、ヘタに真珠、その他① 第3回：松蔭祭準備 服のリユース、ヘタに真珠、その他② 第4回：松蔭祭準備 服のリユース、ヘタに真珠、その他③ 第5回：松蔭祭準備 服のリユース、ヘタに真珠、その他④ 第6回：松蔭祭、ブース展示の準備① [PC必携] 第7回：松蔭祭、ブース展示の準備② [PC必携] 第8回：松蔭ビオラプロジェクト、プロモーション活動 第9回：松蔭祭ふりかえり 第10回：服のリユース、まとめ① [PC必携] 第11回：服のリユース、まとめ② [PC必携] 第12回：ゲストスピーカーによる寄せ植え講座 第13回：花のある暮らし、SNSによる情報発信 第14回：卒業研究に向けてのディスカッション① [PC必携] 第15回：卒業研究に向けてのディスカッション② [PC必携]						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	企画案作成と試作品と商品の製作（2時間） 学外研修（時期はプロジェクトの進捗状況等による）や時間外の活動など、授業時間外（土日）の学習（2時間）						
授業方法	演習、実験、実習、学外研修、ゲストスピーカーによるワークショップ BYOD対象科目						
評価基準と評価方法	平常点：80点、課題：20点 平常点はプロジェクト等への参加度、課題への取り組み等を総合的に評価する。						
履修上の注意	1. 授業時間外の活動にも可能な限り参加すること。 2. 交通費等自己負担あり。 3. 授業全般にわたってPCの携行を推奨する。 4. 地域連携のスケジュールによってシラバスの内容を変更することがある。						
教科書	なし						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活プロジェクト演習A						
担当教員	青谷 実知代					科目ナンバー	U0207A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	都市生活プロジェクト演習Aの目的は、自己分析を行い、3年次演習が設定しているテーマがどのような役割を果たすかを念頭に置いて、将来の進路に基づいた学習計画を立てるとともに、個々の研究テーマにそくした基本的な技法、論文、レポート、実験ノートの作成手法を身につけることにある。						
授業の概要	前半は自己分析を行い、現在の自分の力を認識し、将来の進路に基づきどのような力をつけるべきかについて計画を立てる。その計画において3年次演習が設定しているテーマがどのような役割を果たすか分析する。あわせて個々の研究テーマにそくした研究の基本的な技法の習得を目指し、文章理解力、文章作成能力、資料解釈力、数理的基礎力など基礎的な力を獲得する。後半はグループ討議・発表、個別調査などの授業形式を用いつつ、専門分野のレポート・実験ノート、論文作成の手法を身につける。						
到達目標	(1)「個々の研究テーマにそくした基本的な技法を習得することができる」【知識・理解】 (2)「論文、レポート、実験ノートの作成手法を身につけることができる」【汎用的技能】 (3)「自己分析を行い、3年次演習が設定しているテーマがどのような役割を果たすかを念頭に置いて、将来の進路に基づいた学習計画を立てることができる」【態度・志向性】						
授業計画	第1回 ガイダンス【PC必携】 第2回 自己紹介1:1stグループ【PC必携】 第3回 自己紹介2:2ndグループ【PC必携】 第4回 研究手法1:テーマと問題意識の設定、先行研究のサーベイ【PC必携】 第5回 研究手法2:コピペと引用、参考文献の挙げ方【PC必携】 第6回 研究手法3:事実確認と論理的解釈【PC必携】 第7回 Excelによる図表作成1:データの種類の収集方法【PC必携】 第8回 Excelによる図表作成2:既存のデータによる図表の作成【PC必携】 第9回 Excelによる図表作成3:テーマに関連するデータによる図表の作成【PC必携】 第10回 定性的調査の方法【PC必携】 第11回 定性的調査の実践【PC必携】 第12回 学外研修・視察 第13回 学外研修・視察 第14回 プロジェクトの決定:1stグループ【PC必携】 第15回 プロジェクトの決定:2ndグループ【PC必携】						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業前準備学習:研究テーマに関係する文献資料を図書館、論文検索システム、web検索で見つけて、読み込むこと(学習時間:2時間) ・授業後学習:研究テーマの内容をグループでディスカッションすること(学習時間:2時間)						
授業方法	演習:各回のテーマに即した課題にPCを使いながら、グループワークまたは個人ワークによって取り組むこと。〈BYOD対象科目〉						
評価基準と評価方法	・授業中の課題(40%):授業中に出した課題を通じて内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)および(2)の達成度を確認する。 ・プロジェクトの成果発表(60%):発表内容を評価するとともに、到達目標(1)および(3)の達成度を確認する。						
履修上の注意	・出席及び授業への参加度重視。原則として欠席は認めない。 ・欠席した場合は、必ず担当者に相談すること。20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・必要な資料やデータの収集のため、学外でフィールドワークを行うことがある。それにかかる入場料や交通費などは実費負担。						
教科書	特に使用しない。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	都市生活プロジェクト演習A							
担当教員	富田 因則					科目ナンバー	U0207A	
学期	前期／1st semester		曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	都市生活プロジェクト演習Aの目的は、自己分析を行い、3年次演習が設定しているテーマがどのような役割を果たすかを念頭に置いて、将来の進路に基づいた学習計画を立てるとともに、個々の研究テーマにそくした基本的な技法、論文、レポート、実験ノートの作成手法を身につけることにある。							
授業の概要	前半は自己分析を行い、現在の自分の力を認識し、将来の進路に基づきどのような力をつけるべきかについて計画を立てる。その計画において3年次演習が設定しているテーマがどのような役割を果たすか分析する。あわせて個々の研究テーマにそくした研究の基本的な技法の習得を目指し、文章理解力、文章作成能力、資料解釈力、数理的基礎力など基礎的な力を獲得する。後半はグループ討議・発表、個別調査などの授業形式を用いつつ、専門分野のレポート・実験ノート、論文作成の手法を身につける。							
到達目標	(1)「個々の研究テーマにそくした基本的な技法を習得することができる」【知識・理解】 (2)「論文、レポート、実験ノートの作成手法を身につけることができる」【汎用的技能】 (3)「自己分析を行い、3年次演習が設定しているテーマがどのような役割を果たすかを念頭に置いて、将来の進路に基づいた学習計画を立てることができる」【態度・志向性】							
授業計画	第1回 ガイダンス〔PC必携〕 第2回 自己紹介1:1stグループ〔PC必携〕 第3回 自己紹介2:2ndグループ〔PC必携〕 第4回 研究手法1:テーマと問題意識の設定、先行研究のサーベイ〔PC必携〕 第5回 研究手法2:コピペと引用、参考文献の挙げ方〔PC必携〕 第6回 研究手法3:事実確認と論理的解釈〔PC必携〕 第7回 Excelによる図表作成1:データの種類の収集方法〔PC必携〕 第8回 Excelによる図表作成2:既存のデータによる図表の作成〔PC必携〕 第9回 Excelによる図表作成3:テーマに関連するデータによる図表の作成〔PC必携〕 第11回 パワーポイントの使い方〔PC必携〕 第10回 定性的調査の方法〔PC必携〕 第11回 定性的調査の実践〔PC必携〕 第12回 学外研修・視察 第13回 学外研修・視察 第14回 プロジェクトの決定:1stグループ〔PC必携〕 第15回 プロジェクトの決定:2ndグループ〔PC必携〕							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業前準備学習:研究テーマに関係する文献資料を図書館、論文検索システム、web検索で見つけて、読み込むこと(学習時間:2時間) ・授業後学習:研究テーマの内容をグループでディスカッションすること(学習時間:2時間)							
授業方法	演習:各回のテーマに即した課題にPCを使いながら、グループワークまたは個人ワークによって取り組むこと。〈BYOD対象科目〉							
評価基準と評価方法	・授業中の課題(40%):授業中に出した課題を通じて内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)および(2)の達成度を確認する。 ・プロジェクトの成果発表(60%):発表内容を評価するとともに、到達目標(1)および(3)の達成度を確認する。							
履修上の注意	・出席及び授業への参加度重視。原則として欠席は認めない。 ・欠席した場合は、必ず担当者に相談すること。20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・必要な資料やデータの収集のため、学外でフィールドワークを行うことがある。それにかかる入場料や交通費 などは実費負担。							
教科書	特に使用しない。							
参考書	授業中に適宜、紹介する。							

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	都市生活プロジェクト演習B							
担当教員	青谷 実知代					科目ナンバー	U0207B	
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	都市生活プロジェクト演習Bの目的は、都市生活プロジェクト演習Aで習得した基本的な力を土台として、プロジェクトをデザインする力を身につけるとともに、問題解決能力を高め、3年次演習で取り組むべき具体的な課題を発見することにある。							
授業の概要	都市生活プロジェクト演習Aで習得した基本的な力を土台として、さらにプロジェクトをデザインする力を身につける。3年次の演習の内容を紹介しつつ、たとえば、ゲストスピーカーを招いたり、現地調査（フィールドワーク）を組み入れたりするなど、問題解決能力を高める授業を展開する。問題の発見、問題の明確化、情報の収集、アイデアの創出、アイデアの評定、解決策の提示といった過程において、3年次の演習で取り組むべき具体的な課題を、受講生ひとりひとりが主体的に発見し定めていくことになる。							
到達目標	(1)「プロジェクトをデザインする力を身につけることができる」【知識・理解】 (2)「問題解決能力を高めることができる」【汎用的技能】 (3)「3年次演習で取り組むべき具体的な課題を見つけ出すことができる」【態度・志向性】							
授業計画	第1回 ガイダンス【PC必携】 第2回 夏休みの課題報告1:1stグループ【PC必携】 第3回 夏休みの課題報告2:2ndグループ【PC必携】 第4回 プロジェクトの中間発表準備1:データの収集【PC必携】 第5回 プロジェクトの中間発表準備2:EXCELによる図表の作成【PC必携】 第6回 プロジェクトの中間発表準備3:PPTによるスライドの作成【PC必携】 第7回 プロジェクトの中間発表1:1stグループ【PC必携】 第8回 プロジェクトの中間発表2:2ndグループ【PC必携】 第9回 プロジェクトの最終発表準備1:中間報告のフィードバック【PC必携】 第10回 プロジェクトの最終発表準備2:追加調査【PC必携】 第11回 プロジェクトの最終発表準備3:図表の修正【PC必携】 第12回 プロジェクトの最終発表準備3:スライドの修正【PC必携】 第13回 プロジェクトの最終発表1:1stグループ【PC必携】 第14回 プロジェクトの最終発表2:2ndグループ【PC必携】 第15回 学びの総括と3年次以降の学び【PC必携】							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業前準備学習:研究テーマに関係する文献資料を図書館、論文検索システム、web検索で見つけて、読み込むこと(学習時間:2時間)・授業後学習:研究テーマの内容をグループでディスカッションすること(学習時間:2時間)							
授業方法	演習:グループワークあるいは実習・フィールドワークによって、各プロジェクトチームがそれぞれ設定したテーマに取り組み、その成果発表(プレゼンテーション)を行う。<BYOD対象科目>							
評価基準と評価方法	・授業中の課題(40%):授業中に出了課題を通じて内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)および(2)の達成度を確認する。・プロジェクトの成果発表(60%):発表内容を評価するとともに、到達目標(1)および(3)の達成度を確認する。							
履修上の注意	・出席及び授業への参加度重視。原則として欠席は認めない。・欠席した場合は、必ず担当者に相談すること。20分以上の遅刻は欠席とみなす。・必要な資料やデータの収集のため、学外でフィールドワークを行うことがある。それにかかる入場料や交通費 などは実費負担。							
教科書	特に使用しない。							
参考書	授業中に適宜、紹介する。							

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活プロジェクト演習B						
担当教員	富田 因則					科目ナンバー	U0207B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	都市生活プロジェクト演習Bの目的は、都市生活プロジェクト演習Aで習得した基本的な力を土台として、プロジェクトをデザインする力を身につけるとともに、問題解決能力を高め、3年次演習で取り組むべき具体的な課題を発見することにある。						
授業の概要	都市生活プロジェクト演習Aで習得した基本的な力を土台として、さらにプロジェクトをデザインする力を身につける。3年次の演習の内容を紹介しつつ、たとえば、ゲストスピーカーを招いたり、現地調査（フィールドワーク）を組み入れたりするなど、問題解決能力を高める授業を展開する。問題の発見、問題の明確化、情報の収集、アイデアの創出、アイデアの評定、解決策の提示といった過程において、3年次の演習で取り組むべき具体的な課題を、受講生ひとりひとりが主体的に発見し決めていくことになる。						
到達目標	(1)「プロジェクトをデザインする力を身につけることができる」【知識・理解】 (2)「問題解決能力を高めることができる」【汎用的技能】 (3)「3年次演習で取り組むべき具体的な課題を見つけ出すことができる」【態度・志向性】						
授業計画	第1回 ガイダンス〔PC必携〕 第2回 夏休みの課題報告1:1stグループ〔PC必携〕 第3回 夏休みの課題報告2:2ndグループ〔PC必携〕 第4回 プロジェクトの中間発表準備1:データの収集〔PC必携〕 第5回 プロジェクトの中間発表準備2:EXCELによる図表の作成〔PC必携〕 第6回 プロジェクトの中間発表準備3:PPTによるスライドの作成〔PC必携〕 第7回 プロジェクトの中間発表1:1stグループ〔PC必携〕 第8回 プロジェクトの中間発表2:2ndグループ〔PC必携〕 第9回 プロジェクトの最終発表準備1:中間報告のフィードバック〔PC必携〕 第10回 プロジェクトの最終発表準備2:追加調査〔PC必携〕 第11回 プロジェクトの最終発表準備3:図表の修正〔PC必携〕 第12回 プロジェクトの最終発表準備3:スライドの修正〔PC必携〕 第13回 プロジェクトの最終発表1:1stグループ〔PC必携〕 第14回 プロジェクトの最終発表2:2ndグループ〔PC必携〕 第15回 学びの総括と3年次以降の学び〔PC必携〕						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業前準備学習:研究テーマに関係する文献資料を図書館、論文検索システム、web検索で見つけて、読み込むこと(学習時間:2時間) ・授業後学習:研究テーマの内容をグループでディスカッションすること(学習時間:2時間)						
授業方法	演習:グループワークあるいは実習・フィールドワークによって、各プロジェクトチームがそれぞれ設定したテーマに取り組み、その成果発表(プレゼンテーション)を行う。〈BYOD対象科目〉						
評価基準と評価方法	・授業中の課題(40%):授業中に出した課題を通じて内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)および(2)の達成度を確認する。 ・プロジェクトの成果発表(60%):発表内容を評価するとともに、到達目標(1)および(3)の達成度を確認する。						
履修上の注意	・出席及び授業への参加度重視。原則として欠席は認めない。 ・欠席した場合は、必ず担当者に相談すること。20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・必要な資料やデータの収集のため、学外でフィールドワークを行うことがある。それにかかる入場料や交通費などは実費負担。						
教科書	特に使用しない。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活論						
担当教員	江 弘毅					科目ナンバー	H01050
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	現在進行形の都市生活から「まち」「都市」「都会」とはなにかを概観し、具体的な都市を読み解く。						
授業の概要	前半は、まちに関心をもってもらえるような具体的な（最寄りの駅前など）事例を取り上げながら、「まちを読み解く」ことを主眼に、都市の成り立ちも含めたハード面や、都市生活上のソフト面を解説し、これからの都市生活の課題や展望について考えていく。 後半は、都市生活の基底、すなわち高度に発達した情報システムを軸としたメディアと情報リテラシーの問題、インターネットと変貌する都市空間、消費社会と欲望、資本制と価値、貨幣および交換・贈与、公共、都市生活においての実名性と匿名性などから、都市生活～文化を考察する基礎知識と態度を身につける。						
到達目標	(1) 近代～現在の都市生活を知り、自分にとっての「まち」を考察することができる。【知識・理解】 (2) 高度情報化社会の中の「まち」を情報化、記述し、都市情報を発信することができる。【知識・理解】 (3) 「まちづくり」に参画することができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 この都市生活論で学ぶこと 第2回 まちを読み解く1 「まちヨミ」してみよう（まちを読み解いていこう） 第3回 まちを読み解く2 「まちヨミ」の切り口。何から読み解くか 第4回 まちを読み解く3 みなさんの「駅前」から読み解く→中間試験 第5回 街場と商業施設。大阪／アメリカ村・南船場・堀江・中崎町 神戸／トアウエスト・乙仲通りを例に 第6回 インターネットが都市生活に入ってきた 第7回 コンビニ的消費社会と都市空間 第8回 情報化、記号化、広告化される都市空間 第9回 「ブランドもの」と象徴価値 第10回 おカネ＝貨幣について。交換と贈与 第11回 都市生活と消費者マインド 第12回 「自分のまち」と居場所。実名性、匿名性 第13回 都市生活と情報。メディア・リテラシー 第14回 まとめと期末試験のテーマ 第15回 「わたし」の都市生活について書く すべての回で [PC必携]						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：あらかじめ授業計画のテーマについて、参考書を読み、自分なりの考察を深めておくこと（学習時間90分） 授業後学習：まち（例えば神戸や自分の居住地）についての具体的な情報を収集し、それに応じて街を歩き、都市空間について理解すること（学習時間120分）。						
授業方法	毎回、授業前にmanabaのコースコンテンツに、テキストや資料、レジュメなどをアップします。 それをもとに授業を進めます。 毎回授業が終わると、リアクションペーパーがわりの「レポート」をmanabaへオンラインで書いてください（書くテーマや字数は毎回指示します）。 manabaがこの授業のプラットフォームになります。 〈BYOD対象科目〉						
評価基準と評価方法	中間試験と期末試験50%。 各回提出のリアクションペーパー30%、質問応答（コール&レスポンス）、授業中の発表発言20%						
履修上の注意	BYODを前提に講義をするので、ノートパソコンを持ち込んで利用すること。 出席が授業回数の3分の2に満たない者は期末試験を受けることが出来ません。						
教科書	その都度、manabaのコースコンテンツなどを通じて資料を用意します。						
参考書	『歩いて読み解く地域デザイン 普通のまちの見方・活かし方』山納洋著、学芸出版社 ISBN978-4-7615-2707-5 『「街的」ということ お好み焼き屋は街の学校だ』、江 弘毅著、講談社現代新書 ISBN-10: 4061498568 『街場の大阪論』江 弘毅著、バジリコ ISBN-10: 4862381316、新潮文庫 ISBN-10: 4101319219 『広告都市・東京 その誕生と死』北田暁大著、廣済堂出版 ISBN-10: 433185017X 『アメリカ大都市の死と生』、ジェーン・ジェコブス著、鹿島出版会 ISBN-10: 4306051188 『愛すること「自分」を、そして「われわれ」を』ベルナル・スティグラー著、新評論 ISBN-10: 4794807430 『愛と経済のロゴス カイエ・ソバージュⅢ』中沢新一著、講談社選書メチエ、ISBN-10: 4062582600						

参考書	
-----	--

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	人間科学基礎Ⅰ／生活の科学基礎Ⅰ							
担当教員	亀井 健吾					科目ナンバー	H01020	
学期	前期／1st semester		曜日・時限	月曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	高等学校まで学んできた科学的知識（化学・生物分野）が身近なところに活かされていることを知るとともに、これから大学で学ぶ上で必要な化学・生物の知識を身につける。							
授業の概要	生活科学とは、人々の生活に関するあらゆる事象を科学的に解明し、生活の質を向上させることを目的とする学問である。本授業では、生活科学を学ぶ上で必要不可欠な化学や生物学の基礎知識を習得する。また、科学技術の進展によって多様化した現代の生活において、人間と科学との関係性を理解し、社会が抱える課題を科学的に解決するための土台となる力を養う。							
到達目標	(1)生活の中の現象やヒトの体内での現象を科学的な視点で説明することができる。【知識・理解】 (2)科学的視点によって、技術の改良・改善や効率的な利用方法の提言、あるいはより良い社会システムの提案を行うことができる。【態度・志向性】 (3)化学と生物学が生活に役立てられることを理解する。【汎用的技能】							
授業計画	第1回 オリエンテーションと生活の中の化学や生物学について (第2～7回 化学分野、第8回～14回 生物分野を予定) 第2回 原子、分子、元素とイオン（塩） 第3回 無機化合物Ⅰ 第4回 無機化合物Ⅱ 第5回 化学結合と化学反応・物質量「モル」 第6回 有機化合物Ⅰ 第7回 有機化合物Ⅱ 第8回 生物とその構成成分 第9回 生物の代謝・遺伝子 第10回 生物の体内環境Ⅰ 第11回 生物の体内環境Ⅱ 第12回 植物 第13回 動物 第14回 生態と環境 第15回 総括							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：高校化学、生物を復習し、教科書を予習する。＜1.5～2時間＞ 授業後学習：教科書を用いて講義内容を復習し、自身の意見、質問などをまとめて文章にし、課題として提出する。＜1～2時間＞							
授業方法	講義 manaba課題（授業内でテーマを伝え、各自の意見をまとめたものを提出：化学分野4回・生物分野4回）							
評価基準と評価方法	講義ごとの課題提出80%（manabaを用いた課題提出・理解度確認） 授業態度20%（積極的な質問など） 課題について、インターネット上の内容を参考にする際は、参考文献元として信頼性の高いものであれば利用可能とする。ただし、コピーペーストを行わず、自身の考えを踏まえて文章を作成すること。また、参考としたものは必ず課題の末尾に記載すること。これらも評価対象として確認する。生成系AIの使用が明らかな場合、減点対象として評価する。							
履修上の注意	20分未満の不在（遅刻・早退等）は、1/3回の欠席とみなす。また20分以上不在の場合は、欠席扱いとする（交通機関遅延などの事情がある場合は考慮する）。 出席回数が開講回数の2/3に満たない者は、原則として単位認定を行わない。							
教科書	SBクリエイティブ 一度読んだら絶対に忘れない化学の教科書 左巻 健男（著） ISBN-13：978-4815617479 KADOKAWA 大人の教養 面白いほどわかる生物 伊藤和修（著） ISBN-13：978-4046059468							
参考書	科学関連のニュースなどを日常的に確認する。 他は授業内で伝達する。							

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	人間科学基礎Ⅱ／生活の科学基礎Ⅱ						
担当教員	青谷 今井 奥井 川口 富田 花田					科目ナンバ－	H01030
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	社会生活の中で生活者はどのように行動し、どのような役割を果たしているのか。より豊かな社会生活を営んでいくために必要となる基礎知識と現実問題について学ぶ。						
授業の概要	生活・社会科学の視点から現代社会の実態や諸課題を明らかにするとともに、いかにしてこれらを生活の豊かさや、生活の質の向上に結びつけるかについて考える。さらに、理論と実践の両側面からの学びを通じて、生活上の諸問題の解決策を探究する力を養う。						
到達目標	(1)人間生活を生活・社会科学の枠組みで捉え、基礎的な知識を理解することができる【知識・理解】 (2)社会の中でより豊かに生活を営むための手立てについて考えることができる【汎用的技能】 (3)人間生活における諸課題について、生活・社会科学の枠組みで捉え、それらの解決を主体的に探究しようとしている【態度・志向性】						
授業計画	第1回 ガイダンス：人間科学の定義を求めて【奥井】〔PC必携〕 第2回 人間科学の理論①：人間環境入門【花田】 第3回 人間科学の実践①：人間環境入門【花田】〔PC必携〕 第4回 人間科学の理論②：食生活入門【川口】 第5回 人間科学の実践②：食生活入門【川口】〔PC必携〕 第6回 人間科学の理論③：地域・観光入門【青谷】〔PC必携〕 第7回 人間科学の実践③：地域・観光入門【青谷】〔PC必携〕 第8回 人間科学の理論④：自然環境入門【富田】 第9回 人間科学の実践④：自然環境入門【富田】〔PC必携〕 第10回 人間科学の理論⑤：経営入門【今井】 第11回 人間科学の実践⑤：経営入門【今井】〔PC必携〕 第12回 人間科学の理論⑥：社会調査入門【奥井】 第13回 人間科学の実践⑥：社会調査入門【奥井】〔PC必携〕 第14回 人間生活を総合的に捉える視点【奥井】〔PC必携〕 第15回 講義の総括と終講課題【奥井】〔PC必携〕						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：各回の授業で取り上げる内容とキーワードに関係する文献を図書館およびwebで見つけて、読み込むこと＜学習時間：2時間＞ 授業後学習：授業内で指定した課題についてレポートを作成し、各担当者が指定する方法（主に松蔭manaba）で提出すること＜学習時間：2時間＞						
授業方法	講義：都市生活学科の諸領域について、各専門分野の教員が入門的な学びを理論と実践の両側面から提供する。学習活動は一斉授業をベースに、部分的にペア・グループワーク、ディスカッション、ゲーム、ロールプレイなどを取り入れる。＜BYOD対象科目＞						
評価基準と評価方法	・各担当者が課すミニレポート(90%)：第2～13回で取り上げた内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)～(3)の達成度を確認する。 ・平常点および終講課題(10%)：第1、14、15回の取り組み状況によって到達目標(1)の達成度を確認する。						
履修上の注意	・出席が授業全体の2/3以上であること ・原則として、学校感染症や公共交通機関の遅延・運休といったやむをえない事情により遅刻・欠席した時、各種証明の提出があった場合に限り考慮の対象とする ・本科目は複数の教員が担当するオムニバス形式の授業であることから、授業について不明な点や質問があった場合には担当者に直接伝えること ・休補講時の対応については各担当教員の指示に従うこと						
教科書	必要に応じて資料を配付する						
参考書	必要に応じて紹介する						

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	発酵学							
担当教員	川口 真規子					科目ナンバー	U73460	
学期	前期／1st semester		曜日・時限	金曜1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	発酵によって作られる様々な食品について、その製造原理、歴史、食文化的な背景を学ぶ。 本学の地元・灘における酒造りの歴史、製造技術の変遷について知識を深める。							
授業の概要	ヒトは古来から微生物を利用して発酵食品を作ってきた。本講義では、①微生物とヒトとの関わりの歴史、②微生物の生物学的な分類および形態や性質の特徴、③発酵食品と食文化 について概説する。さらに、各種発酵食品の製造方法ならびに食文化的な背景について個別に解説する。							
到達目標	1) 微生物利用による食品製造についてその原理、利用する微生物の説明ができる。【知識・理解】 2) 各種発酵食品について、その食品の生まれた地域の気候、風土、食文化も併せて説明ができる。【知識・理解】 3) 地元・灘の日本酒製造の歴史を理解し、日本酒の製造法・品質管理について述べるができる。【知識・理解】							
授業計画	第1回 はじめに 発酵と腐敗 【対面】 第2回 微生物の分類と性質 【対面】 第3回 発酵食品と食文化 【遠隔】 第4回 酒類 ①総説 【遠隔】 第5回 酒類 ②清酒・焼酎 【遠隔】 第6回 酒類 ③ビール・ワイン 【遠隔】 第7回 酒類 ④ウイスキー・ブランデー・その他の酒類 【遠隔】 第8回 発酵調味料 ①味噌・醤油 【遠隔】 第9回 発酵調味料 ②食酢・みりん・魚醤油 【遠隔】 第10回 その他の発酵食品 ①納豆・漬物・水産発酵食品 【遠隔】 第11回 その他の発酵食品 ②発酵乳製品 【遠隔】 第12回 世界の発酵食品 現代の発酵技術を用いた食品製造 【遠隔】 第13回 期末テスト 【遠隔】 第14回 灘五郷の歴史と現在の酒造技術 (ゲストスピーカー招へい) 【対面】 第15回 学外研修(酒蔵見学) 【対面】							
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前：学習項目についてあらかじめ決められた内容を調べ、プレゼンテーション資料を作成する。 また、学外研修の前には「灘五郷」の歴史について調べておく(学習時間：2時間) 授業後：授業時に配布したプリントを再度読み返し、指示した内容についてレポートにまとめる。 (学習時間：2時間)							
授業方法	松蔭manabaとzoomを使用する。 学外研修・ゲストスピーカーによる講義の際は対面授業となる。 講義：第4回から11回はアクティブラーニング形式で授業を実施する。 各回テーマに沿った学生プレゼンテーションを行い、 その発表をふまえて解説・講義を行う。 学外研修：日本の伝統的な酒造りと最新の醸造技術について見学する(所要時間：約4時間)。 ＜遠隔指定授業＞							
評価基準と評価方法	レポート(40%)：灘五郷の歴史と地理的背景、日本酒の製造についてのレポートで評価する。 到達目標3)の確認。 期末テスト(50%)：到達目標1)2)の確認。 授業時の態度10%：主体的な学習が行われているかなどで評価する。到達目標1)、2)の確認。							
履修上の注意	学外研修は西郷(神戸市灘区大石付近)の酒蔵見学を予定している。交通費は各自負担となる。							
教科書	なし 授業時にプリントを配布またはmanabaにて資料を配信							
参考書	発酵食品学 小泉武夫編著 講談社							

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	パーソナルファイナンス演習						
担当教員	荒木 千秋					科目ナンバー	U73070
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	「パーソナルファイナンス理論」に引き続き、パーソナルファイナンスの基礎知識（不動産・相続等）を習得するとともに、実践能力を育成する。						
授業の概要	パーソナルファイナンスの基礎知識として、主に不動産・相続について学ぶ。これらの知識がライフプランニングやファイナンシャルプランニングの中でどのように活用されているのかを講義を通じて学ぶ。 また、演習問題として、パーソナルファイナルに関する時事トピックスを取り上げ、実践的な力を育成する。						
到達目標	(1)「パーソナルファイナンス中で不動産や相続・事業承継がどのように位置づけられているかを理解できる」【知識・理解】 (2)「パーソナルファイナンスの基礎知識(特に不動産、相続・事業継承)を習得し、その具体的説明ができる」【汎用的技能】 (3)「パーソナルファイナンスの実践を身近なものとして認識することができる」【態度・志向性】						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 不動産の基礎知識：不動産の種類と権利 第3回 不動産取引：宅地建物取引業法、不動産の売買契約、不動産の貸借契約 第4回 不動産に関する法令①：都市計画法、建築基準法 第5回 不動産に関する法令②：区分所有法、国土利用計画法 第6回 不動産にかかる税金：不動産取得税、登録免許税、消費税、印紙税、固定資産税、都市計画税、譲渡税、不動産所得税 第7回 第2～6回のまとめと中間試験〔PC必携〕 第8回 贈与と法律、税金：贈与の意義と贈与契約、贈与の種類、民法の規定、贈与税の課税、財産と非課税財産、贈与税の計算、相続時精算課税制度、贈与税の申告と納付 第9回 相続と法律：相続人と相続分、代襲相続、遺産分割、相続の承認と放棄、遺言 第10回 相続税①：相続税とは、相続税の課税財産、相続税の非課税財産 第11回 相続税②：債務控除、相続税の計算、相続税の申告、相続税の納付 第12回 演習問題① 第13回 相続財産の評価 第14回 演習問題② 第15回 第8～14回のまとめと定期試験〔PC必携〕						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業前準備学習：各回授業で取り上げる内容とキーワードに関係する文献資料を図書館およびweb検索で見つけて、読み込むこと（学習時間：2時間） ・授業後学習：授業内の復習を行う（学習時間：2時間）						
授業方法	各回設定のテーマについて講義する。授業の単位ごとに、演習問題またはレポート課題を課す。PCを使いながら、その問題に、個人ワークあるいはグループワークによって答えること。＜BYOD対象科目＞						
評価基準と評価方法	・定期試験(30%)：第8～14回で取り上げた内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)および(3)の達成度を確認する。 ・中間試験(30%)：第2～6回で取り上げた内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)および(2)の達成度を確認する。 ・平常点(40%)：演習問題により内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)～(3)の達成度を確認する。						
履修上の注意	・欠席回数が5回を超えた場合には、定期試験を受ける資格を与えない。 ・出席確認時に不在だった場合は、その回は欠席とする。 ・講義中に無許可で退出した場合は、欠席扱いとする。 ・授業開始後30分を超えた場合は遅刻扱いとし、遅刻は5回で1回の欠席とする。 ・学校感染症、公共交通機関の運休・遅延といったやむをえない事情により欠席したとき、証明書を提出した場合に限って考慮の対象とする。 ・〔PC必携〕の授業回はパソコンを持参すること。						
教科書	特に使用しない。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	パーソナルファイナンス理論							
担当教員	北野 友士					科目ナンバー	U73060	
学期	前期／1st semester		曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	個人がライフデザインやライフプランを実現するために必要となるファイナンシャル・プランニングの基本的な知識や考え方（パーソナルファイナンス）の習得を目指します。							
授業の概要	「こうやって生きていきたい」という個人の価値観をライフデザイン（人生設計）といい、そのための行動計画をライフプラン（人生計画）といいます。ライフデザインやライフプランを実行するにはお金に関する計画が欠かせず、個人のお金に関する計画をファイナンシャル・プランニング（FP）といいます。また特に個人に関する金融の知識や考え方の体系はパーソナルファイナンスとも呼ばれます。本科目ではパーソナルファイナンスの基本を踏まえ、個人のFPIに大きな影響を与えるタックスプランニングを中心的に学びます。							
到達目標	(1)「ライフプランに基づいた目標を達成する上での、パーソナルファイナンスの重要性を理解することができる」【知識・理解】 (2)「パーソナルファイナンスの基礎知識(特にタックスプランニング)を習得し、その具体的説明ができる」【汎用的技能】 (3)「パーソナルファイナンスとは学生時代から実践できるものであると認識することができる」【態度・志向性】							
授業計画	第1回 ガイダンス～パーソナルファイナンスと我が国の税制 第2回 所得税の仕組み 第3回 10種類の所得①：利子所得、配当所得、不動産所得、事業所得、給与所得 第4回 10種類の所得②：給与所得、退職所得、山林所得、譲渡所得、一時所得、雑所得 第5回 損益通算 第6回 所得控除①物的控除 第7回 所得控除②人的控除 第8回 税額の計算 第9回 所得税の申告と納付 第10回 ゲストスピーカーによる特別講義 第11回 個人住民税と個人事業税 第12回 法人税 第13回 法人税にかかわる周辺知識 第14回 消費税 第15回 パーソナルファイナンス理論のまとめ							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業前準備学習：各回の授業で取り上げる内容を参考文献等で学んでおくこと(学習時間：2時間) ・授業後学習：授業内容を復習したうえで毎回の小テストに臨むこと(学習時間：2時間)							
授業方法	PBL:各回設定のテーマについて講義し、配布資料に穴埋めをしてもらいながら授業を進めます。講義後には授業内容に関する小テストをWeb上で出しますので、解答してください。							
評価基準と評価方法	・小テスト（70%）：第1～14回の各回の内容について毎回10点満点の小テストを出題し、理解度を確認します。 ・期末確認テスト（30%）：第15回講義で総まとめをしたうえで、30点満点の総復習テストを行います。 以上の小テストと期末確認テストをもってに、到達目標(1)～(3)の達成度を確認します。							
履修上の注意	・税制変更なども反映させるために授業計画で示した内容や順番が多少変更があり得るかもしれません。 ・単位が取得できなくなる欠席回数等は指定しませんが、まずは授業に出席して授業内容の理解に努めてください。							
教科書	特に指定しません。講義はパワーポイントの投影資料で進め、配布資料に穴埋めをしてもらう形で進めます。							
参考書	書店などでFP技能検定の市販のテキストのうち自分に合うものを何か一冊入手しておいてもらえればと思います。 ・何が良いか決められない場合の参考として以下の1冊を挙げておきます。 ・株式会社マネースマート（著）『FP技能士2級・AFP最速合格ブック』成美堂出版。 また手前みそではありますが、大学生に学んで欲しい金融リテラシーをまとめた拙著も参考になれば幸いです。 ・北野友士（2025）『学生に読んで欲しいお金の攻略本＜第2版＞Money Strategies for Students』パプファンセルフ。							

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	被服材料学						
担当教員	花田 美和子					科目ナンバー	U72170
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	被服の材料である糸、布、その他の素材について学ぶ。						
授業の概要	被服繊維学では多種多様な繊維材料について学んだ。本講義では、繊維から作られる糸や織物や編物の他、皮革や羽毛に至るさまざまなアパレル材料の特徴と、被服に要求される消費性能について解説する。						
到達目標	代表的な被服材料の種類と特徴を説明することができる【知識・理解】 アパレル製品の消費性能と被服材料との関係を説明することができる【知識・理解】 身の回りのアパレル製品について、消費者の視点から考えを述べる【知識・理解】						
授業計画	第1回：はじめに 被服材料と消費性能 第2回：糸の種類と構造 1 糸の分類 第3回：糸の種類と構造 2 より構造と恒長式番手 第4回：糸の種類と構造 3 恒重式番手 第5回：布の組織と種類 1 織物 第6回：生地見本帳の作成 第7回：生地見本帳の説明 第8回：まとめと中間試験 第9回：布の組織と種類 2 編物 第10回：その他の被服材料 1 レース、不織布、天然皮革 第11回：その他の被服材料 2 天然皮革、合成皮革 第12回：その他の被服材料 3 毛皮、羽毛 第13回：学外研修 第14回：復習と期末試験 第15回：衣料管理士による講義（ゲストスピーカー）[PC必携]						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：教科書の当該箇所を読んで予習する（1.5時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所をまとめプリントで確認する（2.5時間）						
授業方法	講義、動画視聴、演習、ゲストスピーカーによる講義、学外研修（神戸ファッション美術館※予定） BYOD対象科目						
評価基準と評価方法	平常点：40%、試験：60% 平常点は各回の提出課題の内容、演習課題等を評価する 試験は中間と期末の2回実施する。						
履修上の注意	1. 学外研修は交通費等一部自己負担あり。実施は授業時間外または補講期間の予定。 2. 被服材料学実験を希望する場合は、被服材料学（講義）も履修しなければならない。 3. 前期開講の被服繊維学は、被服材料学の基礎となる内容なので、可能な限り受講することが望ましい。 4. 授業の小課題は必ず期限内に提出すること。 5. ほとんどすべての授業回でmanabaを使用するため、PCの携行を推奨する。						
教科書	『生活科学テキストシリーズ 衣服材料学』平井 郁子・松梨 久仁子（編著） 朝倉書店、ISBN 978-4-254-60635-5						
参考書	『衣服材料の科学』島崎恒蔵 編著 建帛社、ISBN 9784767910499						

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	被服材料学実験							
担当教員	花田 美和子					科目ナンバー	U23130	
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	木曜1～2	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	繊維、糸、布の物理学的実験							
授業の概要	被服に要求される性能はさまざまである。被服を構成する繊維、糸、布の物理的性質を学ぶことは、これらを解明し、よりよい衣生活に生かしていく上で欠かせない。ここでは被服材料学で得た知識をもとに実験を行い、それらの方法を理解するとともに、得られた結果から試料の性能を評価する。							
到達目標	測定器類の使い方を身につけ、正しく測定をすることができる。【汎用的技能】 実験結果を読み取り、適切に評価・考察することができる。【汎用的技能】 指定された方法に従ってレポートを作成することができる。【汎用的技能】							
授業計画	第1回：ガイダンス、実験の説明 [PC必携] 第2回：繊維の鑑別—顕微鏡による繊維の観察 第3回：繊維の鑑別—繊維の燃焼性と比重 第4回：繊維の鑑別—染色法、混用率測定 第5回：糸の太さと撚り 第6回：織物の基本構造① 第7回：織物の基本構造② 第8回：編物の基本構造 第9回：織物の水分率、撥水性 第10回：布のピリング、防しわ性 第11回：布の剛軟性、吸水性 第12回：糸の引張強さ、布の引き裂き強さ 第13回：布のドレープ性と摩擦強さ 第14回：布の通気性、保温性 第15回：まとめ [PC必携]							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	実験科目のため、原則として授業時間内でデータ整理・レポート作成など、すべての学習をおこなう。ただし、授業時間内で完成できなかった人は、次回までに完成させておくこと。							
授業方法	個人またはグループによる実験 BYOD対象科目							
評価基準と評価方法	平常点：40% レポート：60% 平常点には実験への取り組み、グループ内でのディスカッションへの参加度により総合的に評価する。							
履修上の注意	1. 履修の対象者：被服材料学（講義）を履修した学生を対象とする。 2. 実験科目であるので、遅刻、欠席をしないようにすること。 3. 安全な靴を着用し、必要に応じて白衣を着用すること。 4. レポートはWordで作成すること。そのためPC持参を推奨する。							
教科書	『衣服材料学実験』松梨久仁子、平井郁子 編著、朝倉書店 ISBN 9784254606348 ※第1回の授業から使用するので、必ず入手しておくこと。							
参考書	『生活科学テキストシリーズ 衣服材料学』平井 郁子・松梨 久仁子（編著） 朝倉書店 ISBN 978-4-254-60635-5 『被服材料実験書』石川欣造 著、同文書院 ISBN 9784810311044							

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	被服心理学							
担当教員	平松 隆円					科目ナンバー	U72210	
学期	前期／1st semester		曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	被服を通じての、個人・他者・社会との関わりについて考える。							
授業の概要	「よそおい」とは、広義に「身体の外観を変えるために用いるすべてのものやそのための行動」を意味する。主要なものには、身体各部を包み込む衣服や化粧などの「被服」がある。「よそおい」は自己を表現する手段であり、日常生活、他者とのコミュニケーションを円滑におこなうために、それをおこなう人の人間性や生活態度などを表現し、伝達する。「何を着るか」「どのような装飾をするのか」は、個人として「どのような生活を送るのか」ということだけではなく、「どのように社会参加をおこなうのか」や「どのように他者とかわるのか」をあらわしている。被服を通じての、個人・他者・社会との関わりについて考える。							
到達目標	被服の意味を知り、それを通じてもたらされる社会的・対人的効果について説明できる。【知識・理解】生活の質の向上という視点から、被服を活用したよりよい生活のあり方を理解することができるようになる。【知識・理解】							
授業計画	第1回：ガイダンス 第2回：被服と身体装飾 第3回：被服の起源と動機 第4回：被服の意味・機能・効用 第5回：NON-VERBAL COMMUNICATIONの一手段として 第6回：被服のコミュニケーション 第7回：被服による装飾・整容・変身行動 第8回：被服の購買・消費行動 第9回：被服と流行行動 第10回：身体と被服行動 第11回：自己への意識と被服行動 第12回：人間の発達と被服行動 第13回：被服によるジェンダーの表示 第14回：被服と逸脱行動 第15回：まとめと試験							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	予習：事前に配付された資料内容を、確認する＜2時間＞。 復習：授業内で学習した内容をもう一度繰り返し、習熟しておく＜2時間＞。							
授業方法	講義形式。反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室でおこなう）とディスカッションやディベートを適宜おこなう。							
評価基準と評価方法	・講義中におこなうリアクションペーパーおよび小レポートの提出（60%） ・期末試験（40%） 課題は添削して返却する。							
履修上の注意	・出席を重視する。 ・締め切りに遅れた提出物（課題）は一切受け取らないので、注意すること。							
教科書	なし							
参考書	『被服行動の社会心理学—装う人間のこころと行動』北大路書房、ISBN-10：4762821616 『装いの心理学：整え飾るこころと行動』北大路書房、ISBN-10：4762831034 『まとう—被服行動の心理学』朝倉書店、ISBN-10：4254526318 『外見とパワー』北大路書房、ISBN-10：4762823848 『モードの体系—その言語表現による記号学的分析』みすず書房、ISBN-10：4622019639 『ひとはなぜ服を着るのか』筑摩書房、ISBN-10：4480429905 『邪推するよそおい：化粧心理学者の極私的考察』織研新聞社、ISBN-10：4881243004							

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	被服整理学						
担当教員	花田 美和子					科目ナンバー	U72180
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	被服の洗浄と管理について学ぶ。						
授業の概要	日常の被服の手入れや季節ごとの保管から最終的な廃棄にまでを取り扱う。特に、被服整理の中心となる洗濯について科学的な視点から解説し、さらに柔軟剤やアイロンによる仕上げや虫害による損傷を防ぐための適切な保管方法についても解説する。到達目標は、被服の洗浄理論を説明すること、素材に応じた適切な管理方法を選択することができること、洗濯や管理によって生じたトラブルの原因を考えることができることである。						
到達目標	・被服の洗浄理論を説明することができる【知識・理解】 ・素材に応じた適切な管理方法を選択することができる。【知識・理解】 ・洗濯や管理によって生じたトラブルの原因を考えることができる。【知識・理解】						
授業計画	第1回：衣服の汚れ 第2回：洗濯用水と衣料用洗剤～洗濯用水 第3回：洗濯用水と衣料用洗剤～洗剤 第4回：洗剤の成分と洗浄作用～界面活性剤水溶液の性質 第5回：洗剤の成分と洗浄作用～陰イオン、非イオン界面活性剤 第6回：洗剤の成分と洗浄作用～陽イオン、両性イオン界面活性剤 第7回：まとめと中間試験 第8回：洗剤の成分と洗浄作用～配合剤の種類と洗浄作用 第9回：洗濯機、家庭洗濯 第10回：洗浄力の試験法と評価 第11回：機械作用の試験法と評価 第12回：漂白剤と増白、しみ抜き 第13回：衣服の保管、商業洗濯 第14回：取扱い絵表示、衣服の廃棄とリサイクル 第15回：まとめと期末試験【PC必修】						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：教科書の当該箇所を読んで予習する（1.5時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所をまとめプリントで確認する（2.5時間）						
授業方法	講義、動画視聴 BYOD対象科目						
評価基準と評価方法	平常点：40%、試験：60% 平常点は各回の提出課題の内容を評価する 試験は中間と期末の2回おこなう。						
履修上の注意	1. 授業の小課題は必ず期限内に提出すること。 2. ほとんどすべての授業回でmanabaを使用するため、PCの携行を推奨する。 3. FHD学科は履修不可						
教科書	『被服整理学』社団法人日本衣料管理協会刊行委員会編 社団法人日本衣料管理士（ISBNなし）						
参考書	『洗剤と洗浄の科学』中西茂子著 コロナ社 978-4339076837						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	被服整理学実験						
担当教員	花田 美和子					科目ナンバー	U22110
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3～4	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	被服の洗濯・洗浄と染色に関する実験						
授業の概要	日常の被服管理において、洗濯は最も中心的な役割を果たす。本実験では、洗剤の主成分である界面活性剤の作用と洗濯の諸条件、色素の分解（漂白）や吸着（染色）、染色物の色の落ちにくさ（堅ろう度）に関する実験を行う。						
到達目標	実験器具の使い方を身につけ、正しく実験をすることができる【汎用的技能】 実験結果を読み取り、適切に評価・考察することができる【汎用的技能】 指定された方法に従ってレポートを作成することができる【汎用的技能】						
授業計画	第1回：界面現象 第2回：界面活性剤の性質と作用 第3回：石けんの製造 第4回：洗浄試験、水洗濯、ドライクリーニング 第5回：精練・漂白・増白 第6回：しみぬき 第7回：洗濯に伴うトラブル 第8回：茜による染色 第9回：酸性染料による染色・透過率測定 第10回：直接染料による染色・吸光度測定 第11回：反応染料による三原色配合染色 第12回：分散染料による染色、ナフトール染料による染色 第13回：建て染め染料による染色 第14回：染色堅ろう度試験 第15回：まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	実験科目のため、原則として授業時間内でデータ整理・レポート作成など、すべての学習をおこなう。ただし、授業時間内で完成できなかった人は、次回までに完成させておくこと。						
授業方法	個人またはグループによる実験						
評価基準と評価方法	平常点：40%、レポート：60% 平常点には実験への取り組み、グループ内でのディスカッションへの参加度により総合的に評価する。						
履修上の注意	1. 履修の対象者：被服整理学（講義）を履修した学生を対象とする。 2. 実験科目であるので、遅刻、欠席をしないようにすること。 3. 安全な靴を着用し、必要に応じて白衣を着用すること。						
教科書	テキスト（プリント）配布						
参考書	『被服整理学』 社団法人日本衣料管理協会刊行委員会編 社団法人日本衣料管理士						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	被服繊維学						
担当教員	花田 美和子					科目ナンバー	U72160
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	被服の材料である繊維について学ぶ。						
授業の概要	被服の材料である綿や羊毛などの天然繊維の生産工程、化学繊維の原料や開発の歴史に触れながら、被服材料である繊維の種類と性質について学ぶ。また、さまざまな機能の付与した新しい繊維についても解説するとともに、生活環境と繊維との関わりについて考察する。到達目標は、被服を構成する繊維の種類と性質を説明することができること、繊維素材と着用目的を関連づけ、着用目的に合った繊維素材を選択することができることである。						
到達目標	・被服を構成する繊維の種類と性質を説明することができる【知識・理解】 ・自分の被服の繊維素材を調べ、着用目的に照らし合わせて問題点を列挙することができる【知識・理解】 ・着用目的に合った繊維素材を選択することができる【知識・理解】						
授業計画	第1回：被服の材料、繊維について 第2回：天然繊維 植物繊維～綿① 第3回：天然繊維 植物繊維～綿② 第4回：天然繊維 植物繊維～麻 第5回：天然繊維 動物繊維～羊毛 第6回：天然繊維 動物繊維～絹 第7回：まとめと中間試験 第8回：化学繊維 再生繊維 第9回：化学繊維 半合成繊維 第10回：化学繊維 合成繊維～ナイロン 第11回：化学繊維 合成繊維～ポリエステル 第12回：化学繊維 合成繊維～ビニロン、生分解性繊維、他 第13回：無機繊維～ガラス・炭素・金属繊維、高機能繊維 他 第14回：まとめと期末試験 第15回：試験の復習、最終課題、服のリユースに関する演習【PC必携】						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：教科書の当該箇所を読んで予習する（1.5時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所をまとめプリントで確認する（2.5時間）						
授業方法	講義、演習、動画視聴等を含む。 BYOD対象科目						
評価基準と評価方法	平常点：40%、試験：60% 平常点は各回提出の小課題の内容等を評価する。 試験は中間と期末の2回実施する。						
履修上の注意	1. 授業の小課題は必ず期限内に提出すること。 2. ほとんどすべての授業回でmanabaを使用するため、PCの携行を推奨する。						
教科書	『生活科学テキストシリーズ 衣服材料学』平井 郁子・松梨 久仁子 編著、朝倉書店、ISBN 978-4-254-60635-5						
参考書	『生活のための被服材料学』日下部信幸 著、家政教育社、ISBN 9784760602773 『衣服材料の科学』島崎恒蔵 編著 建帛社、ISBN 9784767910499						

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	フードコーディネート論							
担当教員	草尾 賀子					科目ナンバー	U72500	
学期	前期／1st semester		曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	フードコーディネートに必要な幅広い知識と応用力を身につける。							
授業の概要	料理やお菓子をよりおいしく楽しく食べるために、季節や行事、スタイルに合わせたコーディネート方法を修得する。日本の行事食や各国の食文化、メニュープランニング、テーブルマナー、フードマネージメントなどを学び、フードコーディネートに必要な幅広い知識と応用力を身につけて、自らの実生活や食分野のスペシャリストとして生かせる能力を備えるための授業を行う。							
到達目標	(1) フードコーディネートの重要性を理解し、フードコーディネートに必要な基礎知識を身につけることができる。 (2) 食の企画やフードコーディネートのアイデアを発想する力を養うことができるようになる。							
授業計画	第 1回 フードコーディネートの基本理念 第 2回 日本の食事・食卓文化 第 3回 外国の食事・食卓文化 第 4回 食卓（テーブル）のコーディネートの基本 第 5回 西洋料理のテーブルコーディネート 第 6回 日本料理と中国料理のテーブルコーディネートの基本 第 7回 ビュッフェとティーのテーブルコーディネートの基本 第 8回 食卓のサービスとマナー（西洋料理） 第 9回 食卓のサービスとマナー（日本料理・中国料理） 第10回 メニュープランニングの要件 第11回 各調理様式とメニュー開発の基礎 第12回 食空間のコーディネートとインテリア 第13回 フードサービスマネージメント 第14回 食企画の実践コーディネート 第15回 食企画の発表、全授業のまとめと期末試験							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学修：各授業で扱う教科書の概要箇所を熟読して予習し、事前に指定するキーワードについて参考図書などで下調べする。＜2時間＞ 授業後学修：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理する。次回授業で実施する確認テストに備えて授業内容を復習する。＜2時間＞							
授業方法	講義：各界の授業内容について、パワーポイントと配布資料を用いて講義を行う。学びを深めるために、個人またはグループ単位で実技、ディスカッション、発表を行うこともある。							
評価基準と評価方法	授業内の提出物40%、期末試験60% 授業内の提出物：各回授業のまとめプリント、コーディネートのコンセプトや企画の提案書の内容・記述の的確さ等により評価する。到達目標(1)(2)に関する到達度の確認 期末試験：授業で扱った授業内容の理解度、応用力について評価する。到達目標(1)(2)に関する到達度の確認 課題に対するフィードバックの方法：提出物にコメントをつけて返却、実技については授業内で直接コメントする。期末試験の結果への講評を松蔭manabaで告知する。							
履修上の注意	1. 指定教科書を毎回の授業に持参すること。 2. 授業回数の3分の1以上欠席した人は期末試験の受験資格を失うものとする。							
教科書	『三訂フードコーディネート論』、フードスペシャリスト協会著、建帛社、ISBN978-4-7679-0440-5							
参考書	『TALK食空間コーディネーター3級テキスト』、NP0法人食空間コーディネート協会著、株式会社優しい食卓、ISBN978-4-901359-47-4							

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	フードスペシャリスト論							
担当教員	川口 真規子					科目ナンバー	U23490	
学期	後期 前半		曜日・時限	木曜1～2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	フードスペシャリストの概念を理解し、フードスペシャリストとして活躍できる知識を修得する。							
授業の概要	フードスペシャリストが持つ専門性と役割について概説する。また、食物学、食品官能評価・鑑別などのフードスペシャリスト資格認定試験に出題される分野についてのまとめと試験対策も行う。							
到達目標	1) フードスペシャリストが持つ専門性について理解する。【知識・理解】 2) フードスペシャリスト資格認定試験に合格しうる知識を修得する。【知識・理解】 3) フードスペシャリストとして必要とされる学問領域を総合的・俯瞰的に理解した上で、食に関わる様々な問題についてその解決法を探索できる。【汎用的技能】【態度・志向性】							
授業計画	第1回：フードスペシャリストの概念 第2回：人類と食物 第3回：世界の食 第4回：日本の食 第5回：現代日本の食生活・食品産業の役割 第6回：食品の品質規格と表示 第7回：食情報と消費者保護 第8回：まとめ①、小テスト 第9回：「フードスペシャリスト論」過去問の傾向と対策 第10回：資格試験問題演習と解答・解説① 第11回：資格試験問題演習と解答・解説② 第12回：資格試験問題演習と解答・解説③ 第13回：資格試験問題演習と解答・解説④ 第14回：資格試験問題演習と解答・解説⑤ 第15回：まとめ②、期末テスト							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：授業計画に従って教科書の該当するところを読み、演習問題についてはあらかじめ解いておく。（学習時間：2時間） 授業後：過去問題演習で不正解だった箇所を再度を解きなおし、関連する内容について教科書でもう一度学習しておく。（学習時間：2時間）							
授業方法	講義、演習 演習の際にはあらかじめ過去問を解いておき、授業時間は問題の正誤の解説を行う。また、関連する内容についての講義も行う。							
評価基準と評価方法	小テスト（40%）、期末テスト（50%）：講義内容の理解度の確認を行う。到達目標1）2）3）の到達度を確認する。 授業態度（10%）：演習時における積極性などで評価する。到達目標2）の到達度を確認する。							
履修上の注意	授業外における学習をしっかりと行うこと。							
教科書	四訂フードスペシャリスト論第7版 日本フードスペシャリスト協会編 建帛社 ISBN 978-4-7679-0714-7 2024年版フードスペシャリスト資格試験過去問題集 日本フードスペシャリスト協会編 建帛社 ISBN 978-4-7679-0741-3							
参考書								

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	保育・看護学							
担当教員	寺村 ゆかの					科目ナンバー	U72020	
学期	前期／1st semester		曜日・時限	金曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	子どもの発達の特性や発達過程、保育などに関する知識と技術を習得させ、子どもの発達や子育て支援に寄与する能力と態度を育てる。							
授業の概要	少子高齢化や核家族化が一般的となった現代、養育者が健全な生活を営むのには大きな努力が必要である。病院や施設での出産や看取りが一般的となり、また医学の進歩により家庭での看護の意義も変容してきた。育児については家庭が主体であることに変わりはないが、保育所や幼稚園も大きな役割を担っている。本講義では、乳幼児の発達、家族の発達過程で生じるさまざまな健康の問題に対し、解決方法や家庭での看護のあり方、具体的な看護技術について学ぶ。さらに、より健康的なライフスタイルを獲得するためには何が必要かを考える。							
到達目標	(1) 子どもの発達や健康、現代の子育て家庭が抱える課題について説明することができる。【知識・理解】 (2) 地域生活の質の向上という観点から、子育て支援のあり方を提案することができる。【知識・理解】							
授業計画	第1回 授業のオリエンテーション／保育とは何か 第2回 成長と発達とは 第3回 妊娠期の女性（母親）の心身の変化と胎児の成長・発達 第4回 新生児・乳児期の心身の成長・発達 第5回 幼児期の心身の成長・発達 第6回 乳幼児期の人間関係の発達 第7回 乳幼児の健康（かかりやすい病気と家庭での看護）管理（家庭での看護実習） 第8回 乳幼児期におこりやすい事故とその予防 第9回 子どもへの接し方 第10回 子どもの遊びの発達 第11回 子どもの文化 第12回 家庭保育の現状と課題 第13回 保育サービスの現状と課題 第14回 地域の子育て支援の現状と課題 第15回 まとめ							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学修：毎回の講義中、次回の講義内容に関係する「キーワード」を提示するので、それについて次の授業までに自己学習をしておく。授業では、その「キーワード」についての質問を行い、受講者の意見等を求めるので、答えられるように準備しておく。＜2時間＞ 授業後学修：授業で取り上げた内容の要点を復習し、それに関する新聞記事や文献等を読む。＜2時間＞							
授業方法	講義では、まず前回の時間に作成したミニレポートの内容を全員で振り返り共有することから始める。準備学習で調べたキーワードをもとに意見交換を行いながら、それぞれの回のテーマについて内容を展開していく。 子どもの病気に対するケアや現代の子育て家庭が抱える課題などの事例検討の際には、演習（グループワークもしくはペアワーク）を行う。							
評価基準と評価方法	①毎回（1回～14回）の授業内で提出するミニレポート又は小テスト（70%） ②最終レポート（30%）。 ①と②の合計（100%）で評価する。 授業内での提出物：ミニレポート（講義内容についての理解や気づき、意見など）の記述内容の的確さを評価する。最終レポート：授業で扱った内容について統合的に理解が深まっているか、子育てに対する関心や支援のあり方について意見が述べられているか等で評価する。到達目標(1)および(2)についての到達度の確認。 課題に対するフィードバックの方法： ミニレポートの内容や意見・質問については、翌週の授業で紹介・解説する。							
履修上の注意	出席回数が、開講日数の2/3に満たないものには単位取得が認められない。 授業中の携帯電話・スマートフォン等の使用を禁止する。							
教科書	なし。 毎回レジュメを配布する。							
参考書	「保育の心理学」伊藤篤 編著（2017）ミネルヴァ書房 ISBN:978-4-623-07956-8 「授業で現場で役に立つ！子どもの保健テキスト」小林美由紀 編著（2018）診断と治療社 ISBN:978-4-7878-2330-4							

科目区分	都市生活学科専門教育科目							
科目名	マーケティング論							
担当教員	青谷 実知代					科目ナンバー	U12090	
学期	前期／1st semester		曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	社会における新しい動きや経験を創りだす、「マーケティング・デザイン」について理解を深め、強い創造志向と未来志向を学修することが目的である。							
授業の概要	「デザイン」には、色や形を創りだす活動の印象がありますが、本講座では、「社会や消費の動きや経験を生み出すこと」を「マーケティング・デザイン」と捉え学修する。 社会の中に新しい動きを創るためには、①新たな顧客を発見すること、②それらと共に、新たな顧客体験と実現の仕組みと、収益の仕組みを創造することが不可欠である。 2000年以降、インターネット、ソーシャルメディアなどが登場し、世界の社会基盤は大きく進化した。同時に、我が国では超高齢化社会と人口減少社会が現実化し、地域間などの格差の問題も顕在化しはじめた。また、海外では新興国の経済成長と共に、環境・エネルギー問題、そして昨今のコロナ禍における物価高の消費問題など、重要な課題が多数存在する。社会課題の解決と共に、新たな時代の経済成長の枠組みとしてマーケティングへの期待もさらに高くなり、同時に対応を迫られている。そのような環境の変化に対応するマーケティングの課題を、具体的にどのように解決すれば良いかの手がかりに至るまでの説明をしながら理解を深めていく。 さらに、環境の変化に対応するマーケティングのあり方として、マーケティング3.0など、次の時代のマーケティング枠組みも一歩踏み込んで学修していく。							
到達目標	①マーケティングの仕組みについて興味・関心を高めることができる。（知識・理解） ②生活システムにおけるマーケティングの役割に気が付くことができる。（知識・理解） ③商品開発の裏側を読み解き、自らの企画・開発力を実践することができる。（汎用的技能） ④具体的な事例をもとに商品の違いを自ら説明できるようになる。（態度・志向性） ⑤商品開発の難しさ・面白さを理解することができる。（態度・志向性）							
授業計画	第1回 マーケティング発想法ーニューコークとタイドー 第2回 マーケティング・ミックスによる顧客創造ーネスレ日本 キットカットー 第3回 製品による顧客創造ーカモ井加工紙株式会社ー 第4回 価格による顧客創造ーサントリーー 第5回 チャンネルによる顧客創造ー（ゲストスピーカー招聘予定） 第6回 コミュニケーションにおける顧客創造ーファーストリテイリングー【PC必携】 第7回 顧客理解ーライオン株式会社ー【PC必携】 第8回 関係構築ーガンホー・オンライン・エンターテイメントー【PC必携】 第9回 デジタル・マーケティングーハウス食品ー【PC必携】 第10回 デイモンドチェーンーカルビーー【PC必携】 第11回 ブランド構築ーマンダムー【PC必携】 第12回 営業活動ーカゴメー【PC必携】 第13回 マーケティングの戦略展開ー花王ー【PC必携】 第14回 社会共生と環境ートヨター【PC必携】 第15回 マーケティング3.0ーP&Gーからマーケティング5.0へ（まとめ）							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	【授業前】流行のものや話題のものを常に把握し、資料を収集しながらまとめる。（街の変化などにも敏感にキャッチしてください）（学習時間：2時間） 【授業後】授業の復習と共に新聞・雑誌は必ずよんでおくこと。授業中に指示された課題についてレポートを作成（学習時間：2時間）							
授業方法	【講義形式】（BYOD対象科目） ・課題解決型学修 ・反転授業 ・時折、ディスカッション、ディベートを取り入れた授業を実践する。 【実務経験のある教員等による授業】 マーケティング&リサーチ事業の代表として食品マーケティングを中心とする商品開発を行った経験を生かし具体的事例を提供しつつ授業を進め製品開発についての知識を教える。							
評価基準と評価方法	・中間テスト（20%） ・授業内での提出物（レポートも含む）（20%） ・期末試験（60%）によって総合的に判断する。							
履修上の注意	①消費者に指示される商品の特徴とは何か？常に考えておいてください。 ②授業中の携帯電話やメールの使用、居眠り、私語、途中退出・遅刻等に対しては厳しく対処する。 ※20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ※講義全体の2/3の出席が確認できない場合は受講資格を失う。 ③新聞は必読 ④食ビジネス専修の学生は、以下の科目も関連して履修することが望ましい。 「地域ブランド」（2年生～）「食と観光のマーケティング論」（3年生以降）「食と観光産業のマーケティング論」（3年生以降）							
教科書	石井淳蔵・廣田章光・坂田隆文編著『1からのマーケティング・デザイン』碩学舎 2016年 ISBN978-4-502-20021-2							

参考書	随時紹介する。
-----	---------

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	メディアとコンテンツ制作						
担当教員	江 弘毅					科目ナンバ－	U73860
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	地域の情報をメディアから発信するためのライティング～編集の技術を身につけ、メディアのコンテンツを制作する。						
授業の概要	激変するメディアとその下での地域情報コンテンツのありようを概観するとともに、地元・神戸のさまざまな魅力を抽出し、表現する感性と技術を身につける。 前期の専門科目の「地域メディア編集論」の実践科目と位置づけ、2014年にサービスを開始したコンテンツ配信用のメディアプラットフォーム「note」上に、制作したコンテンツを発表する。						
到達目標	(1) メディアについての知識を身につけるとともに、そのメディア上で具体的な地域情報発信の創造ができる。【知識・理解】 (2) 都市としての神戸の魅力をとりえて、書き、写真に撮り、編集する感性と技術を身につける。【汎用的技能】 (3) 「わが街・神戸」を舞台とした、地域ブランディングを企画立案し情報発信することができる。【態度・指向性】						
授業計画	第1回 この授業でなにをやるのか 第2回 コンテンツを制作しようとするわれわれにとって「メディア」とはなにか 第3回 メディアでのコンテンツの「さし出し方」について。コンタクトとメタメッセージ 第4回 ライティングのメカニズムと実践 I 「文章を書くこと」 第5回 ライティングのメカニズムと実践 II 「伝わる文章表現」 第6回 ライティングのメカニズムと実践 III 「ワンセンテンス・ワンメッセージ」 第7回 ライティングのメカニズムと実践 IV 「取材＝見てきた、やってみた系」 第8回 企画立案から公開までの流れ 第9回 グラフィックデザインを知る。レイアウト、書体、 第10回 写真を撮り、編集する 第11回 コンテンツ制作実践Ⅰ「六甲～六甲道のグルメ」 第12回 コンテンツ制作実践Ⅱ「神戸のパン・スイーツ」 第13回 コンテンツ制作実践Ⅲ「神戸の外国文化」 第14回 コンテンツ制作実践Ⅳ「松蔭の魅力」 第15回 コンテンツ制作を振り返ってみる すべての回で【PC必修】						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	参考書を読み理解することと、神戸の地域情報をネット上のコンテンツのみならず、雑誌や新聞、印刷物、映像、デザイン、音楽、グルメ、ファッション…から抽出し、資料としてストックし、読んで感じて学習すること（90分）。 その資料に基づき、「現地」「現場」を訪ねて実感すること（120分）。						
授業方法	毎回授業前にmanabaのコースコンテンツに講義の内容、レジュメや資料をアップします。 〈BYOD対象科目〉 【実務経験のある教員等による授業】 都市情報誌「Meets」の編集長であった職歴、さまざまなメディアに、社会や街について執筆・編集している現役のプロフェッショナルとしての経験を生かして、変貌するメディアの現場と、神戸におけるグルメ、ファッション、観光産業などのコンテンツを紹介しつつ、実務家としての人的ネットワークを生かしたフィールドワークを行う。						
評価基準と評価方法	コンテンツ制作による作品50%、授業参加の態度と積極性50%						
履修上の注意	3分の2以上の出席に満たない学生には単位を認めません。						
教科書	毎回、授業前にmanabaのコースコンテンツをアップし、レジュメや資料を配布します。						
参考書	『歩いて読み解く地域デザイン 普通のまちの見方・活かし方』山納洋著、学芸出版社 ISBN978-4-7615-2707-5 『伝える伝わる文章表現』新稲法子著 知的シゲキBooks ISBN978-4-908717-08-6 『短い正義 「60字1メッセージ」で結果が出る文章術』田口まこ著、ダイヤモンド社 ISBN978-4-478-11108-6 『現場でWeb編集の教科書』withnewsほか著、朝日新聞出版 ISBN978-4-02-331955-4 『編集デザインの教科書(第4版)』日経デザイン編、日経BP社 ISBN978-4-8222-3504-8 『伝わるデザインの基本 増補改訂3版 よい資料を作るためのレイアウトのルール』高橋佑磨ほか著、技術評						

参考書	論社 ISBN978-4-297-11985-0 『原稿編集ルールブック(第2版)』日本エディタースクール編、日本エディタースクール出版部 ISBN978-4-888-402-0 『日本語表記ルールブック(第2版)』日本エディタースクール編、日本エディタースクール出版部 ISBN978-4-8888-397-9
-----	--